# 2026 年度前期
# 授業評価アンケート結果

１．　公開期間
2026 年 11 月 3 日～

２．　公開対象
IPU 学生および教職員

３．　公開方法
以下 3 通りの方法で閲覧が可能です。
（１）　環太平洋大学ホームページ「本学の取組」
（２）　UNIVERSAL PASSPORT
※公開期間　2026 年 11 月 3 日～2027 年 3 月 31 日
（３）　図書館（館内に常設された閲覧用冊子）

４．　内容
授業評価アンケート結果をもとに、授業担当教員が「授業哲学」「総評」「次年度に向けての改善点」「学生へのメッセージ」等をまとめたものです。
授業の意義や内容をより深く理解するとともに、次学期以降の授業選択等に役立てることができます。

大学評価・IR 室

# 目次


■ 現代経営学科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

■ こども発達学科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41

■ 教育経営学科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60

■ 健康科学科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 106

■ 体育学科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 120

■ 競技スポーツ科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 148

■ 国際経済経営学科 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 172

■ スポーツ科学研究科【大学院】 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 219

## 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

現代経営　学科　　教員氏名　小堀　浩志

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1（注意） | | 項目2（関連） | | 項目3（自信） | | 項目4（満足） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| スポーツマーケティング論［週2］ | 33 | 27 | 81.8 | 4.67 | 0.37 | 4.74 | 0.34 | 4.70 | 0.36 | 4.70 | 0.28 |
| スポーツ産業論［週2］ | 76 | 62 | 81.6 | 4.38 | 0.55 | 4.30 | 0.66 | 4.32 | 0.63 | 4.46 | 0.60 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 全ての授業において、学生一人一人が『建学の精神「挑戦と創造」を実践できる』ことが、卒業後の社会人として求められることと考える。従って、毎回の授業の中で以下のことを学生に伝えていく。<br>1. 主体性:自ら学ぶ、常に自分が源として考え、意思決定をして、行動し、振返る。2. 自律性：自分を律する。 自分で自分を管理して生活、行動をする。3. 倫理：人として守るべき道。善悪・正邪の判断において普遍的な基準となるもの。道徳。モラルを身につける。<br>人は生涯学び続けることができる。学ぶ習慣がある人と、学ぶ習慣がない人は、人生において大きな違いとなる。大学生活の中で、自分の夢・ビジョンを抱き、目的・目標を明確にし、4年後に自分はどんな自分になりたいのか、そのために何を学び、何を体験していくのか。自分で計画を立て達成するというスモールステップを重ね、自信をもって社会に出て活躍できる人材を育成する。生涯学び続けるという考え方と習慣を、大学の学びの中で習得する。 自分の人生を自分で考える力を養う。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| スポーツ産業論<br>スポーツを単なる競技として捉えるのではなく、スポーツを取り巻く産業構造や市場、企業、地域社会との関係について幅広く学ぶことができる授業を提供した。スポーツ産業の現状や課題を理解するとともに、今後のスポーツビジネスの可能性について考える機会となる実施した。一方で、具体的な企業事例や実際のスポーツビジネスに触れる機会をさらに増やすことで、学んだ知識をより実践的に理解できると考えられる。<br>スポーツマーケティング論<br>スポーツにおける「顧客」「商品・サービス」「プロモーション」「スポンサーシップ」などのマーケティングの考え方を学び、スポーツをビジネスとして捉える視点を身につけることができる授業として、実施した。具体的なスポーツチームや企業の事例を通して、マーケティング戦略を考えることで、理論と実践を結びつけることができたと思う。今後は、学生自身がマーケティング施策を企画・提案する活動をさらに取り入れることで、実践力の向上につながると考えられる。<br>総合評価<br>両科目とも、スポーツビジネスを「産業」と「マーケティング」の両面から理解するための基礎科目として有効であると考える。今後は、企業・地域・スポーツチーム等との連携やケーススタディ、グループワークを充実させ、学生が「学んだことを実際のスポーツビジネスにどう活用するか」まで考えられる授業に発展させて生きたいと考える。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| シラバスに記載の評価基準に基づいて、評価をした。毎回の簡単な振返り課題やレポート課題を行い、授業の復習ができるように配慮した。また、予習ができるよう事前課題、調査については、学生の負担にならない程度の量を課した。課題の提出期限について、再三学生に伝えていたが、一部の学生は、なかなか守られていない。1年次での提出物の期限厳守など、基本的な習慣を徹底していくようメンターの先生方と相談したいと思う |
| 4. 学生へのメッセージ |
| 前期の学びを振り返り、皆さんそれぞれに多くの経験や気づきがあったことと思います。大学生活は、自ら学び、自ら動くことで大きな成長の機会に変わります。<br>これからも、自分の目標を見据えながら積極的に挑戦し、知識や経験を自分の力に変えていってください。<br>さらなる飛躍を心から期待しています。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

現代経営 学科　教員氏名 石原 秀樹

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 行政学 | 23 | 18 | 78.3 | 4.39 | 0.24 | 4.22 | 0.62 | 3.94 | 1.05 | 4.00 | 1.22 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

「行政学」では、入手が容易で、情報が新しく、かつ記述が平易な教科書を選び、その記述内容を私自身の中央省庁での勤務経験を交えて一層平易に説明することを心がけた。
国家公務員試験・地方公務員試験の出題傾向にも言及しながら、学生が科目全般を、項目の偏りなく一通り学べるよう留意した。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

「項目1（注意）」及び「項目2（関心）」はまずまずの評価となったが、「項目3（自信）」及び「項目4（満足）」は、教員として反省を求められる評価となったと受け止めている。
授業毎に振り返りレポートの提出を課し、提出されたレポートについては、AI に丸投げして作成されたものかどうかをを含めて、自分で考えたものかどうかを重視しして評価したことから、学生にとっては、自信や満足を損ねる結果となったものと考えている。
今後は、厳しい評価をせざるをえない場合でも、改善に向けての助言を工夫したい。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

課題を与えて学生各自に発表を求めると、皆、自分が調べたこと及び考えたことを活発に発言することができていた。その評価は、毎回の振り返りレポートへの評価に付加した。

4. 学生へのメッセージ

提出された振り返りレポートを読んで、行政学から知り得た事柄への学生諸君の新鮮な驚きを知り、私自身が学ぶことが多かったです。
拙い表現でもいいので、AIに頼らず、自分の言葉で自分が思ったことを表現してほしいと思います。

担当：教務課／大学評価・IR室

## 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

現代経営　学科　教員氏名　赤木　邦江

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| ビジネス心理学［週2］ | 18 | 17 | 94.4 | 4.47 | 0.48 | 4.35 | 0.70 | 4.18 | 0.85 | 4.35 | 0.46 |
| 基礎ゼミナールⅠ | 18 | 11 | 61.1 | 4.27 | 0.38 | 4.55 | 0.25 | 4.09 | 0.26 | 4.45 | 0.25 |
| フレッシュマンセミナー | 18 | 11 | 61.1 | 4.36 | 0.60 | 4.45 | 0.43 | 4.27 | 0.38 | 4.36 | 0.41 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| ・「基礎ゼミナールⅠ」では、高校から大学への移行、大学生活への適応と学修基盤を築くために、生活リズム、出席、学修習慣の定着を目指すよう指導。<br>学科の方針に合わせてメンター等による支援体制、早期相談の重要性、1年次から進路を意識する必要性、卒業要件の確認を特に重視。<br>クラスにおける仲間意識、チームワーク（協働意識）を醸成。 ・「フレッシュマンセミナー」では、他クラスとのグループ編成により、コミュニケーションを積極的に図れるように支援。 ・「ビジネス心理学」では、専門科目としてアクティブラーニング（3分間スピーチ、グループワーク、課題調査・発表など）を多く取り入れて、身近な実社会での事例により、興味・関心が持てるように推進。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| ・「基礎ゼミナールⅠ」「フレッシュマンセミナー」は、おそらく留学生のみならず、アンケートの実施の徹底が出来ていないのがまずは反省点である。口頭、クラスルーム、グループLINEでの案内をしているが、日頃の情報共有においても、学生自身が確認・徹底が出来ていない状況であり、その差は成績にも反映しているといえる。 ・「ビジネス心理学」は、履修学生の出席状況もよく、課題への取り組みもよくできていた。学生にとっても身近な消費者行動やバイアスの内容は積極的理解を促進出来ていたと考える。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| ・「基礎ゼミナールⅠ」の評価は、全クラス統一で、課題（授業後振り返りレポート）60%、受講態度（積極的取り組み・出欠）30%、発表等10%で成績評価。2名が60点に届かない学生がおり、全クラス統一での課題（レポート）提出の救済策（1年前期のみ）を実施。残念ながら1名はそれでも60点達せず。 ・「フレッシュマンセミナー」の評価は、同じく全クラス統一で、課題（授業後振り返りレポート）60%、受講態度（積極的取り組み・出欠）30%、読書感想文10%で成績評価。 3名が60点に届かない学生がおり、全クラス統一での課題（レポート）提出の救済策（1年前期のみ）を実施。残念ながら2名はそれでも60点達せず。 上記2科目の課題（レポート）は授業終了時、または帰宅後でも取り組める環境で、即座にAIでの評価点がでるため、低い場合には何度でもやり直せるが、学生の取り組み意識の差が出たと言える。 ・「ビジネス心理学」の評価は、試験48%、授業後レポート39点、受講態度・取り組み13点で成績評価。17名履修で上記のように皆真面目に取り組んでおり、S13名、A4名という高評価となった。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| 経済経営学部現代経営学科は、「経営」を基盤に自分の強みを知る・創る・築く学科である。基礎科目、教養科目、専門科目いずれも将来のキャリアに役立つ科目であり、組織への所属における就業の基本はもちろん、起業にむけての基礎をしっかり学ぶ機会である。目標とした職業への移行に向けて、幅広く学んでほしい。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

現代経営　学科　　教員氏名　大池　淳一

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1（注意） | | 項目2（関連） | | 項目3（自信） | | 項目4（満足） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 財務会計 | 34 | 34 | 100.0 | 4.62 | 0.24 | 4.59 | 0.42 | 4.26 | 0.61 | 4.38 | 0.47 |
| 財務諸表論Ⅰ［2年生～］ | 16 | 16 | 100.0 | 4.44 | 0.37 | 4.44 | 0.37 | 4.00 | 0.75 | 4.13 | 0.73 |
| ゼミナールⅠ（基礎）［秋入学生用］ | 1 | 1 | 100.0 | 4.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 4.00 | 0.00 | 4.00 | 0.00 |
| 簿記入門Ⅰ［Q1対面＋オンデマンド］ | 128 | 114 | 89.1 | 4.66 | 0.28 | 4.62 | 0.32 | 4.46 | 0.39 | 4.68 | 0.34 |
| 簿記論Ⅰ［Q1対面＋オンデマンド］ | 23 | 17 | 73.9 | 4.82 | 0.26 | 4.65 | 0.35 | 4.53 | 0.72 | 4.76 | 0.30 |
| 簿記論Ⅱ［Q2対面＋オンデマンド］ | 23 | 5 | 21.7 | 4.60 | 0.24 | 4.80 | 0.16 | 4.40 | 0.64 | 4.60 | 0.64 |
| 簿記入門Ⅱ［Q2対面＋オンデマンド］ | 98 | 20 | 20.4 | 4.60 | 0.34 | 4.55 | 0.45 | 4.35 | 0.43 | 4.60 | 0.34 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 授業で伝えるべき内容を100%定着させる。これは教員として当然のことだと考えこれまで教員という仕事をしてきた。高等学校で勤務した24年間も大学の教員になってからもその考えは変わらない。一生懸命授業を聞いてくれて、頑張ってくれて、それで内容を理解できないのは学生ではなく教える側の責任であると最初の授業で公言している。授業を受ける姿勢が悪いのであれば、きちんと受ける姿勢にさせるのが教員としての仕事であり、頑張ったからにはそれだけの成果を感じてもらいたい。「簿記」という科目は不思議な力を有しており、「簿記は人間を育てる」ものだと実感してきた。ただ記帳の技術を身につけるだけであれば会計ソフトに任せばすべて仕事をしてくれる。しかし人間にしかできない仕事や判断は必ず存在する。そのためには本学が育成を目指す「非認知能力」は絶対に欠かすことができない。検定取得を通じて非認知能力の3要素である「自分と向き合う力」「自分を高める力」はもちろん、協働学習を通じて「他者とつながる力」の育成も目指すのが私の授業の大きな特徴である。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| いわゆる一般的な大学の講義とは違い、「簿記入門Ⅰ・Ⅱ」「財務会計」「簿記論Ⅰ・Ⅱ」の科目は、学びの成果として検定試験に合格することを目指す授業であった。どの科目も受講者の学習歴の開きが大きく、どこに合わせて授業を進めていくべきかの判断は困難を極めた。そのような状況においても受講してもらう以上、受講者全員に合格してもらいたいという思いから、授業を受ける姿勢について特に徹底して指導した。その結果として多くの学生が真剣に授業に取り組み、テストに向けて学習する姿勢が素晴らしく、学習成果を試す確認テストでは高得点をとるものが多かった。学習目標に対して十分すぎる成果を出してくれていた。高校で簿記を習っていなかった者にとってはスタートが同じであるため、自分自身の頑張りがそのまま評価に反映される。そのためしっかり好成績という評価に表れていたことだろう。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| 簿記系の科目は日々の努力が成績に反映されることから、平素からの学習に対する姿勢が問われることとなる。多くの学生が日頃の小テストに向けてしっかり学習してきてくれており、授業の進度がかなり速いにも関わらず好成績を収める学生が多かった。簿記系科目の授業を受講している学生は「検定試験に合格したい」「簿記が出来るようになりたい」という意欲の高さが伺えた。その結果、規定の出席数の条件を満たしている学生には日々の頑張りをしっかり評価した。大学生になっても、いや大学生になったからこそ単位の修得だけを目指すのではなく、少しでも良い点数を、少しでも良い成績を目指す姿勢を持ち続けてもらいたい。次年度以後の科目も同様のスタイルで授業をおこなう。自分をもっと高めたい学生の受講を期待している。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| 高等学校での勤務時代から一貫していることは、授業を履修してくれている学生全員、誰一人として取り残されることなく、「簿記」を通じて知識や技術のみならず人間性をも高めてもらいたいと考えてきた。本学での授業においても決してその姿勢を崩すことなく授業をしてきたが、ほとんどの学生が私の予想をはるかに上回るほどに頑張ってくれたことに感動している。特に1年生の多くが「簿記入門Ⅰ・Ⅱ」を履修し、授業に集中して取り組む姿はとても印象に強く残っている。また、留学生の簿記に対する取り組みは本当に素晴らしいものであった。簿記系の学びでは本来育成することが難しい非認知能力3要素のうち「他者とつがなる力」も育ったのではないかと感じた。授業での履修が終わったものの、日商簿記検定に挑戦したいと思う学生は、遠慮なく研究室を訪ね個別指導を受けよう。合格するまでしっかり伴走したい。一生懸命授業に取り組んでくれてありがとう。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

## 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

現代経営　学科　教員氏名　大平　真紀子

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1（注意） | | 項目2（関連） | | 項目3（自信） | | 項目4（満足） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| キャリアサポート［BC留学生用］ | 21 | 21 | 100.0 | 4.86 | 0.12 | 4.90 | 0.09 | 4.81 | 0.15 | 4.81 | 0.15 |
| 基礎ゼミナールⅠ | 19 | 18 | 94.7 | 4.56 | 0.25 | 4.56 | 0.36 | 4.50 | 0.36 | 4.56 | 0.25 |
| フレッシュマンセミナー | 19 | 18 | 94.7 | 4.50 | 0.47 | 4.44 | 0.47 | 4.50 | 0.47 | 4.50 | 0.36 |
| 日本語学Ⅱ | 34 | 31 | 91.2 | 4.39 | 0.75 | 4.48 | 0.38 | 4.32 | 0.67 | 4.58 | 0.44 |
| キャリアデザインⅠ［BC留学生用］ | 107 | 96 | 89.7 | 4.60 | 0.45 | 4.63 | 0.42 | 4.60 | 0.43 | 4.66 | 0.41 |
| 日本語教育演習Ⅰ | 15 | 12 | 80.0 | 4.83 | 0.14 | 4.83 | 0.14 | 4.83 | 0.14 | 4.83 | 0.14 |
| 日本語教育実習Ⅰ | 15 | 12 | 80.0 | 4.75 | 0.19 | 4.75 | 0.19 | 4.75 | 0.19 | 4.92 | 0.08 |
| 日本語教育概論Ⅱ | 23 | 18 | 78.3 | 4.20 | 1.46 | 4.10 | 1.49 | 4.05 | 1.45 | 4.15 | 1.53 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 授業では一方通行にならないよう，できるだけ学生からの発話ができるような問いや学生主体の活動を取り入れている。また，学生同士がチームで取り組む課題もできるよう配慮している。チームで何かをする場合，単独でする場合には起きない問題も出てくる。チームでの活動がうまくいくときもうまくいかないときもあるが，それらはすべて学生の経験になると考える。実際の社会では誰かと連携を取りながら課題を進めていくものであるからだ。チームでの活動がうまくいかなかった場合もそれで終わりではなく，より良い着地点を考えてみてほしい。さらに，次につなげる糧にしてほしい。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| 全体的に高評価をいただいた。授業に興味を持って取り組み，概ね満足してくれていることがわかる。<br>特に日本語教育演習Ⅰ，日本語教育実習Ⅰなどの実践・実習を取り入れた科目については満足度が高い。資格を希望する学生にとって，実践的に学べることで授業力を身につけられる点が良いのではないかと思う。また，実践を通して知識や理解の定着にもつながると考える。<br>キャリアサポート，キャリアデザインなどのキャリア系科目も満足度が高い。留学生にとっても卒業後の進路は重要で，それを考える実践的な内容になっているからであろうと思われる。今後，留学生のキャリアも多様化すると思われるため，そういった学生に合った授業を展開していきたい。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| ほとんどの授業では毎回課題か予習・復習を課している。それらを着実にこなしていくことが必須である。授業を深く理解するためにはスライドの内容をそのまま理解するだけではなく，自らの理解を深めておくことが重要である。授業中の課題やグループワークや発表での出来栄えも加味されるため，集中して取り組んでほしい。また，授業中に積極的，意欲的に取り組んでいることも高評価につながる。これらに加え，小テストや課末試験の得点，アウトプット能力も評価対象となる。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| どの授業でも，楽しく有意義な学習を目標に授業作りをしています。そのためには，教員の努力も必要ですが，学生の皆さんの協力も必要です。私は，授業はそこに参加する全員が作るものだと思っています。ぜひ積極的に授業に参加しましょう。<br>授業を通して皆さんが成長していることを感じられます。これからも一緒に楽しい授業を作っていきましょう。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

現代経営 学科　教員氏名 田岡 希望

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 言語学 | 28 | 27 | 96.4 | 4.15 | 0.94 | 4.26 | 0.86 | 4.15 | 0.87 | 4.22 | 0.69 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

「授業のなかで、新たな気づきを得て、それを自分や自分の周りとどう関係しているか、授業以外の時間に考えていくことができる。」私は、今考えて気づいたことから、これまでを振り返ったり、これからを想像したりできるようにと、常に思い授業をしています。授業で学んだことを今後につなげられるような授業を心がけています。
「言語学」では、言語を多角的に捉える視点を育てることを目標としています。構造、認知、習得のプロセス、個人差など、さまざまな側面から言語を学ぶことにより、単なる知識の習得にとどまらず、自分自身の経験や周囲の出来事と結びつけて考える力を養うことが大切です。授業を通して、間違いを前向きに捉える姿勢や、学習者の多様な学び方への理解、科学的な知見に基づいた教育的判断力を身につけてほしいと考えています。これらの力は、日本語教師としての専門性を高めるだけでなく、学習者としての自己理解や、日常のコミュニケーションにおいても有効に働くものと捉えています。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

「言語学」は、知識としての内容が豊富で難しかったと感じる学生が多かったものの、全体的に高い評価をいただきました。講義のなかでの情報量が多い分、配布資料や提示資料の視覚支援にも気をつけるように心がけていました。また、留学生も多かったため、できるだけ日本人学生と留学生とのペアワーク・グループワークを多く取り入れ、それぞれの気づきを多く得られるように工夫しました。授業評価アンケートでも、「母語以外からの視点で考えることができた」という感想があり、安心しました。
ただし、項目3（自信の高まり）については、授業で得た知識や視点を、学生自身が十分に定着させ、活用できる実感を持てるよう、今後の改善が必要であると受け止めています。また、授業内の活動や振り返りについては、こちらが意図を十分に示しきれなかったために、取り組み方に違いが生じた面もありました。授業での学びが授業外にも自然に広がるよう、内容と方法の両面で引き続き工夫してまいります。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

シラバスに提示した基準によって、成績評価をおこないました（ 授業参加態度 20%・課題提出 20%・中間試験 30%・期末試験 30%→これらを点数化し本学の成績評価基準に沿って、評価しております）。授業参加態度では、授業への参加・授業後の振り返りコメントから適切に評価しましたが、授業内容だけでなく自分自身の経験もふまえて振り返ることができている学生がほとんどでした。中間試験・期末試験では、知識を問う問題と判断力を問う問題を出題しましたが、事前に配布した対策プリント等を参考によくできていました。ただし、留学生が多かった授業でもあるため、問題の表現の難易度や時間配分については、まだ改善の余地があると感じています。

4. 学生へのメッセージ

皆さんの学びたい思いにこたえられるように今後も授業改善に努めていきます。皆さんとも一緒に授業を作っていきたいと思っていますので、学びたい内容や疑問に思ったことなど遠慮なく教えてください。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

現代経営 学科　教員氏名 田口 雅弘

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| ゼミナールⅠ(基礎)［秋入学生用］ | 2 | 2 | 100.0 | 4.50 | 0.25 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 大学で学ぶ習慣と作法を身につける。中期目標（半年間）を具体的に立てて、目標を達成する習慣をつける。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| 高い評価をいただいたので、それを糧に今後も学生にしっかりと寄り添った授業を展開したい。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| 各自、しっかりと課題をこなし、自らの中期目標を実現できたと思う。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| これからも、半年先の自分がどのように成長しているかをイメージしながら、頑張ってほしい。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

現代経営 学科　教員氏名 平岡 師玄哉

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| スポーツイベント論［週2］ | 111 | 99 | 89.2 | 4.43 | 0.49 | 4.39 | 0.44 | 4.38 | 0.48 | 4.43 | 0.47 |
| スポーツ施設論［週2］ | 103 | 90 | 87.4 | 4.41 | 0.44 | 4.43 | 0.45 | 4.41 | 0.51 | 4.44 | 0.56 |
| 基礎ゼミナールⅠ | 15 | 13 | 86.7 | 4.38 | 0.39 | 4.38 | 0.39 | 4.38 | 0.54 | 4.46 | 0.40 |
| フレッシュマンセミナー | 15 | 13 | 86.7 | 4.38 | 0.39 | 4.38 | 0.39 | 4.31 | 0.52 | 4.31 | 0.52 |
| マーケティング総論［週2］ | 78 | 67 | 85.9 | 4.48 | 0.34 | 4.36 | 0.47 | 4.31 | 0.51 | 4.51 | 0.34 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

私の授業哲学は、知識の習得そのものを目的とするのではなく、その知識を使って社会をどう見るか、どう考えるかという「視点」と「思考力」を養うことにある。できるだけ実践的に社会を俯瞰し、現実社会で実際に起きている出来事を題材として検討する機会をつくることを心がけている。授業設計にあたっては、個人ワークやグループワークを活用しながら「情報提供→アウトプット→インプット」のサイクルを意識している。まず情報を提示したうえで学生自身に考えさせ、アウトプットさせる。そのうえで改めてインプットを行うことで、学びに対する興味・当事者意識を喚起するとともに、無理のない小さなステップを積み重ねながら理解が定着するタイミングを意識して設計している。マーケティング総論、スポーツ施設論、スポーツイベント論における店舗観察やイベント分析といった個人ワーク、時事的な話題を用いた事例検討、最終的な提案・企画書の作成は、いずれもこの哲学を具体化したものである。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

担当した5科目（マーケティング総論、スポーツ施設論、スポーツイベント論、基礎ゼミナール、フレッシュマンセミナー）は、いずれも概ね満足という結果を得ることができた。専門3科目では、店舗観察やイベント分析など身近な題材、時事的な話題（ワールドカップ等）、外部講師による実務家講話が『理解が深まった』『印象に残った』と高く評価され、STP・4P、フィットネスクラブマネジメント資格、安全管理義務といった専門知識も具体的に定着していることが自由記述から確認できた。一方で、スライドの進度が速くノートが追いつかない、週2回開講で欠席時の遅れを取り戻しにくいといった運営面の指摘もあり、次年度は資料配布・欠席者フォローを見直しを行いたい。基礎ゼミナールⅠとフレッシュマンセミナーは、専門知識よりも大学生活への適応やコミュニケーション力の育成が中心であり、学生からも前向きな感想が多く、一定の役割を果たせたと感じている。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

担当した3科目（マーケティング総論、スポーツ施設論、スポーツイベント論）は、いずれも絶対評価を採用しており、結果として比較的高い評価分布となった。要因としては、毎回の授業冒頭で『この授業を通じて何ができるようになるか、何を答えられるようになるか』という到達目標を明示し、授業展開の中でも到達してほしい点を繰り返し強調することで、学生自身に評価される観点を早い段階から意識づけできたことが大きいと考えている。目標を毎回言語化して共有したことで、レポートや期末課題（店舗分析、イベント企画書、資格関連の設問等）に取り組む際の的の絞り方が明確になり、到達目標に沿った成果を出しやすくなった。この積み重ねが、学生自身が理解度を自己点検しながら学修を進める意識づけにもつながり、結果的に評価にも影響を与えていたとも考えられる。一方で絶対評価である以上、設定した目標水準そのものが適切であったかは、次年度以降も継続して検証していきたい。

4. 学生へのメッセージ

マーケティング総論、スポーツ施設論、スポーツイベント論の授業評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。店舗観察やイベント企画といった、決して簡単ではない課題に、みなさんが自分なりの視点で粘り強く取り組み、考えをまとめてくれたことをうれしく思います。いただいた「スライドのペースが速い」「欠席した際のフォローがほしい」といった声は真摯に受け止め、資料の配布方法や欠席時のフォロー体制を来年度の授業に反映していきます。スポーツビジネスの現場は、教科書通りにはいかないことがほとんどです。今回の授業で身につけた「事例から考える力」「条件の中で企画を組み立てる力」を、これからの学びやキャリアにもぜひ活かしてください。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

現代経営 学科　教員氏名 片上 摩紀

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| キャリアサポート［BC留学生用］ | 21 | 21 | 100.0 | 4.86 | 0.12 | 4.90 | 0.09 | 4.81 | 0.15 | 4.81 | 0.15 |
| 総合日本語Ⅰ(基礎)［BC留学生用］ | 16 | 15 | 93.8 | 4.67 | 0.22 | 4.67 | 0.22 | 4.60 | 0.24 | 4.60 | 0.24 |
| 非認知能力育成Ⅱ［BC秋入学用］ | 17 | 14 | 82.4 | 4.14 | 0.55 | 3.93 | 0.21 | 3.71 | 0.92 | 3.79 | 0.45 |
| 日本語教授法Ⅱ | 16 | 13 | 81.3 | 4.69 | 0.37 | 4.62 | 0.39 | 4.62 | 0.39 | 4.69 | 0.37 |
| 日本語EX(文型・会話)②［BC秋入学用］ | 13 | 10 | 76.9 | 4.50 | 0.25 | 4.40 | 0.24 | 4.30 | 0.61 | 4.20 | 0.36 |
| 日本語EX(文型・会話)①［BC留学生用］ | 21 | 16 | 76.2 | 4.38 | 0.73 | 4.50 | 0.50 | 4.44 | 0.37 | 4.38 | 0.73 |
| 非認知能力育成Ⅰ［BC留学生用］ | 29 | 22 | 75.9 | 4.45 | 0.34 | 4.59 | 0.33 | 4.45 | 0.43 | 4.41 | 0.42 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

大学の学部で実施する日本語教育の目的は、「これまで学んできた日常の日本語に加え、専門の授業の受講する際に困らない日本語力を養成すること」だと考えています。そのために、「読む」「聞く」「話す」「書く」といった4技能を総合的に教えるだけではなく、グループでの話し合い方、プレゼンテーションスキルの育成、日本語のレポートの書き方まで、指導しています。
日本語教師養成科目については、理論を実践につなげるという視点を持ってもらうことを念頭に置いて、授業しています。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

ありがたいことに、ほとんどの授業で4.0を超えていたのですが、非認知能力育成Ⅱのみ、4.0を切っていました。こちらは、プレゼンテーション、グループワーク中心の
授業なのですが、「自信」「満足度」が低いことから、難易度的に難しく自信が持てるものではなかったのかもしれないと感じます。また、まだ1年生であることから、
プレゼンテーション・グループワーク・レポート執筆という難易度の高いことを達成するための基礎的な日本語教育を求めていた可能性も考えられるので、
次学期同じ授業を担当する際は、授業前アンケートを実施し、学びたい内容を把握してから授業に臨みたいと思います。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

私は、留学生向けの非認知能力育成科目、日本語科目、そして、日本語教師養成科目の3種類の科目を担当しています。
まず、非認知能力育成は、態度（話し合いの参加度や手を挙げた積極性等）、プレゼンテーション、提出物、レポート課題、ことばの小テストで成績評価をしました。プレゼンテーションとレポートは抽象的になりがちなので、事前に評価のポイントを伝えました。
次に、日本語科目については、語彙テスト、課ごとの復習テストなど客観的な評価が中心となります。その他、授業中の態度点、提出物なども成績評価に入れています。
最後に「日本語教授法Ⅱ」は、毎回の振り返りコメントや授業課題の提出が成績評価の中心となります。これらに加え、実際の授業実践など実践活動も成績評価に含めました。毎回の振り返り、授業課題の採点については、事前に採点基準を示してあります。”☒
☒

4. 学生へのメッセージ

日本語科目も、日本語教員養成科目も「理解」を「実践」につなげられるよう、いっしょに取り組んでいきましょう。
特に、留学生は、大学に進学し、急に言葉が専門的になり、困難を感じていることと思います。大学の授業を自信をもって受けられるよう、「使える」日本語力を身につけてもらえれば、うれしいです。

担当：教務課／大学評価・IR室

## 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

現代経営　学科　　教員氏名　北村　和久

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1（注意） | | 項目2（関連） | | 項目3（自信） | | 項目4（満足） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 財務会計 | 34 | 34 | 100.0 | 4.62 | 0.24 | 4.59 | 0.42 | 4.26 | 0.61 | 4.38 | 0.47 |
| 財務諸表論Ⅰ［2年生～］ | 16 | 16 | 100.0 | 4.44 | 0.37 | 4.44 | 0.37 | 4.00 | 0.75 | 4.13 | 0.73 |
| 簿記入門Ⅰ［Q1対面＋オンデマンド］ | 128 | 114 | 89.1 | 4.66 | 0.28 | 4.62 | 0.32 | 4.46 | 0.39 | 4.68 | 0.34 |
| 基礎ゼミナールⅠ | 17 | 15 | 88.2 | 4.40 | 0.77 | 4.53 | 0.65 | 4.20 | 1.36 | 4.47 | 0.52 |
| フレッシュマンセミナー | 17 | 15 | 88.2 | 4.60 | 0.64 | 4.40 | 1.04 | 4.27 | 0.86 | 4.60 | 0.64 |
| 簿記論Ⅰ［Q1対面＋オンデマンド］ | 23 | 17 | 73.9 | 4.82 | 0.26 | 4.65 | 0.35 | 4.53 | 0.72 | 4.76 | 0.30 |
| 簿記論Ⅱ［Q2対面＋オンデマンド］ | 23 | 5 | 21.7 | 4.60 | 0.24 | 4.80 | 0.16 | 4.40 | 0.64 | 4.60 | 0.64 |
| 簿記入門Ⅱ［Q2対面＋オンデマンド］ | 98 | 20 | 20.4 | 4.60 | 0.34 | 4.55 | 0.45 | 4.35 | 0.43 | 4.60 | 0.34 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 私は、簿記・会計の資格取得を目指す講義を第1として「わかりやすく」「飽きさせない」そして講義を受けている方を「資格に合格する」を前提に講義の組立を考え実施しています。資格を合格するだけを一辺倒な講義にするのではなく、実務でも知っておくと役立つ内容や予備知識を折り込むことで講義へのスパイスとして「飽きさせない」を心がけています。また、講義や問題の質問について「ひと言」で明確になるように心がけており、相手に対する伝える力を養うために簡単なたとえ話などを豊富に持てるように、簿記会計だけではなくいろんな分野にアンテナを張りながら、如何に簡単に相手へ伝わるのかを考えていきながら、また試験に対する最新の出題傾向と対策ができるように日々最新の情報を入手するようにしている。 |

| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| --- |
| 財務会計<br>日商簿記2級以上既取得者に対して税理士試験の簿記論での仕訳問題、試算表作成問題についての問題解法、考え方を中心に行っている。キャッシュ・フロー計算書、外貨建取引、デリバティブ取引といった項目を学習し今までの損計算書・貸借対照表だけではない財務3表を作成できる力を身につけることができたと思う。<br>簿記論Ⅰ・簿記論Ⅱ<br>簿記3級以上既取得者に対して税理士試験の簿記論の仕訳問題について問題の解法、考え方を中心に行い、なぜこのように計算するのか、この制度が成立した背景を入れることで、単に問題解答ができればいいのではなく、しっかりとその問題の背景をとらえられることを意識し講義進行ができたと感じている。また、答えが明確である内容について学生に問いかけることで時には、さらにハイレベルな質問をすることで講義を引き締めることもできたと思う。<br>基礎ゼミⅠ<br>大学での学びと今までの学び（小学校～高等学校）の違いや、課題への取組みに必要な調査や検索方法など、これからの大学での学びに必要なスキルを身につけ、今まで以上に物事に対して深く考えることや自分の意見を伝える力が身についたと感じられた学生が多かったと思われる。<br>フレッシュマンセミナー<br>座席を6人1グループとし、留学生を1名以上を配置したことで普段話さない方と多くの交流ができ、留学生との交流で他文化を知ることができたと実感している学生や、外部スピーカーの講話での体験談から自分自身の今後の可能性を感じたことで満足度も高いものになっている。 |

| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| --- |
| 「財務会計」<br>中間回と最終回での総まとめテストと毎回のミニテストをもとに評価をしています。内容は難易度の高いものであったが全体的によくできていた。<br>「簿記論Ⅰ」「簿記論Ⅱ」<br>毎回のミニテスト、オンデマンド課題の提出および最終回での総まとめテストをもとに評価をしています。簿記3級以上の既取得者と未取得者と区分し講義を実施したことで講義もスムーズに行うことができ、さらに上位級（日商簿記1級や税理士試験）の問題解答への取組んだことにより更なる学習への興味が湧いたと思われる。<br>「基礎ゼミⅠ」「フレッシュマンセミナー」<br>講義への「出席」と講義に対する「取組み」および「課題の提出」をもとに評価をしています。課題の未提出は大きく評価を下げることになっており期限内での提出を心がけてほしい。 |

| 4. 学生へのメッセージ |
| --- |
| 習い事、スポーツ、演奏やアルバイトでもそうですが、コーチや先輩（もしかすると後輩）から初めてやることを、教わったときに聴くだけ聴いて「ありがとうございました。」と言って帰りますか？<br>ほとんどの方は、その場ですぐに教わったことを自分でもやってみると思います。学んだら即実践ですね。<br>しかし残念ながら学業だけはなぜか「ありがとうございました。」で帰る方が非常に多いです。自分でやってみないと身につきません。特に簿記会計の世界はそうです。<br>昔の偉い先生が「簿記は記帳訓練主義」とおっしゃっていました。練習すればほとんどの方ができるようになります。<br>皆さんにとってすぐに簿記会計が役立つかどうかはわかりませんが、知らないより知っていた方がよい学問です。学んだ方はその学んだ知識でぜひ豊かな人生を歩んでください。そしてこれから簿記会計を学ぼうと考えている方へ、誰でもいつからでも簿記会計の学習を始めることができます一緒にやりませんか？ |

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

現代経営 学科　教員氏名 鈴木 真理子

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| ゼミナールⅠ(基礎)［秋入学生用］ | 2 | 2 | 100.0 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 |
| ゼミナールⅡ(応用)［秋入学生用］ | 4 | 4 | 100.0 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 |
| キャリアデザインⅠ［企業］ | 258 | 237 | 91.9 | 4.46 | 0.58 | 4.44 | 0.57 | 4.34 | 0.72 | 4.37 | 0.71 |
| プロジェクト・ゼロ［週2］ | 33 | 25 | 75.8 | 4.44 | 0.65 | 4.36 | 0.95 | 4.36 | 0.79 | 4.20 | 1.04 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

学生が受動的に知識を受け取るのではなく、社会とのつながりの中で自ら問いを持ち、他者と協働しながら学ぶ場をつくることを授業方針としています。自律性（自己決定感）・関係性（対人交流）・有能感を意識し、学生が選択し、対話し、役割を担い、成果を発表する機会を多く設けました。特に現代経営学科の学生には、企業・NPO・地域等との実践的な関わりを取り入れ、社会課題を自分事として捉え、企画・発信・改善までを経験できる授業設計を心がけています。また、多様な文化的背景をもつ学生が、互いの違いを学びの資源として活かせるよう配慮しています。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

「プロジェクト・ゼロ」では、公益財団法人 国際開発救援財団FIDRと連携し、ベトナムの飲料・工芸品を題材に、商品提案、広報、ブース設計、映像制作、学生調査等をチームで進めました。FIDRからの講演・中間発表のフィードバックを受けて改善を重ね、SDGsフェアでの実践から学会発表までつなげました。授業評価は「注意」4.44、「関連」4.36、「自信」4.36、「満足」4.20でした。実社会との関連や学習への関与は高い一方、満足度は他項目より低かったため、次年度は活動量と工程を整理し、各回の到達目標、進捗確認、振り返りをより明確にします。
「キャリアデザインⅠ」は258名の大人数授業ながら4項目4.34～4.46、「ゼミナールⅠ・Ⅱ」は全項目5.00でした。後者は全員留学生で回答者数が少ないため、数値だけでなく学生の反応も踏まえて改善を継続します。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

「プロジェクト・ゼロ」では、受講生のモチベーションは大変高く、自分たちで広告・宣伝、メニュー開発、イベントを企画・実行するというハードな内容でしたが、予想以上の成果を挙げました。今後、受講生たちが大学、学科のリーダーとなって、精力的に活躍してくれることと思います。 成績評価は、レポート30%、チームの成果30%、チームへの貢献度40%としましたが、ほとんどの受講生がそれぞれのリーダーシップを発揮し、主体的に取組みましたので、全体的に高い成績となりました。

「ゼミナールⅠ」「ゼミナールⅡ」の成績評価は、演習参加30%、レポート30%、プレゼン・成果報告書40%としましたが、全員が主体的に取組み、留学生ながら日本語での発表・レポート作成も素晴らしく、高い成績となりました。

4. 学生へのメッセージ

「プロジェクト・ゼロ」「ゼミナールⅠ」「ゼミナールⅡ」とも、チーム活動を通じて「主体性」「議論する力」「問題解決する力」を鍛え、社会で生きていく力、リーダーシップを身につけることを目的にしています。プレゼンテーションの機会も多く、人前で発表する事に自信がついたと大半の受講生たちが口にしておりました。来年度以降も、チームで何かを創り上げる力をつけたい学生さんをお待ちしています。

担当：教務課／大学評価・IR室

## 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

現代経営　学科　教員氏名　Jason　Witthaus

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1（注意） | | 項目2（関連） | | 項目3（自信） | | 項目4（満足） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 英会話［FE①］ | 51 | 51 | 100.0 | 4.22 | 0.56 | 3.98 | 0.92 | 3.76 | 1.24 | 4.04 | 1.02 |
| 英会話［FE②］+FE再履修者 | 53 | 49 | 92.5 | 3.88 | 0.83 | 3.92 | 0.87 | 3.88 | 0.95 | 4.04 | 0.68 |
| 英会話［BC日本人②］ | 34 | 31 | 91.2 | 4.39 | 0.56 | 4.45 | 0.38 | 4.13 | 0.82 | 4.45 | 0.51 |
| 国際交流実習Ⅰ（基礎） | 17 | 15 | 88.2 | 4.87 | 0.12 | 4.73 | 0.20 | 4.40 | 1.04 | 4.33 | 1.16 |
| 英会話［BC留学生②］ | 25 | 20 | 80.0 | 4.60 | 0.44 | 4.50 | 0.45 | 4.40 | 0.54 | 4.45 | 0.65 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| Students should walk into my classroom knowing it is a safe learning environment that will peak their intellectual curiosity and allow them to take the risks necessary to acquire new knowledge. Students should be given ample time and multiple opportunities to show they have acquired knowledge using a standards-based approach to assessment. Students should grow a passion for learning in my classroom that will create a growth-mindset and lifelong learning. Students’ studies in my class will foster a sense of themselves within a greater world view to help them become global citizens. Students will be active learners where they feel they have a voice to influence the learning in class. Students will begin to create a passion for learning where their inquiry drives a natural acquisition of knowledge. Students will know they are held to a high standard in my class and only their best effort will be accepted. Students will learn the importance of academic integrity. Lastly, students will have fun learning in my class and want to come to class knowing they have a dedicated teacher who cares about them. |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| FE1 英会話 - I must say thank you for leaving really useful feedback! Many students wrote about lessons helping their English understanding, enjoying learning through activities, alot about communicating with classmates, having fun, using computers, and improving their listening skills. One of my favorite comments to read was ”I learned that in order to communicate effectively in English, not just the words themselves are important, but also the will to communicate.” I think commuincation was the most common reference and this class worked well with the communication goals. I had such a great experience teaching this class and enjoyed my time communicating and learning with everyone in English! Thank you!<br><br>FE2 英会話 - This class had many students that were always very cheerful and fun to teach! Thank you to everyone who came to class and talked with me always trying their best to communicate in English with a smile! I loved that! The student comments mentioned the class being lively and fun and many wrote about improving areas like comprehension, prouniciation, listening, commuincation skills, and even confidence. I was very happy to read many students felt motivated to understand and use English in class! I think this comment sums it up best, ”At first, I was very nervous about speaking English, but I enjoyed every lesson so much that before I knew it, I was consciously trying to communicate during class.” This is the ultimate joy to read as a teacher! Thank you for coming to class and having fun and using English so much!<br><br>BC2 英会話 - I want to say thank you to everyone for their honest and impactful comments! I always enjoyed teaching this class and |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| FE1 英会話 - S = 100～90;  A = 89～80;  B = 79～70;  C = 69～60;  D = 59～40;  E = 40<<br>The class average was amazingly high! There was always quality work submitted and almost all students scored S or A! No students received a grade below C! Thank you for doing excellent work!<br><br>FE2 英会話 - S = 100～90;  A = 89～80;  B = 79～70;  C = 69～60;  D = 59～40;  E = 40<<br>Most students did their best and the class average was pretty high. There was some B and C grades, but only 1 student did not pass which was due to attendance. Students often submitted assignments that were a true pleasure of me to grade! Thank you to everyone for working hard on passing this course!<br><br>BC2 英会話 -  S = 100～90;  A = 89～80;  B = 79～70;  C = 69～60;  D = 59～40;  E = 40< |
| 4. 学生へのメッセージ |
| Learning a second language can change your life path! Living and learning here in Japan has certainly changed everything about me and my own path! As IPU is growing to become One IPU, I want to thank all the students that are taking the steps to becoming life-long learners and accept the challenge of second language learning. |

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

現代経営 学科　教員氏名 宇都宮 浩司

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 基礎ゼミナールⅠ | 13 | 13 | 100.0 | 4.15 | 0.44 | 4.23 | 0.33 | 3.92 | 0.69 | 4.15 | 0.59 |
| フレッシュマンセミナー | 13 | 13 | 100.0 | 4.08 | 0.69 | 4.00 | 0.77 | 4.15 | 0.90 | 4.00 | 0.62 |
| ゼミナールⅡ(応用)［秋入学生用］ | 1 | 1 | 100.0 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 |
| ゼミナールⅠ(基礎)（BC25秋編入学生用） | 13 | 12 | 92.3 | 5.00 | 0.00 | 4.92 | 0.08 | 4.92 | 0.08 | 5.00 | 0.00 |
| 中小企業論［週2］ | 52 | 44 | 84.6 | 4.50 | 0.48 | 4.36 | 0.78 | 4.39 | 0.65 | 4.48 | 0.57 |
| 消費者行動論［Q1対面＋オンデマンド］ | 116 | 61 | 52.6 | 4.49 | 0.45 | 4.51 | 0.51 | 4.43 | 0.64 | 4.54 | 0.54 |
| イノベーション論［週2］ | 80 | 37 | 46.3 | 4.30 | 0.43 | 4.38 | 0.40 | 4.32 | 0.38 | 4.41 | 0.40 |
| ゼミナールⅠ(基礎)［秋入学生用］ | 3 | 1 | 33.3 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 |
| ビジネスデータ分析［Q2対面＋オンデマンド］ | 112 | 27 | 24.1 | 4.70 | 0.28 | 4.70 | 0.28 | 4.67 | 0.30 | 4.59 | 0.54 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 一つの正解に早く・正確にたどり着くことは、ひとつの才能であるが、それで頭の良し悪しが判断できる訳ではない。外部から得た知識や感覚を、自分が持っているそれらと照らし合わせて、どう違うかという「差分」に気づくこと、およびそれによって自分のなかにある知識や感覚のバリエーションを増やすことが、自らの成長と学びにとって大切となる。そのような作業を繰り返し行い、理解の解像度を高めていくと「通り一遍の浅い理解」から脱して、深い理解に到達する。こうして深い理解に到達した「知の引き出し」を増やしていくと、人間性自体にも変化が起こる。物事を浅くとらえず、本質を捉えようとする習慣が身につくと、浅い話をしなくなり、結果として、人間関係が変わってくる。浅い話をしても面白くないので深い話ができる人と好んで付き合うようになる。そうなると、付き合う人間からさらに感化を受け、より深い話ができるように自然とトレーニングされていく。このループにはまると付き合うコミュニティが変わり、自分のスキルセットやコンピテンシーも変化する。そうした変化を起こすことのできる授業を展開することこそが私の授業哲学である。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| どの科目も予想より高い評価を得られたと感じている。とりわけ昨年度開講した科目について予想以上に評価されているように感じている。その背景として、本学の学生が専門的な学びの前提となる知識について、どの程度有しているのか、また、グループワーク等のアクティブラーニングに慣れているのか、といった多くの大学で10年以上前から改革している教授法の遅れを理解した上で講義を進めることができた部分が大きいのではないかと思料する。しかしながら、古い教授法が重宝されるという前提で専門科目を担当することは、大学人として問題がないわけではなく、評価の数値を求めて時代遅れで学生に無責任な教授法に戻すといった考え方に決して流されてはいけないことでもある。そうした学内しか通用しない考え方に囚われることなく、今一度、学生の学びと成長に対して自分自身が自信を持って取り組むことのできる教授法となるよう努めていく中で、すこしでも受講生の満足度を高めていかねばならないと強く思料する次第である。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| 基本的にいずれの科目は絶対評価を用いているため、毎回の講義姿勢がしっかりできている学生は、自然と成績が高くなっていたと思われる。出席しているだけで課題も真面目に取り組んでいない受講生は、確認テスト時において的外れな解答の羅列になることは必然であり、成績も低くなる。この傾向はすべての科目に共通しており、今後も続いていくのではないかと思われる。もっとも、相対評価で成績を出すようになれば、学生の学ぶ姿勢や課題への取り組む真剣度といったものも大きく変わるかもしれないが、現状では、絶対評価に基づく成績評価で進めていく所存である。もちろん、受講生の取り組む姿勢にバラツキのあること自体に問題があり、一言でも聞き漏らすともったいないと思わせることのできる授業になるよう努力していかねばならないことは言うまでもない。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| 大学での学びは、高校までのそれとは違い、ひとつの正解が与えられているわけではない。高校までであれば、ドリルをするようにひたすら一つの作業を繰り返すことで早く・正確に正解にたどり着くことができる。しかし、高校まで正解と思ってきた答えは、はたして本当に正解なのか。そのことに疑問を持つことから始めなければ、大学での学びはもとより、社会人になってからの学びには到底通用しない。「観点」とは、ものごとを切り取る“視点”や“見方”であり、そうした観点が多ければ多いほど、同じ事実でもより深く、立体的に理解できるようになる。「正解が一つしかない＝観点が少ない」と、判断は単線的となり、「白か黒か」に偏りがちとなる。観点を多くすることで、グラデーションや隠れた因果関係に気づき、問題解決の質も意思決定の精度も高まる。そうした意識で、学生は大学の学びと向き合うようにしてもらいたいし、そうなるように授業も工夫していく所存である。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

## 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

現代経営　学科　教員氏名　横内　浩平

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1（注意） | | 項目2（関連） | | 項目3（自信） | | 項目4（満足） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| キャリアマネジメント入門Ⅰ | 65 | 59 | 90.8 | 4.07 | 0.80 | 3.98 | 0.95 | 3.98 | 0.85 | 4.03 | 0.97 |
| 現代経営実践演習基礎Ⅲ | 27 | 23 | 85.2 | 4.33 | 0.97 | 4.29 | 0.79 | 4.25 | 0.85 | 4.29 | 0.71 |
| キャリアサポート［公務員］ | 33 | 28 | 84.8 | 4.86 | 0.19 | 4.86 | 0.19 | 4.86 | 0.19 | 4.86 | 0.19 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 4年生対象のキャリアサポート〔公務員〕では、公務員試験本番直前の4月からの授業スタートとなるため、一次試験直前期の問題演習に加え、二次試験対策の個別面接などの対策を行いました。今後も公務員試験の合格に直結するよう、変化する試験の状況にあわせて工夫・改善していきます。<br>キャリアマネジメント入門Ⅰ・現代経営実践演習基礎Ⅲでは、公務員試験では基礎となる政治・経済分野の授業を行いました。学生には負担となっているとの意見もありますが、毎回確認テストを行うなど、授業内容を繰り返し確認し知識が定着するようにしています。また、比較的時間のある1、2年生の時期だからこそ話せる現在起こっている政治や経済の背景などを話すことで、より興味を持ってもらえるようにしています。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| キャリアマネジメント入門Ⅰ<br>　⇒初めて知ることも多く覚えることが多い科目でもあるので、今後もさらに身近なニュースを話し興味を持ってもらい、小テストで知識を定着することができるようにしていきます。<br>現代経営実践演習基礎Ⅲ<br>　⇒授業では経済分野が主な内容だったので、現在進行しているインフレや消費税などの税金に関することなどを、身近でイメージしやすい内容をさらに含むことで、知識を定着できるようにしていきます。<br>　⇒半年後の公務員試験の学習開始に向け、4年生の試験状況や就職状況等に加え現在の公務員試験の状況等をより話すようにしていきます。<br>キャリアサポート（公務員）<br>　⇒面接や7月の試験に向け、模擬試験などの問題を解くことで、さらにモチベーションと学力の維持につなげるようにしていきます。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| キャリアマネジメント入門Ⅰ<br>　⇒公務員試験に関連する科目なので、定期試験の結果を評価の50%としています。<br>現代経営実践演習基礎Ⅲ<br>　⇒公務員試験に関連する科目なので、定期試験の結果を評価の50%としています。<br>キャリアサポート（公務員）<br>　⇒公務員試験に関連する科目なので、模擬試験の結果を成績評価に加味してします。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| これからも理解しやすく役立つ授業となるように、さらに改善を続けていきます。公務員試験は範囲が多くたくさんのことを学ばなければならないので大変ですが、多くの学生が苦手とする科目の中にも理解することで、得点につながる科目があります。みなさんの夢・目標を達成するために一緒に取り組んでいきましょう。毎回の確認テストについては、賛否があると思いますが、知識定着のためにも今後も継続していきます。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

現代経営 学科　教員氏名 歌代 哲也

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| ゼミナールⅠ(基礎)［秋入学生用］ | 1 | 1 | 100.0 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 |
| 現代経営論［週2］ | 113 | 99 | 87.6 | 3.92 | 0.94 | 3.96 | 0.93 | 3.93 | 0.98 | 3.99 | 0.92 |
| 国際経済学［週2］ | 46 | 30 | 65.2 | 4.43 | 0.38 | 4.27 | 0.53 | 4.23 | 0.45 | 4.40 | 0.37 |
| 金融論［週2］ | 16 | 10 | 62.5 | 4.80 | 0.16 | 4.90 | 0.09 | 4.50 | 0.45 | 4.90 | 0.09 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

授業だけでなく、何事も「正しい方向にむかって、適切な努力をすること」。学修も、もちろん同じです。
専門が金融なので、「実際にはどうなのか」を重視します。
目的をもって受講してもらうのが一番ですか、現実的には、単位数やら時間割の都合やらで受講している学生も少なくないでしょう。
そうであっても、受講した学生が、毎回、1つでも「今日受講してよかった」と思える内容にしていくこと……これが講義に対する私の姿勢です。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

今期よりクオーター制が導入され、学生は週2回、指定された曜日・時限に授業を受講することとなりました。学生にとっては時間割上の制約が大きくなり、その影響もあってか、国際経済学と金融論の受講者数は昨年度の半数以下となりました。
一方で、少人数となったことで、学生一人ひとりの理解度や学習の進捗状況を把握しながら授業を進めることができました。両科目とも授業評価が比較的高かったのは、こうしたきめ細かな対応が可能になったことも一因ではないかと考えています。
現代経営論については、外部講師による講義を中心とする科目であり、私は主として講義の調整や補足説明を担当しました。特に、外部講師の説明だけでは学生に伝わりにくい内容について、他の担当教員とも協力しながら、具体例を交えた解説や補足を行い、学生の理解を促すよう努めました。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

成績評価は、授業への参加過程と理解度の双方を確認することを目的として、「プロセス評価」と「理解度評価」を組み合わせて実施しています。
具体的には、ノート提出や毎回の確認テストなどを通じて授業内容の継続的な理解状況を確認するとともに、期末試験において総合的な理解度を評価する方法を採用しています。
近年は生成AIの利用が急速に広がっていることから、課題作成等において学生自身が考え、理解したうえで学習を進めているかという点も重視しています。そのため、提出物の内容だけでなく、授業内での確認テストや期末試験の答案なども含めて、総合的に理解度を判断するよう努めています。
今後も学習過程と理解度の両面を確認できる評価方法を継続していきたいと考えています。

4. 学生へのメッセージ

今期から100分授業とクオーター制が導入され、授業の受け方も大きく変わりました。学生の皆さんには、時間割の組みやすさや単位の取りやすさだけでなく、自分の専門分野や所属するコースでの学びを意識し、体系的に授業を履修してほしいと思います。
一方、私たち教員にとっても、100分・14回という新しい授業形態のもとで、どのような講義の進め方が効果的なのか、まだ模索しているところです。よりよい授業をつくっていくために、学生の皆さんと一緒に考え、工夫していきたいと思います。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

現代経営 学科　教員氏名 古松 丈周

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 基礎ゼミナールⅠ | 18 | 18 | 100.0 | 3.83 | 0.92 | 3.89 | 0.99 | 3.89 | 0.99 | 4.00 | 0.78 |
| フレッシュマンセミナー | 18 | 18 | 100.0 | 4.00 | 1.00 | 4.11 | 0.88 | 4.11 | 0.88 | 4.11 | 0.88 |
| 統計学基礎 [週2] | 15 | 12 | 80.0 | 4.17 | 0.64 | 4.08 | 0.58 | 4.08 | 0.58 | 4.25 | 0.52 |
| ミクロ経済学 [再履修者用][週2] | 39 | 31 | 79.5 | 4.31 | 0.90 | 4.25 | 0.81 | 4.00 | 1.19 | 4.31 | 1.09 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学(または授業方針) |
| --- |
| (1)理解しやすい授業、(2)復習等をしやすい授業、(3)次に繋がる授業となるように心がけています。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| 統計学基礎、ミクロ経済学、基礎ゼミナール、フレッシュマンセミナーを担当しました。<br>統計学基礎については、数学に苦手意識のある学生でも取り組めるように配慮しました。<br>ミクロ経済学については、数学的説明を控えて、経済学的思考を身に付けることに重点を置きました。<br>基礎ゼミナール、フレッシュマンセミナーについては、学生が取り組める環境作りを念頭に取り組みました。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| 成績評価については、講義科目については、毎回の課題、そして最後のまとめ課題を成績評価の対象とした。具体的な課題内容については、今後も、学生がどのような学力を身に付けているのか、客観的に評価できるよう改良を重ねてゆきたい。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| 多くの学生が授業、そして課題にしっかりと取り組んでくれました。こちらにもまだまだ力不足の部分があると思いますが、今後もよりよい授業ができるように努力しますので、学生のみなさんも積極的に授業に臨んで頂けると嬉しいです。 |

担当:教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

現代経営 学科　教員氏名 江口 尚文

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 人的資源論［週2］ | 13 | 9 | 69.2 | 4.89 | 0.10 | 4.89 | 0.10 | 4.89 | 0.10 | 4.89 | 0.10 |
| 基礎ゼミナールⅠ | 18 | 12 | 66.7 | 3.92 | 1.08 | 3.83 | 0.81 | 3.83 | 0.97 | 3.83 | 1.14 |
| フレッシュマンセミナー | 18 | 12 | 66.7 | 3.92 | 0.58 | 3.67 | 0.72 | 3.83 | 0.81 | 4.00 | 0.67 |
| 経営組織論［週2］ | 38 | 24 | 63.2 | 4.50 | 0.42 | 4.63 | 0.23 | 4.46 | 0.58 | 4.67 | 0.22 |
| 経営戦略論［週2］ | 58 | 32 | 55.2 | 4.13 | 0.67 | 4.13 | 0.73 | 4.09 | 1.02 | 4.22 | 0.80 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 単なる知識の習得にとどまらず、「使える知識」の「修得」にこだわる。そのために、知識の伝授というよりも「理解する力」「考える力」を、どのようにして構築するか試行錯誤している。空論ではない現実的な授業とするために、多くの事例の活用を心がけている。 |

| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| --- |
| 経営組織論：オンデマンド等、本学の授業の構成を知らなかったため、量的な不十分に陥り、申し訳ないと思っている。<br>経営戦略論：オンデマンド等、本学の授業の構成を知らなかったため、量的な不十分に陥り、申し訳ないと思っている。<br>人的資源論：オンデマンド等、本学の授業の構成を知らなかったため、量的な不十分に陥り、申し訳ないと思っている。<br>基礎ゼミナール：もっと学生たちと相互作用する時間を取るべきだったと反省している。<br>フレッシュマンセミナー：もっと学生たちと相互作用する時間を取るべきだったと反省している。 |

| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| --- |
| 経営組織論：熟慮して評価したつもりである。<br>経営戦略論：熟慮して評価したつもりである。<br>人的資源論：熟慮して評価したつもりである。<br>基礎ゼミナール：どのような尺度で評価するかが今後の課題になると考える。<br>フレッシュマンセミナー：どのような尺度で評価するかが今後の課題になると考える。 |

| 4. 学生へのメッセージ |
| --- |
| 学ぶことは楽しいものです。高度な学びを楽しくできるよう常に努力していきますので、学ぶ醍醐味を十分に味わってください。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

現代経営 学科　教員氏名 佐藤 典子

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| ゼミナールⅠ(基礎)［秋入学生用］ | 1 | 1 | 100.0 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 |
| ゼミナールⅡ(応用)［秋入学生用］ | 1 | 1 | 100.0 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 |
| キャリアデザインⅠ［企業］ | 258 | 237 | 91.9 | 4.46 | 0.58 | 4.44 | 0.57 | 4.34 | 0.72 | 4.37 | 0.71 |
| ビジネスコーチング | 39 | 35 | 89.7 | 4.71 | 0.26 | 4.74 | 0.19 | 4.66 | 0.40 | 4.77 | 0.23 |
| キャリアサポート［企業］ | 76 | 59 | 77.6 | 4.58 | 0.41 | 4.58 | 0.41 | 4.44 | 0.65 | 4.56 | 0.55 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 本人が学ぶ姿勢があってこそ、初めて学んだことが身に付くと考える。Self Determination Theoryによると、人がモチベーションを上げるには自己裁量、能力が身に付く、人間的なつながりがあることの3つが鍵となる。それを体現する授業を提供したい。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| キャリアデザインについては、上の表にはないが、「関心がある」については満足とやや満足を足すと91%、「ニーズに合っている」については90%だった。例年前期の評価は85パーセント前後なので、評価がアップしていると推察できる。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| 成績評価については、キャリアデザインもキャリアサポートも、授業開始日に点数配分を伝えている。出席態度と提出物によって成績を上げることが明確になっており、それを遵守すると上位の成績が得られる。デザインは卒業必須授業であるから、担当教員間でディスカッションを重ねて綿密に成績を付与している。またサポートは企業就職希望の4年生が対象なので、キャリアセンターが対面で彼らの就活状況が把握できて、円滑な支援に結びついている。また、サポートにおける成績分布の例を出すと、Sが27. 6%、Aが27. 6%、Bが14. 5%、Cが17. 1%となっている。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| 人生で一度しかない大学生活の間に、いろいろな経験をしてほしい。授業料の何倍も取り戻す気持ちで臨んでほしいし、ぜひ留学をして視野を広めてほしい。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

現代経営 学科　教員氏名 三垣 雅美

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 英会話 [FC①] | 27 | 27 | 100.0 | 4.26 | 0.56 | 4.30 | 0.36 | 4.04 | 0.63 | 4.30 | 0.43 |
| 英会話 [BC日本人③]＋再履修者用 | 31 | 24 | 77.4 | 4.12 | 0.99 | 4.00 | 1.44 | 4.00 | 1.28 | 4.08 | 1.43 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

英語は言語の1つであり、コミュニケーション手段の単なるツールです。発音が上手ならば、文法のミスがなければ、たくさんの単語を知っていれば、それはそれで相手に伝えやすいでしょう。しかし、そういった条件が整っていなくても、「伝えたいことがある」「伝えたいという強い気持ちがある」のならば、パーフェクトな英語でなくても十分だと思います。つまり、肝心なのは、伝える側の工夫だと考えます。
授業では、伝えるべき内容をひとまず与えますが、学習者一人ひとりが、持てる力を十分に発揮し、コミュニケーションを積極的に取ろうとする態度を向上させてもらいたいと考えています。発音が下手でも、文法のミスがあっても、知らない単語だらけでも、目の前の人と英語を通じて分かち合いたいというコミュニケーションの原点を大切に、授業を展開していきます。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

英会話では、こども発達学科1組と現代経営学科3組を担当しました。こども発達学科の1組の皆さんは、どの学生も明るく前向きに取り組んでおり、私も授業をするのがワクワクでした。とりわけ、こども発達学科1組の素晴らしいことは、欠席がないということです。27人の履修登録者がいて、何かの理由による欠席が片手ほどしかなかったことは、これまで見たことないほどの軌跡です。それだけ、皆さんのモチベーションが高かったのだと思います。私こそ、楽しい授業をさせてもらいました。4.3という満足度の評価をいただき、大変光栄です。ありがとう。
現代経営学科3組の皆さんは、英語の勉強が好き、あるいは得意という人ばかりではないことはわかっていましたが、どの学生も一生懸命に取り組んでいくれました。中には、授業の雰囲気をよい方向へ持って行ってくれる学生もいて、助かりました。そして、多くの学生が最後のプレゼンテーションについては、自分らしいプレゼンをしてくれました。4. 08という満足度は、英語苦手意識を少しだけ克服できた証として、受け取っておきます。ありがとう。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

英会話については、第1回目の授業で説明した通りです。課題（つまり宿題）40%、授業への参加30%、プレゼンテーション30%です。授業への参加は、授業の中で、教師からの問いについて、挙手をした回答してくれた回数をカウントしていきました。よって、授業を一生懸命聞き、能動的に授業に参加してくれた人は高い得点をとっています。答えが正解でなくとも、それは構いません。とにかく授業にアクティブに参加する、という姿勢で臨んでもらいたかったし、そのような学生を高く評価していきました。プレゼンテーションに関しては、5観点各6点、30点満点のルーブリックを共有して、それに沿って評価を行いました。英語のプレゼンテーションの準備時間が限られる中、個々に指導できる時間はありませんでしたが、大変仕上がりもよく、それぞれが一生懸命準備してくれていました。素晴らしい発表がたくさんありました。多くの学生は、20～25点をとっています。点数は、グーグルクラスルームの各課題から返却しています。

4. 学生へのメッセージ

学生の皆さんは、英語が好きか否かに関わらず、大学入学までは「英語学習をやらされていた」という思いは、多少なりともあったと思います。しかし、これからは、英語学習を楽しんでもらいたいと思います。英語を学ぶことによって広がる世界、思考の厚み、多様性に富む友人関係を楽しみに、マイペースでよいので、毎日少しずつ、英語のリスニングをしたり、英語を口に出して発音したりして、断続的に英語に触れる時間を確保してください。そのお手伝いが、わたしの英語の時間でできたらよいと願っています。

担当：教務課／大学評価・IR室

## 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

現代経営　学科　　教員氏名　小川　正人

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1（注意） | | 項目2（関連） | | 項目3（自信） | | 項目4（満足） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| ゼミナールⅠ（基礎）（BC25秋編入学生用） | 12 | 12 | 100.0 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 |
| ゼミナールⅠ（基礎）［秋入学生用］ | 3 | 3 | 100.0 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 |
| ゼミナールⅡ（応用）［秋入学生用］ | 4 | 4 | 100.0 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 |
| 地理・地政学［週間オンデマンド］ | 574 | 234 | 40.8 | 4.49 | 0.55 | 4.47 | 0.60 | 4.46 | 0.62 | 4.49 | 0.56 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 私は、大学とは本来、自由に研究し、議論し、異なる価値観に出会い、新しい考え方や社会のあり方を提示する場だと考えています。しかし現在は、社会が求める人材像や教育成果への対応が重視され、大学教育もさまざまな制度や基準に縛られるようになっています。だからこそ、大学で必要なのが「リベラルアーツ（教養）」です。大学で学ぶ目的は、就職活動のための表面的な「ガクチカ」をつくることだけではありません。幅広い教養を身につけ、「人間とは何か」「どのような社会が望ましいのか」「自分はどう生きるのか」を、自分の頭で考えることが大切です。自分で考えることをやめれば、知らず知らずのうちに今ある社会の仕組みや価値観を「当たり前」として受け入れ、自分をそこに合わせるだけになってしまいます。社会に適応するだけでなく、社会を問い直し、新しい可能性を考える力を身につける。そのために教養が必要なのだと思います。私の授業では、一つの「正解」を覚えることよりも、「なぜだろう」「本当にそうなのか」「別の見方はないか」と問い、自分で考えることを大切にしています。「正解を求める授業」ではなく、「問い続ける授業」。そして、これからの未来を想像する授業。それが、私が目指している授業です。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| 学生のみなさんからの授業評価を見ると、全体として高い評価をいただいており、大変嬉しく思います。ご回答いただいたみなさん、ありがとうございました。<br>「地理・地政学」は受講者が多いため、今回初めて完全オンデマンド形式で実施しました。一方、集中講義のカテゴリーに分類されたことから、授業評価の対象外だと受け止めた学生も多かったのか、回答数が少ない結果となりました。この点については、今後より多くの学生の意見を授業改善に反映できるよう、教務委員会や教務課にも相談したいと考えています。学生のみなさんから寄せられた意見を大切にしながら、今後の授業改善につなげていきたいと思います。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| 成績評価については、第1回の授業オリエンテーションで示した評価基準に基づいて算出しています。「S評価を何%にする」といった相対評価ではなく、課題の内容や提出状況などを基準とする絶対評価を採用しています。したがって、受講者数や他の学生の成績によって評価が左右されることはありません。すべての受講者について、同じ基準に基づき、公平・公正に評価しています。「地理・地政学」は受講者が非常に多いため、今回はオンデマンド形式で実施しましたが、課題は単に「提出すればよい」というものではありません。提出の有無だけでなく、課題にどのように取り組み、授業内容を踏まえて自分なりに考えているかも評価の対象となります。成績はもちろん大切ですが、授業を受ける目的が、課題を提出することや成績を得ることだけになってほしくはありません。成績は、授業への取り組みと学びの成果を、あらかじめ示した基準に基づいて評価した結果です。以上の方針に基づき、成績については責任をもって公平・公正に評価しています。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| 高校までの「中間・期末テストのため」「受験のため」「内申書のため」、あるいは「親のため」の勉強ではなく、大学では、ぜひ「自分のため」「自分の将来のため」に学んでほしいと思います。教育は、未来への投資です。そのために大切なのは、「疑問をもつ」「自ら調べる」「仲間と話し合う」「自分の考えを伝える」力を身につけることです。正解のない問いに向き合うことは、決して簡単ではありません。しかし、自分で問いを立て、考え、調べ、他者と意見を交わしながら答えを探していくことは、学ぶことの大きな楽しさでもあります。誰かに強いられる「勉強」ではなく、自ら学ぶことを楽しむ「楽習」**へと変えていってください。そして、大学での学びを通して、卒業後も役立つ一生の素養を身につけてほしいと思います。また、AIを活用することは、これからの時代に必要な力の一つです。私もAIの活用そのものを否定するつもりはありません。しかし、提出された課題の中には、AIが生成した文章を明らかに「丸写し」したと思われるものもありました。大切なのは、AIに答えを出してもらうことではなく、AIも一つの道具として活用しながら、自分自身で考え、判断し、自分の言葉で表現することです。大学での学びにおいて、最後に問われるのは自分自身です。自分の良心に従い、自分の学びに責任をもち、自信をもってさまざまな問いに立ち向かってください。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

こども発達 学科　教員氏名 宮原 舞

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| ピアノ実技Ⅰ | 2 | 2 | 100.0 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 |
| 基礎ゼミナールⅠ | 1 | 1 | 100.0 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 |
| 幼児と表現 | 50 | 48 | 96.0 | 4.31 | 0.51 | 4.35 | 0.52 | 4.19 | 0.61 | 4.29 | 0.50 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 下記の3点が実現できる授業を展開したいと考えている。<br>（1） 学生が新たな知見・興味・関心を発見し、自身の成長を実感できること<br>（2） 学生の興味・関心や学習状況を把握しながら、ニーズに合った授業を展開すること<br>（3） 学生同士が意見交流や協働を行い、他者の視点から学べる機会を設けること |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| 「ピアノ実技Ⅰ」では、受講生の技能や目標に応じて個別に課題を設定し、授業内での指導と授業外での自主練習との繋がりを大切にした指導を行った。授業評価アンケートでもピアノ演奏への自信や興味の高まりが見られ、個々の学習状況に応じた授業展開が一定の成果につながったと考える。<br>「基礎ゼミナールⅠ」は、受講生のニーズに合わせて課題や授業の実施方法を柔軟に変更しながら進めたことが、高い満足度を得られた理由であると考える。<br>「幼児と表現」では、造形表現、音楽表現、身体表現など、学生自身が実際に体験しながら領域「表現」について学ぶ活動を多く取り入れた。授業評価アンケートでは、多様な表現方法への理解に加え、子どもの視点や感性、個性を尊重することの大切さ、保育者としての関わり方について学んだという記述が多く見られた。4項目の中で「自信」に関する項目が比較的低い数値となっているため、授業内容への興味・関心が自信につながるよう改善していきたい。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| シラバスに記載している配点に基づき評価を行った。<br>「ピアノ実技Ⅰ」は、個々の目標に応じた課題設定と授業の展開を行ったため、技能の到達レベルではなく、それぞれに設定した課題の達成度や授業内外での取り組みを評価した。受講生2名ともが意欲的に課題に取り組み、個別の目標を達成したため、高い評価となった。<br>「基礎ゼミナールⅠ」は、授業への取り組みと各回の課題の達成状況を評価した。<br>「幼児と表現」は、授業への取り組み、課題作品、定期試験を総合して評価した。作品の完成度や表現技能のみを評価するのではなく、各活動への主体的な取り組みや、活動を通して得た学びを言語化することも評価対象とした。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| 授業を通して習得した知識・技能が今後どのように花開くかは、受講生の皆さん次第です。授業で学んだこと・考えたことを大学の中だけで完結させず、実習や地域での活動、将来の仕事など、さまざまな場面で実践してみてください。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

## 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

こども発達　学科　教員氏名　橘髙　真紀子

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1（注意） | | 項目2（関連） | | 項目3（自信） | | 項目4（満足） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 保育内容「環境」指導法［FC2522組用］ | 25 | 25 | 100.0 | 4.56 | 0.33 | 4.52 | 0.33 | 4.52 | 0.49 | 4.64 | 0.23 |
| 保育内容総論 | 52 | 51 | 98.1 | 4.46 | 0.63 | 4.38 | 0.74 | 4.37 | 0.69 | 4.42 | 0.63 |
| 幼児と環境 | 50 | 48 | 96.0 | 4.40 | 0.36 | 4.27 | 0.61 | 4.02 | 0.65 | 4.33 | 0.47 |
| 保育内容「環境」指導法［FC2521組用］ | 27 | 25 | 92.6 | 4.23 | 0.95 | 4.23 | 0.87 | 4.12 | 1.03 | 4.23 | 0.95 |
| キャリアデザインⅠ［企業］ | 258 | 237 | 91.9 | 4.46 | 0.58 | 4.44 | 0.57 | 4.34 | 0.72 | 4.37 | 0.71 |
| キャリアサポート［企業］ | 76 | 59 | 77.6 | 4.58 | 0.41 | 4.58 | 0.41 | 4.44 | 0.65 | 4.56 | 0.55 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

・専門的知見を教授するとともに、幼児教育の実践に即した活動を組み込み、理論と実践を結び付けながら省察を促す授業を行う。
・クラスルームでのリアクションペーパーを手掛かりに、学生の問いや各自が調べた成果を次回授業で共有し合い、相互の対話を通して深い学びを実現することを目指す。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

幼児と環境
領域「環境」は、子どもが身近な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を育む領域です。授業では、この理論を踏まえつつ、1年生の皆さんにも保育者として「好奇心」や「探究心」を大切にしてほしいという思いを込めて進めました。フィールドワークや夏野菜の栽培活動、調理実習などの実践は、そのような「心」を育む契機になったのではないかと感じています。

保育内容総論
授業では「思考を深めること」に焦点を当てて取り組みましたが、パラバルーンによる「個の育ちと集団の成熟」や、新聞遊びのワークショップ（発達年齢を踏まえた遊びの提供）、紙芝居製作による「多様性」の学びなどのように、さらに実践に即した活動をより多く取り入れる工夫が今後の課題であると感じています。

保育内容「環境」指導法
認定こども園での模擬保育では、各グループが相談を重ね、子どもの「好奇心」や「探求心」を引き出す楽しい活動を提供できたのではないかと考えています。先生方からも高い評価をいただきましたので、この経験をぜひ自信につなげてほしいと思っています。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

1回目授業のシラバス説明でのお知らせ通りで評価させていただいてます。（課題提出は期限が過ぎても受け付け評価しております。しかしながら公平公正を保つため、減点対象としています。

4. 学生へのメッセージ

保育者を目指す皆さんにとって有益な学びの時間を提供したいという思いで取り組んでいます。前期の自らの反省や、皆さんからいただいた評価や感想を踏まえ、今後さらに授業をブラッシュアップしていきたいと考えています。これからも共に学び合いながら、成長していきましょう。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

こども発達 学科　教員氏名 後藤 由佳

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 次世代教育学［FC］ | 54 | 52 | 96.3 | 3.88 | 0.87 | 3.83 | 1.03 | 3.90 | 0.82 | 3.88 | 0.83 |
| 幼児と表現 | 50 | 48 | 96.0 | 4.31 | 0.51 | 4.35 | 0.52 | 4.19 | 0.61 | 4.29 | 0.50 |
| 環トレ［FC･FE用］ | 3 | 2 | 66.7 | 4.50 | 0.25 | 4.00 | 1.00 | 4.00 | 0.00 | 3.50 | 2.25 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 私の授業哲学は、「あなたの夢・挑戦・達成へ」という思いを大切に、学生一人ひとりの未来への一歩を支えることです。未来を実現するためには、今この瞬間の学びや経験を一つひとつ積み重ねていくことが大切です。大学時代だからこそ得られる学びや出会いを大切に、その時間を思いきり楽しんでほしいと考えています。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| 保育士資格は、児童福祉法で定められた国家資格であり、健康科学科の柔道整復師とは異なり、国家試験を経ず、指定養成施設において所定の課程・科目を修め、卒業することで取得できます。その責任を自覚し、保育士・幼稚園教諭の養成の質の向上に真摯に取り組みたいと考えています。授業実践や教育・研究活動を通して、両職種の社会的地位と魅力の向上に貢献していきます。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| こども発達学科の皆さんには、諦めず、将来の可能性を広げるためにも、保育士資格・幼稚園教諭免許の取得を目指してほしいと考えます。保育士不足への対応が求められる中でも、養成の質大切にし、専門職としての地位と魅力の向上につなげることが重要です。本学での教育や研究活動を通して、養成の質の向上と保育・教育現場との連携・協働に貢献していきます。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| 保育者の質向上には、皆さんの意欲的な授業への取り組み姿勢と授業時間外での準備学習（予習・復習）が欠かせません。また、四年制大学では、これまでよりもソーシャルスキルの高さが必要となります。卒業後「折れない、やめない」心で長く活躍するため、少しずつ大人相手のコミュニケーションスキルを醸成していきましょう。希望に満ちた皆さんの未来にむかって、力強く飛躍してください。応援しています！ |

担当：教務課／大学評価・IR室

## 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

こども発達　学科　教員氏名　三好　啓子

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1（注意） | | 項目2（関連） | | 項目3（自信） | | 項目4（満足） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| ピアノ実技Ⅰ | 4 | 4 | 100.0 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 |
| 器楽演習Ⅱ | 11 | 11 | 100.0 | 4.36 | 0.41 | 4.45 | 0.25 | 4.55 | 0.25 | 4.45 | 0.25 |
| 器楽演習Ⅲ［FC］ | 10 | 10 | 100.0 | 4.60 | 0.24 | 4.30 | 0.41 | 4.10 | 0.49 | 4.10 | 0.69 |
| キャリアサポート［幼保］ | 19 | 19 | 100.0 | 4.53 | 0.78 | 4.42 | 0.88 | 4.47 | 0.78 | 4.47 | 0.88 |
| 器楽演習Ⅱ | 12 | 11 | 91.7 | 4.18 | 1.24 | 3.91 | 1.54 | 4.09 | 0.99 | 3.91 | 1.36 |
| キャリアデザインⅠ［幼保］ | 24 | 22 | 91.7 | 4.41 | 0.33 | 4.27 | 0.38 | 4.09 | 0.81 | 4.09 | 0.81 |
| 器楽演習Ⅳ［FC］ | 2 | 1 | 50.0 | 3.00 | 4.00 | 3.00 | 4.00 | 3.00 | 4.00 | 3.00 | 4.00 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

音楽は、他者とつながるコミュニケーションツールであり、感情や思いを表現する手段でもある。保育では、音楽を通した表現や関わりから、子ども一人ひとりの個性や多様性を理解できる。また、声は感情や思いを伝え、その人らしさを表すものであり、一人ひとり異なる特徴を持つ。声の多様性への理解は、子どもの個性や表現を認めることにもつながる。そのため、保育者には専門的な知識や技術に加え、音楽活動を通して表現力や音楽的感性を磨くことが求められる。さらに、音楽には心を安らげる働きもある。授業では、初めての弾き歌いなど、練習に苦労する場面もあるが、学生が音楽を楽しみながら表現する経験を大切にし、自分の声の特徴や可能性に気づくとともに、他者の声や表現を尊重する姿勢を育みたい。これらの経験を通して、子どもの多様な表現を受け止め、一人ひとりに寄り添う保育者の育成を目指している。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

ピアノ実技Ⅰ：本授業は1年次を対象とし、ピアノの弾き歌いを基本としているが、学生の音楽経験や習熟度には個人差があった。そのため、一人ひとりの進捗状況に配慮し、音楽を楽しむことを大切に授業を進めた。習得のペースは異なっていたものの、最終的には全員が授業内で発表できた。学生が笑顔で最終回を迎えられたことから、音楽を楽しみながら学び、発表を通して達成感を得られる授業につながったと感じている。こうした取り組みが、全員から高い授業評価を得られたことにつながったと考える。　器楽演習Ⅱ：本授業は、幼稚園教諭免許取得のための必修科目であり、保育現場で即戦力となるための音楽的な専門性が求められる。そのため、必要な知識や技術の習得を目指す一方、視唱では歌詞をつけるグループワークを取り入れるなど、音楽を難しいものと捉えず、身近に感じられるよう工夫した。しかし、習得の難しさから学ぶ意義や必要性を見失う学生もいるため、個々の学生が孤立することなく学べる環境づくりが重要である。今後は、弾き歌いにもグループワークを取り入れ、互いに学び合いながら、保育現場で必要とされる実践力を身につけられる授業を目指したい。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

ピアノ実技Ⅰ：本授業は4名という少人数であることを生かし、学生一人ひとりが個別に目標を設定し、その達成度に基づいて成績評価を行った。個々の習熟度や進捗状況を踏まえ、それぞれの目標を達成できたかを評価することで、学生の実態に応じた評価に努めた。器楽演習Ⅱ：本授業では、音楽に関する多様な専門的課題の習得を目指し、授業への参加度・授業態度（20%）、個別課題への取り組み・練習成果（50%）、学期末実技試験または演奏発表（30%）の割合で成績評価を行った。また、髙﨑展好先生と複数のクラスを担当していることから、クラス間で評価に差が生じないよう、実技試験も髙﨑先生とともに実施し、評価の公平性と一貫性の確保に努めた。

4. 学生へのメッセージ

本授業では、読譜力、発声法、歌唱力、ピアノ演奏など、音楽全般に関する専門的な知識や技術を学びます。音楽を理論的に学ぶことが初めての学生もいると思いますが、知識や技術の習得には、日々の練習の積み重ねが大切です。難しさを感じることもあると思いますが、一つひとつの課題に粘り強く取り組んでください。また、わからないことや難しいと感じることをそのままにせず、積極的に質問してください。実技についても、必要に応じて個別レッスンを受けることができますので、自分の課題に向き合いながら、着実に力を身につけていきましょう。
授業での学びが将来の保育現場でどのように生かされるかを想像し、保育実習においても、子どもたちの成長を支える力として活用できるよう、目的意識を持って学んでください。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

こども発達 学科　教員氏名 小﨑 遼介

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 基礎ゼミナールⅡ | 2 | 2 | 100.0 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 |
| 保育内容「健康」指導法［FC2522組用］ | 25 | 25 | 100.0 | 4.56 | 0.41 | 4.68 | 0.30 | 4.48 | 0.57 | 4.64 | 0.39 |
| 保育マネージメント演習Ⅰ | 1 | 1 | 100.0 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 |
| 保育内容「健康」指導法［FC2521組用］ | 28 | 27 | 96.4 | 4.46 | 0.82 | 4.43 | 0.82 | 4.36 | 0.87 | 4.36 | 0.80 |
| 幼児体育指導法Ⅰ | 16 | 15 | 93.8 | 4.13 | 0.65 | 4.07 | 0.46 | 4.13 | 0.52 | 4.20 | 0.56 |
| 子どもの保健［週間オンデマンド］ | 57 | 19 | 33.3 | 4.79 | 0.17 | 4.53 | 0.57 | 4.26 | 0.61 | 4.63 | 0.23 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

領域健康では、子どもの健康だけでなく、保育者自身の健康、保護者や保育所の集団としての健康に関してまでを取り扱います。
実習を見据え、東岡山IPUこども園での実践を取り入れております。子どもから学ぶことを大切にしたいと思います。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

授業評価については、全体として概ね高い評価を得ることができた。
・「保育内容『健康』指導法」では、2クラスとも各項目で4点台の評価となり、東岡山IPUこども園と連携し、実際の子どもの姿から学ぶ授業を取り入れたことが、授業内容への関心や理解につながったと考える。
・「幼児体育指導法Ⅰ」は他科目と比較すると各項目の平均値がやや低く、特に授業内容と自身の学びとのつながりを、学生がより実感できる授業構成に改善する必要がある。
・「子どもの保健」は評価自体は高いものの、回答率は低く結果の解釈には留意したい。今年からオンデマンド科目であったが、知識の伝達だけでなく、実践、観察、振り返りを組み合わせながら、学生が保育現場を具体的にイメージできる授業を充実させたい。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

成績評価については、学生が授業で得た知識を覚えるだけでなく、保育の場面でどのように活用できるかを重視して評価している。特に領域健康や幼児体育に関する科目では、子どもの姿を捉える力、活動を計画する力、安全に配慮しながら実践する力、実践後に振り返り改善する力を総合的に見ることを大切にしている。

4. 学生へのメッセージ

自分の健康を大事にしながら、子どもや保護者や同僚の健康まで気遣える神経が必要です。
子どもの命を預かるということを念頭におきながら、授業を受けてください。

担当：教務課／大学評価・IR室

## 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

こども発達 学科 教員氏名 虫明 淑子

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1（注意） | | 項目2（関連） | | 項目3（自信） | | 項目4（満足） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 保育原理 | 54 | 53 | 98.1 | 4.19 | 0.79 | 4.04 | 0.98 | 3.91 | 0.99 | 4.02 | 0.96 |
| 幼児心理学Ⅰ | 9 | 8 | 88.9 | 4.63 | 0.23 | 4.50 | 0.50 | 4.63 | 0.23 | 4.63 | 0.23 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

私が授業で大切にしているのは、幼児教育の先達から受け継がれてきた普遍的な「実践の知」に学び、それを次の世代へつないでいくことです。
現代社会は先を見通すことが難しく、子どもを取り巻く環境にはさまざまな課題があります。だからこそ、幼児教育・保育の「質」がこれまで以上に問われているのです。
幼児教育・保育は、子ども理解から始まります。目の前の子どもの姿を丸ごと受け止め、共感しながら、一人一人にとってのよりよい学びを見通し、援助や環境構成を試行錯誤しながら創り出していく営みです。そのためには、自らの実践を繰り返し省察し、改善し、再構成していくことが欠かせません。そうした謙虚で地道な積み重ねの中で、保育者としての専門性は培われていきます。
時代が変わっても、よい保育に求められる本質は変わりません。私自身も、子どもや学生、現場の保育者とともに「よい保育とは何か」を問い続け、学び続けている者の一人です。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

【保育原理】
基礎的知識に加え、「保育とは何か」を学生自身が問いながら考えることを重視しました。学生の記述には、「子ども主体」の重要性や「ただ子どもと関わればいいだけの職業ではない」「目ではなく背中を向けて耳でこどもの声を聴く」「省察」などへの気づきが見られ、1年生前期の段階から多くの学生が保育実践の専門性についての重要な視点を得ていることがうかがえました。また、授業内容は容易ではありませんでしたが、「具体的」「面白く学べるから大好き」「保育者になっても忘れることのない授業だった」「もっと調べてみたい」といった声があり、学びへの関心をいくらかは広げることができたと受け止めています。
【幼児心理学Ⅰ】
幼児期における遊びや発達を、具体的な子どもの姿から捉え、よりよい実践に向けた手立てを実践的に考えることを重視しました。学生の興味・関心を出発点とし、映像や具体的な事例、体験活動などを取り入れ、「実践の知」をわかりやすく伝えることを心がけました。大学着任後、初めて担当する3年生との授業でしたが、授業評価では満足度4.63と高い評価を得ました。学生との対話や協議を通して、幼児期の教育に関する専門的な知見をともに深めることができたと受け止めています。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

【保育原理】
知識・理解だけでなく、保育者を目指す学生として、主体的に学ぶ態度や、他者の異なる意見に耳を傾け、相手の気持ちを考えながら学ぶ態度など、保育者に求められる姿勢を重視しました。小テストや定期試験、グループワーク等を通して、知識・理解の到達度に加え、学んだことを自ら省察し、次の学びや実践につなげようとする姿勢を捉え、総合的に評価しました。
【幼児心理学Ⅰ】
知識・理解だけでなく、子どもの姿を具体的に捉え、学んだことと結び付けて考え、実践に生かす力を重視して評価しました。授業内での対話や活動、課題等を通して、自ら問いをもち、他者の考えに触れながら理解を深め、よりよい実践に向けて自らの考えを見直し、再構成する過程を捉えることを意識しました。

4. 学生へのメッセージ

私の担当する授業には、保育の中でも特に難しく、原理原則的な内容や実践の根幹に関わるものが多くあります。私自身、どうすればその学びをみなさんにとって魅力あるものへと導けるのか、責任を感じながら授業を進めています。その中で、私が大切にしている「問いながら学ぶ」「自ら考え、振り返る」という学び方に、なかなか馴染めない人もいるかもしれません。
それでも、保育者になったとき、子どもの育ちをよりよく支えるためには、目の前の子どもの姿を子どものせいにするのではなく、自らを振り返り、実践をよりよいものへと改善していくことが大切になります。一人一人の子どもは違うからこそ、そこに唯一の答えがあるわけではありません。今はすべてを理解することは難しくても、どこで、どのような保育を学んできたのかが、いつか実践の中でつながる瞬間がきっとあります。
子どもや多様な人との出会い、さまざまな出来事から学び、自らの実践を問い直しながら、「よい保育とは何か」を問い続け、学び続ける保育者を目指してください。

担当：教務課／大学評価・IR室

## 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

こども発達　学科　　教員氏名　塚本　千晴

1．担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1（注意） | | 項目2（関連） | | 項目3（自信） | | 項目4（満足） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 幼児英語指導法I | 5 | 5 | 100.0 | 4.80 | 0.16 | 4.60 | 0.24 | 4.60 | 0.24 | 4.60 | 0.24 |
| 表現活動による人間力養成I | 84 | 71 | 84.5 | 4.17 | 0.97 | 4.10 | 1.09 | 4.19 | 0.80 | 4.25 | 0.69 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

２．授業のリフレクション

| １．私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 幼児英語指導法：本授業では、単に英語の知識や指導技術を習得するだけでなく、海外の文化に触れる体験やインターナショナルスクール訪問といった実地での活動を通じ、子どもたちに英語で伝える楽しさや異文化を尊重する心を育むことを目指します。多様な活動や協働を通して自分らしい表現方法や伝え方を見つけ、学生自身が主体性と自信を持って幼児英語指導に取り組める環境づくりを大切にしています。<br>表現活動よる人間力養成：本授業では、言葉だけでなく身体・声・空間など多様な手段を用いた自己表現を通じ、表現力の育成にとどまらず、他者との協働によるコミュニケーション力や非認知能力を伸ばすことを目指します。表現に「決まった正解」はなく、歌・演劇・ダンス等の技術向上以上に、様々な方法を試しながら自分らしい表現を見つけ、内面を表出して他者に伝える意欲を高めることを重視します。そのため、対話や発表を通してお互いの個性や視点に触れ合い、自己表現が苦手な学生も含めて誰もが安心して新しいことに挑戦し、共に作品を創り上げるプロセスの中で表現の楽しさを感じられる環境づくりを行います。 |
| ２．科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| 幼児英語指導法：授業評価ではすべての項目で非常に高い評価が得られ、特に受講生の関心や満足度において優れた成果が見られました。海外の文化に触れるアクティビティや、インターナショナルスクール訪問といった体験的な取り組みを実施したことで、単なる講義にとどまらず、現場の雰囲気や子どもたちとの関わりを肌で感じる貴重な学びの機会となりました。今後も現場と連動した体験的なプログラムを充実させ、より学びの深まる授業運営に努めていきます。<br>表現活動よる人間力養成：授業評価では全項目においてきわめて高い評価となり、特に「満足度」や「自信」の項目で非常に優れた結果が得られました。このことから、学生が自身の学びや成長をしっかりと実感できる授業となったことがうかがえます。今年度は学生同士の共有時間を意識的に増やし、互いの表現に触れることで新たな視点や気づきを得られる場をつくることができました。一方で、回数を重ねるにつれてブラッシュアップよりも授業を消化するムードが生じたため、今後は難易度の調整などに工夫が求められます。引き続き学生が安心して表現し、他者との関わりの中で相互に学びを深められる授業づくりを目指していきます。 |
| ３．科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| 幼児英語指導法：成績評価においては、日々の授業への取り組み姿勢や各種課題に加え、英語での表現活動や現地訪問での主体的な態度、取り組みを通じた成長の変化を総合的に評価しました。学生がそれぞれの目標に向けて積極的に挑戦し、文化理解や指導法の修得に真摯に取り組んだ結果、全体として非常に良好な成績を収める結果となりました。今後も評価ポイントを事前に明確に提示し、一人ひとりの成長を適切に評価・支援していきます。<br>表現活動よる人間力養成：成績評価においては、出席や各種課題、まとめレポートに加え、授業での協働性や主体性、各々の目標に向けた取り組み姿勢や成長の変化を総合的に評価しました。3名の教員間で意見をすり合わせながら多角的に吟味した結果、多くの学生が継続して真摯に取り組んだ成果が反映され、全体として非常に良好な成績を収める結果となりました。今後も学生自身が評価の観点をしっかりと理解して意欲的に取り組めるよう、ポイントを明確に伝えながら、日々の主体的な挑戦や成長を適切に評価・支援していきます。 |
| ４．学生へのメッセージ |
| 幼児英語指導法：英語での活動や海外文化体験、インターナショナルスクール訪問など、新しい挑戦や体験に対して常に前向きに取り組む皆さんの姿がとても印象的でした。英語の上手さだけでなく「伝える楽しさ」や「多様な文化を認め合うこと」の大切さを、身をもって実感できたのではないでしょうか。この授業で得た体験や気づき、そして挑戦する勇気を糧に、これからも自信を持って自分らしい表現や指導に励んでいってください。<br>表現活動よる人間力養成：授業に参加していただき、ありがとうございました。学科やルーツ、表現の得意・不得意が異なる多様な仲間が集まる中で、最初は戸惑いもあったかと思いますが、回数を重ねるごとに互いの距離を縮め、積極的に対話し協力し合う姿が印象的でした。各自が自身のペースで表現に向き合うと同時に、他者の発表や考えに耳を傾けて共有し、互いの価値観を認め合うことで新たな視点や学びを得られたことと思います。うまく表現することにとらわれず、「自分らしく伝えること」や「仲間と共有すること」の大切さを意識できたこと自体が大きな成長です。この授業を通して育まれた非認知能力や「挑戦し共有する」経験を、ぜひ |

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

こども発達 学科　教員氏名 本庄 慶樹

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| コンピュータリテラシーⅠ［FC用］ | 55 | 53 | 96.4 | 3.87 | 0.79 | 3.89 | 0.82 | 3.91 | 0.99 | 3.85 | 0.92 |
| コンピュータリテラシーⅠ［PH用］ | 77 | 72 | 93.5 | 3.81 | 1.40 | 3.95 | 1.11 | 3.94 | 1.13 | 4.03 | 1.14 |
| コンピュータリテラシーⅠ | 228 | 210 | 92.1 | 3.93 | 1.07 | 3.98 | 0.95 | 4.00 | 0.87 | 4.04 | 0.93 |
| コンピュータリテラシーⅠ［PS用］ | 119 | 100 | 84.0 | 3.78 | 0.93 | 3.74 | 0.70 | 3.68 | 0.78 | 3.70 | 1.05 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 教えるより学生自身の学びを大切にしたいと考えていますし、将来教える立場に立つ人を育成しているという立場を認識し、「学びを導く」こと「学びを導ける」教育者、保育者の養成に努めている。<br>具体的には、知識や技術の必要性を認識すること。自ら知識や技術の持つことへの欲求を持つこと。について導いていきたいと考える。<br>情報の分野は、今の学びに習熟するだけではなく、変化に対応できる能力を身につけることが肝要だと考えている。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| 今年度からのコンピューターリテラシーは、ビデオでの課題を試聴し取り組む形とした。前半は慣れず取り組みづらい学生もいたげが、後半は概ね慣れたと思われる。当然であるが、慣れれば作業が早く済み、慣れなければ時間がかかる。次第に慣れて早く終わる様になりスキルを身に付けたということとなのだと考えられる。ただより学習したい学生にとっては、与えられた課題をこなすだけて満足とはいかないものだったかもしれない。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| 出席をし課題提出した学生は、概ね良い成績を出せた。減点は、本人の勘違いで仕上げきっていないものだと考えられるが、毎回では無いので大きな減点には成り得ない。より深く学んでと、いう課題ではないので、多くの学生がA以上の成果を上げた。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| コンピュータリテラシーについて、リテラシー（教養）であり受講者全員が理解しコンピュータを利活用出来る能力を身につけることを目標としている。今回の課題の様にビデオを試聴して課題をこなせばSが取れる課題である。自分自身に高い目標を与え応用力を身につけてもらいたいと考える。今回学習したことを他の学習で使ってみることが、大切だと思う。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

## 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

こども発達　学科　教員氏名　髙﨑　展好

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1（注意） | | 項目2（関連） | | 項目3（自信） | | 項目4（満足） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| ピアノ実技Ⅰ | 11 | 11 | 100.0 | 4.64 | 0.23 | 4.45 | 0.79 | 4.36 | 0.78 | 4.64 | 0.23 |
| 器楽演習Ⅱ［FC2522］ | 13 | 13 | 100.0 | 4.62 | 0.24 | 4.77 | 0.18 | 4.54 | 0.71 | 4.69 | 0.37 |
| 器楽演習Ⅲ［FC］ | 10 | 10 | 100.0 | 4.60 | 0.24 | 4.30 | 0.41 | 4.10 | 0.49 | 4.10 | 0.69 |
| キャリアサポート［幼保］ | 19 | 19 | 100.0 | 4.53 | 0.78 | 4.42 | 0.88 | 4.47 | 0.78 | 4.47 | 0.88 |
| 器楽演習Ⅱ［FC2521］ | 15 | 14 | 93.3 | 4.00 | 1.47 | 4.00 | 1.47 | 3.80 | 1.76 | 3.73 | 1.80 |
| キャリアデザインⅠ［幼保］ | 24 | 22 | 91.7 | 4.41 | 0.33 | 4.27 | 0.38 | 4.09 | 0.81 | 4.09 | 0.81 |
| 器楽演習Ⅳ［FC］ | 2 | 1 | 50.0 | 3.00 | 4.00 | 3.00 | 4.00 | 3.00 | 4.00 | 3.00 | 4.00 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

私が担当する音楽関連科目では、専門的な知識や技能の習得を目指すとともに、まず学生自身が「恐れずに音楽を楽しみ、表現すること」を大切にしています。

特に保育者養成における音楽教育では、ピアノを弾くことだけを目的とするのではなく、音楽理論、ソルフェージュ、読譜、歌唱、弾き歌いなどを総合的に学び、将来、子どもたちと音楽を楽しみながら表現活動を展開できる実践力を身につけることが重要であると考えています。

一方、ピアノ経験や技能には学生間で大きな差があります。そのため、一人ひとりの習熟度や課題を把握し、小さな達成を積み重ねながら「できた」という実感と自信につなげることを重視しています。授業内の指導だけでなく、動画教材や自主練習、必要に応じた個別指導を組み合わせ、学生が主体的・継続的に学べる環境を整えることを今後も授業づくりの基本方針とします。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

◆ピアノ実技Ⅰ（満足度4.64／14名）
今年度初めて実施した科目であり、比較的ピアノ初心者が多かったことから、音楽理論、ソルフェージュ、読譜力の育成を重視しながら、バイエル等による基礎技能と簡単な弾き歌いに取り組みました。満足度4.64と高い評価が得られ、基礎から段階的に学ぶ授業構成は一定の成果があったと考えています。今後も、初心者が安心して学び、次の段階へ進める授業を目指します。

◆器楽演習Ⅱ[FC2522]（満足度4.69／13名）
全項目で高い評価が得られ、特に「関連」4.77、「満足」4.69となりました。学生が授業内容と保育者に必要な音楽技能とのつながりを理解し、意欲的に取り組めたことが結果につながったと考えています。

◆器楽演習Ⅱ[FC2521]（満足度3.73／15名）
他科目と比較して満足度が低く、改善すべき課題が明確になりました。ピアノに苦手意識を持つ学生が多く、授業外での予習・復習が十分でないまま授業に臨むケースも見られました。時間外の個別レッスンにも対応できる環境を設けていましたが、学生からの申し出を待つ形となり、結果として十分な支援につなげられなかった点は反省しています。今後は、教員側から支援が必要な学生を早期に把握して声をかけるなど、より積極的な個別支援の仕組みを構築する必要があると考えています。

◆器楽演習Ⅲ（満足度4.10／10名）
少人数である利点を生かし、一人ひとりの技能や課題に応じた指導を行いました。一方、「自信」が4.10であり、技能の習得を学生自身の自信につなげる点には改善の余地があります。達成目標をより明確にし、小さな成功体験を積み重ねられる授業構成を工夫します。

◆器楽演習Ⅳ（満足度3.00／回答1名）
履修者2名、回答者1名であるため、この数値のみから授業全体を評価することは難しいと考えています。少人数科目の特性を生かしながら、個々の目標や進路に応じた課題設定と個別指導をさらに充実させていきます。

◆キャリアサポートⅠ（満足度4.47／19名）・キャリアデザインⅠ（満足度4.09／24名）
ピアノ担当教員3名と保育実践担当教員1名の計4名で担当し、保育職採用試験や保育現場で必要となる技能の習得を目的として、面接・集団討論等の対策とともに、隔週で計7回のピアノ個人レッスンを実施しました。「ピアノが上達した」「弾けるレパートリーが増えた」「面接や集団討論、ピアノなど保育士に必要なことを学べた」など、授業目的に沿った学習成果が確認できました。一方、課題の期限・担当・提出方法を明確にしてほしいとの意見や、ピアノ担当教員間で評価基準を統一してほしいとの指摘もありました。複数教員で担当する科目だからこそ、指導内容や評価基準、学生への情報提示をより一層共有・統一する必要があります。

3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

ピアノ実技・器楽演習では、学生一人ひとりの技能差を踏まえながら、授業への取り組み、課題の達成状況、実技試験等を総合的に評価しました。音楽理論やソルフェージュを継続して取り入れることで、単に課題曲を弾けるようにするだけでなく、読譜力や基礎的な音楽力を身につけることを重視しました。

◆ピアノ実技Ⅰ
初心者が多いことから、技能の完成度だけではなく、基礎的な読譜力や演奏技能がどの程度身についたかという学習過程も重視しました。段階的な課題設定により、基礎力の定着が見られました。

◆器楽演習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
実技課題や弾き歌い等を通して、保育現場で活用できる演奏技能の習得を評価しました。一方、特に器楽演習Ⅱ[FC2521]では、自宅練習の不足が技能習得や達成度にも影響しており、授業時間内の指導だけでは十分な成果に結びつかない学生も見られました。今後は学習状況を早期に把握し、練習方法の指導や個別支援につなげます。

◆キャリアサポートⅠ・キャリアデザインⅠ
保育職採用試験及び保育現場を見据え、ピアノ演奏だけでなく、弾き歌いのレパートリーや実践的な技能の習得を重視しました。複数の教員が個人レッスンを担当するため、今後はレパートリー評価シート等を活用し、課題の到達基準や採点基準について担当教員間でより明確に共有することで、評価の公平性と学生にとっての分かりやすさを高めていきます。

4. 学生へのメッセージ

将来、子どもたちに音楽の楽しさや表現する喜びを伝えるためには、まず皆さん自身が音楽を楽しみ、「できた」という喜びをたくさん経験することが大切です。

ピアノは、得意・不得意やこれまでの経験によってスタート地点が異なります。しかし、短い時間でも継続して練習することで、必ず少しずつ弾けるようになります。授業だけで何とかしようとするのではなく、授業で学んだことを自分で復習し、分からないことや弾けないところがあれば、遠慮せず教員を頼ってください。

「継続は力なり」です。一曲ずつ弾ける曲を増やし、それを自分の自信としてください。そして将来、皆さんのピアノや歌によって、子どもたちが笑顔になり、一緒に音楽を楽しんでくれることを願っています。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

教育　学科　　教員氏名　西田　修斗

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1（注意） | | 項目2（関連） | | 項目3（自信） | | 項目4（満足） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 数学基礎Ⅰ［B］ | 51 | 49 | 96.1 | 4.43 | 0.57 | 4.41 | 0.53 | 4.37 | 0.64 | 4.49 | 0.58 |
| 数学基礎Ⅰ［A］ | 86 | 78 | 90.7 | 4.13 | 0.74 | 4.09 | 0.74 | 4.04 | 0.75 | 4.18 | 0.65 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 本学には数学に苦手意識をもつ学生も多いことから、まずは「数学は面白い」「もっと知りたい」と感じられる授業を大切にしている。数学の授業では、紙を折る・切る・動かすなど、実際に手を動かして考える活動や、視覚的・体験的に数学に触れる機会を積極的に取り入れている。数学を面白いと感じることは学びの入口であり、その先に、身の回りの事象や社会の仕組みを数学の視点から捉え、自分で考え、説明する力を身につけてほしいと考えている。授業で学んだ数学的な見方・考え方を、授業の中だけで終わらせず、今後の学びや生活、将来の人生の中で活用できるようになることを目指している。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| 数学基礎Ⅰ：<br>数学の面白さに触れ、数学的な見方・考え方を体験的に学ぶことを重視して授業を行った。一刀切りやメビウスの輪など、実際に手を動かして考える活動では、多くの学生が周囲と相談しながら意欲的に取り組んでいた。自由記述でも、「数学を新しい視点で学べた」「計算だけではないことを知った」「数学に対するイメージが変わった」など、授業で重視した点に対応する記述が見られた。<br><br>一方で、体験活動の後に数学的な意味や重要な概念を整理し、学生自身が言語化して定着させる機会は十分ではなかった。今後は、ワークシート等を活用し、活動を「楽しかった」「驚いた」で終わらせず、数学的な言葉や考え方として整理・定着させる過程をより重視したい。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| 数学基礎Ⅰ：<br>授業内での振り返り等を70%、定期試験を30%として評価した。成績は、S＝90点以上、A＝80～89点、B＝70～79点、C＝60～69点、D＝60点未満という基準を踏まえて評価した。<br><br>毎回の振り返りを通して学習過程を確認した一方で、授業期間中に学習内容の定着度を細かく確認する機会は十分ではなかった。定期試験では、特に記述問題において、考え方や理由を言葉で説明することに課題が見られた。今後は、短時間の確認問題等を取り入れ、数学的な知識や考え方の定着についても継続的に確認できる評価方法を検討したい。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| 中学校や高校の数学の授業で学んできた内容は、数学という学問のほんの一部です。今回の授業をきっかけに、数学に限らず、教科書の先に広がるさまざまな学びに興味をもち、学ぶことを楽しんでほしいと思います。また、数学で学んだ見方・考え方を、これからの学びや自分の目標の実現に生かしてもらえたら嬉しいです。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

教育 学科　教員氏名 川村 康文

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 初等理科［他学科］ | 34 | 34 | 100.0 | 4.71 | 0.21 | 4.74 | 0.19 | 4.76 | 0.18 | 4.79 | 0.16 |
| 初等理科［FE2633組用］ | 28 | 28 | 100.0 | 4.46 | 0.46 | 4.32 | 0.86 | 4.21 | 0.81 | 4.39 | 0.38 |
| 理科教育法［他学科3年水4］ | 42 | 41 | 97.6 | 4.31 | 0.79 | 4.24 | 0.80 | 4.26 | 0.86 | 4.33 | 0.75 |
| 初等理科［FE2631組用］ | 28 | 27 | 96.4 | 4.22 | 0.40 | 4.04 | 0.70 | 3.93 | 0.66 | 4.19 | 0.67 |
| 初等理科［FE2632組用］ | 27 | 26 | 96.3 | 4.07 | 0.88 | 4.15 | 1.09 | 3.93 | 0.96 | 4.22 | 0.91 |
| 理科教育法［他学科3年水3］ | 26 | 24 | 92.3 | 4.75 | 0.19 | 4.71 | 0.21 | 4.67 | 0.31 | 4.71 | 0.21 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 授業の哲学は，学生に考えさせる授業を行うことで，基本，アクティブラーニングの姿勢を貫いている。教師からの一方向授業は行わず，授業内で必ず学生側の活動があるようにしている。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| 学生の側からは，きびしいという意見が多いかと思ったがそこまでではなく，学生側もアクティブラーニングな授業に応えてくれたのではないかと考えている。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| S,A，B,C，Dの基準や所感については，まず，学生にSの極みを意識させて，どこまでやれるとS評価に達するのかを提示した。これにより，昨年より学生の授業中の集中度が良くなったと感じている。また，自分もSをとれる可能性があると気づき，挑戦，達成を目指す学生を，授業中に感じ取れた。昨年より，学生が一生懸命にやってくれたと感じている。また最初から，あまあまな学生もいて，授業の雰囲気を壊すかなと思ったが，授業の後半戦ごろには，少しまっとになってきて，なんとか山を登り切ってくれたかなと感じている。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| 理科嫌いは，みなさんのせいではなく，これまでの小中高の学校で，嫌いになるような授業を受けさせられてきたことにあります。理科への苦手意識をもったまま先生になると，子ども達も理科嫌いになってしまうと考えています。その打開のためには，IPUでは楽しく明るい理科授業を準備しています。是非，IPUで楽しく明るく授業を受けて下さい。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

## 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

教育　学科　教員氏名　早田　剛

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1（注意） | | 項目2（関連） | | 項目3（自信） | | 項目4（満足） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| スポーツ科学入門［PP用］ | 238 | 222 | 93.3 | 4.39 | 0.62 | 4.34 | 0.59 | 4.30 | 0.67 | 4.37 | 0.62 |
| 教育実習事前・事後指導（保健体育） | 192 | 176 | 91.7 | 4.56 | 0.52 | 4.55 | 0.45 | 4.51 | 0.55 | 4.52 | 0.57 |
| 基礎ゼミナールⅡ［再履修］PP用 | 7 | 4 | 57.1 | 4.75 | 0.19 | 4.75 | 0.19 | 4.75 | 0.19 | 4.75 | 0.19 |
| 運動学［週間オンデマンド］ | 354 | 143 | 40.4 | 4.29 | 0.56 | 4.30 | 0.46 | 4.19 | 0.66 | 4.31 | 0.58 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

体育学科の学びは、ヒトと地域を活性化することができます。体育・スポーツを楽しむことをベースに、ICTスキル向上を目指した授業を展開し、日本に10しかない体育学部体育学科の価値を高めたいと考えています。☒
☒

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

1. スポーツ科学入門 [PP用]/2. 教育実習事前・事後指導(保健体育)についてはオムニバスのためコメントは差し控えます。
3. 基礎ゼミナールII [再履修]PP用
丁寧な指導により全項目4.75と高水準でしたが、回答率が57.1%に留まりました。今後は最終回の授業時間内に回答を促し、回収率100%を目指します。
4. 運動学 [週間オンデマンド]
概ね良好な評価ですが、回答率の低さ（40.4%）と「自信」のスコアに課題があります。LMSでのリマインド強化と確認クイズの充実で自律学習を支援します。
【今後の方針】
全体として「注意」「関連」「満足」に比べ、「自信（理解・定着度）」がやや伸び悩む傾向にあります。今後は全科目を通じて、小テストや小まめなフィードバックの機会を増やし、学生が「理解できた」と実感できる工夫を行います。また、オンデマンド科目等におけるアンケート回答率向上のため、LMSでのアナウンスや授業内での声掛けを徹底します。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

成績評価については、シラバスに記載している内容を初回の授業で説明を行っている。更に成績は、毎回の授業における意見交換や小テスト、授業後レポートの合計で計算しているため、毎回の授業を大事にしないと評価が上がらないようになっている。ぜひ、毎回の授業を大切にして欲しい。☒
☒
☒
☒

4. 学生へのメッセージ

世の中の求められるリテラシーは時代によって変化している。受動的な受講態度では、ついていけない。是非主体的に学ぶ姿勢を持って授業に望んで欲しい。☒
☒
☒
☒

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

教育 学科　教員氏名 大野呂 浩志

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 知的障害児教育Ⅰ | 68 | 66 | 97.1 | 4.58 | 0.30 | 4.48 | 0.34 | 4.44 | 0.43 | 4.44 | 0.37 |
| 障害児教育相談と心理アセスメント | 69 | 64 | 92.8 | 4.50 | 0.50 | 4.42 | 0.56 | 4.27 | 0.91 | 4.41 | 0.58 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 子供そのものや子供の困難について，学生一人一人の等身大の理解を促すとともに，理解や対応に関する高みを知り，個々の教育哲学醸成に関する学びにつなげる。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| 概ね高い評価をいただくことができた。今後は，さらに学生の満足につながるよう，一層アクティブラーニングの手法を取り入れ，等身大の学びと満足に繋げたい。<br>通常の科目の評価に比べ，障害児教育相談と心理アセスメントについては，「自信」に関する評価が比較的低い様子が窺われる。神経心理領域で馴染みが薄いことや，統計学的な知識・技能も必要とされるため，科目に課される課題の性格上，に対する自信のなさはやむを得ない部分もあるが，今後は，具体的事例から遡って必要な知識技能の所在を導きつつ学習を進めることで，常に目標指向的な思考が担保され，将来のどこで活用できるかをイメージしながら学習ができるようにしたい。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| 成績評価については，およそ6週間にわたって授業を実質的に受けることができない学生についても，授業に実際に参加している学生と，同様に評価することについて，今回も苦悩した。教育実習中は，その間にある授業の課題提出の必要がない公欠扱いが可能で，実習に専念できるシステムになっているが，そう授業回数のおよそ半分の授業回での判断資料しかない中で，シラバスに照らした個々人の能力を評価するのは，難しく感じる。今後は，実習後に実習による欠席回の内容について，レポートを課すなどして，授業目標に対する達成度が同様に評価できる工夫をしたい。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| 一生懸命に授業に取り組んでもらって感謝です。さらに，将来の教育場面で活かせるイメージを持てるように授業を目指します。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

教育　学科　教員氏名　竹下　厚志

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1（注意） | | 項目2（関連） | | 項目3（自信） | | 項目4（満足） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 4技能統合型英語Ⅱ（応用） | 2 | 2 | 100.0 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 4.50 | 0.25 | 5.00 | 0.00 |
| 英語科教育法Ⅲ（発展） | 20 | 18 | 90.0 | 3.89 | 1.25 | 3.89 | 1.46 | 3.63 | 2.23 | 3.74 | 1.25 |
| 上級オーラルコミュニケーション | 25 | 21 | 84.0 | 4.10 | 1.13 | 4.10 | 0.85 | 4.05 | 1.00 | 3.95 | 1.09 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 中高現場で役立つ実践および理論の習得を目指す。実践面においては、コミュニケーション能力の育成を中心に授業者（学生）の技能、知識の向上および自ら授業を通して体験したものを中高生に適応していくための授業運用力を重点的に行う。また、グローバルな視点の育成に努め、グローバルイシューと英語教育をつなげていくための考え方や実際の言語トレーニングや思考トレーニングを行う。理論面においてはSLA研究の中でコミュニカティブ・アプローチに基づく5技能統合型の教授法を主軸とした授業づくりのフレームワークとその評価法の修得を目指す。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| 1.4技能統合型授業Ⅱ<br>　受講学生の能力やニーズに合わせて大幅にレベルを上げた。その結果、高評価であったと感じられる。<br>2. 上級オーラルコミュニケーション<br>　意図的に授業レベルを一定以上にしたため、学力的に苦しい学生からは予想通り、あまり評価はでなかった。ただ、英語力向上を真剣に考えている学生から　は、英語力が向上した実感がわいたと思われる。<br>3.　教育実習等による欠席や出席状況の変動により、当初予定していたグループ協働型の学びからソロ授業への切り替えを余儀なくされた。この実施形態の変更も、学生全体の達成感や満足度に影響を与えたと考えられる。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| 1.4技能統合型授業Ⅱ<br>　英語コミュニケーション力は、参加学生全員が予想していた程度に向上したと思われたので、高得点を与えた。<br>2. 上級オーラルコミュニケーション<br>　全体的には数名の学生は本授業のレベルに十分に達していると思われるが、半数以上が学力向上の途上にある。免許必修科目であるが、英語科教員を目指すのであれば、十分な学習習慣がないと本科目の単位修得は厳しくなると予想される。<br>3. 評価規準の事前周知や不適切な指導例（ダメなデモ）の検討を重ねたものの、自由記述（一部の意見）では「お手本が欲しかった」「ポイントを示してほしかった」との声が寄せられた。教員側には「具体的な模範例を示すと、学生がそれをそのまま模倣・トレースしてしまい、独自の工夫や多様性が失われる」という懸念があった。しかし、初学者である学生の発達段階においては、具体的なやり方や「型」がない状態での実践はハードルが高く、「できた」という手ごたえ（自己効力感）を持たせにくかったことが不安に繋がったと分析される。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| 日常的に英語使用場面を増やし、授業づくりの前提である英語コミュニケーション能力の育成に努めてほしい。また、最先端の授業に触れその授業の構成要素を分析・記録し、なぜその授業が成功しているかの批判的、分析的視点を持ってほしい。授業は勢いが大切である。十分な知識と技能を身に付ければ、余裕をもって生徒を授業内外で観察する余裕が生まれ、そのことがより自分の授業に活かされるという好循環につながる。<br>授業外では常に日本および世界の情勢やグローバルな視点から問題意識をもって周りを見てほしい。そして自分の考えを持ち、国内外の人と意見交換できる生活の場を構築していただきたい。このことが現在の自分を取り巻く環境と海外との違いに気づき、多面的に物事を捉える思考力につながっていくと思われる。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

教育 学科　教員氏名 中安 翼

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 体育実技［FE①］ | 44 | 44 | 100.0 | 4.48 | 0.34 | 4.52 | 0.25 | 4.20 | 0.53 | 4.55 | 0.25 |
| 体育実技［FE②］ | 32 | 31 | 96.9 | 4.34 | 0.60 | 4.22 | 0.98 | 4.06 | 0.93 | 4.38 | 0.67 |
| 体育科教育法［FE2432組用］ | 31 | 30 | 96.8 | 4.10 | 0.76 | 4.07 | 0.80 | 4.07 | 0.86 | 4.10 | 0.76 |
| 体育科教育法［FE2431組用］ | 25 | 24 | 96.0 | 4.71 | 0.29 | 4.67 | 0.31 | 4.75 | 0.27 | 4.71 | 0.29 |
| 体育実技［FC用］ | 55 | 52 | 94.5 | 4.42 | 0.44 | 4.13 | 0.92 | 4.19 | 0.81 | 4.19 | 0.77 |
| 体育科教育法［FE2433組用］ | 29 | 25 | 86.2 | 4.28 | 0.44 | 4.32 | 0.46 | 4.24 | 0.42 | 4.44 | 0.33 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

受講する学生が将来教育現場で働くことを想定し、できるだけ現場で起こりえることを感じられるような授業にしたいと考えている。
また、これからの教育現場で必要となる資質や能力も意識して授業づくりをしていく。
授業は指導者がつくるのではなく、学習者と一緒につくっていくもの。受講する学生が受け身にならないような授業を目指していきたい。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

「体育実技」「体育科教育法」ともに、運動や模擬授業といった活動が多く意欲的に取り組めた学生が多かったのではないかと感じている。特に体育科教育法では、教育実習等で授業に出られない人が多かったが、間が空いても前向きに取り組めている学生が多かったように感じている。特に後半の模擬授業に向けては、一人一人が意欲的に取り組めていたからこそ回数を重ねるごとに授業の質も高まっていた。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

「体育実技」「体育科教育法」ともに授業内の意欲、態度、姿勢 50%とレポート50%で評価した。授業内では活動（運動・模擬授業等）に主体的に取り組めていたか、レポートでは授業内で学んだことを現場を意識して具体的に自分の言葉で書かれていたかが評価の差に表れていたと感じている。授業の所感としては、比較的活動への取り組みは主体的にできている学生が多かった一方で、自分だけでなく周りの仲間を支える視点や、現場で指導するイメージをどれだけ持てていたかという点は学生によって差があったように感じている。

4. 学生へのメッセージ

授業お疲れさまでした。前向きに授業に取り組んでいる人が多く、私自身も楽しく授業を行えました。実際の教育現場をイメージするのは難しいかもしれませんが、自分の小学生時代を振り返ったり、実習等の経験を思い出したりしながら受講してみると、さらに見えてくるものが増えるかもしれません。
将来の仕事に活かすことを目的としてこれからも日々の授業に取り組んでください。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

教育 学科　教員氏名 中家 淳悟

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 器楽演習Ⅰ［A］ | 8 | 8 | 100.0 | 4.88 | 0.11 | 4.88 | 0.11 | 4.88 | 0.11 | 4.88 | 0.11 |
| 器楽演習Ⅰ［C］ | 6 | 6 | 100.0 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 4.67 | 0.22 | 4.83 | 0.14 |
| 音楽の理解［FE2522組用］ | 15 | 15 | 100.0 | 4.53 | 0.65 | 4.67 | 0.22 | 4.53 | 0.38 | 4.73 | 0.20 |
| 音楽の理解［FE2521組用］ | 24 | 24 | 100.0 | 4.71 | 0.21 | 4.67 | 0.22 | 4.67 | 0.31 | 4.79 | 0.16 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 学生の皆さんが最後に受ける音楽の授業である可能性が高いので、音楽の授業って楽しかった！と思ってもらえるようになるべくわかりやすく、なるべく楽しく、必要なことは簡潔に！を授業方針として考えています。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| 器楽演習、音楽の理解ともに平均的に高い評価であったと感じています。皆さんの協力で授業も進めやすく、発表なども積極的にしてもらえたので良い雰囲気の授業ができたと思いました。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| どちらの科目も試験の準備をしっかりとして来てくれている学生が多かったのでいい成績をつけることができた学生が多かったかと思います。思い通りの成績が取れなかった学生については今一度ノートの復習等で確認をしておいてもらえればと思います。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| 皆さんのおかげで楽しく授業ができました。ありがとうございました。機会があればまた別科目を履修してください。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

教育 学科　教員氏名 内田 仁志

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む) [FC用] | 91 | 89 | 97.8 | 3.88 | 1.05 | 3.76 | 1.30 | 3.82 | 1.16 | 3.93 | 1.12 |
| 教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む) [FE用] | 174 | 165 | 94.8 | 4.03 | 1.04 | 4.03 | 1.09 | 3.96 | 1.09 | 3.99 | 1.08 |
| 環トレ [FC･FE用] | 3 | 2 | 66.7 | 4.50 | 0.25 | 4.00 | 1.00 | 4.00 | 0.00 | 3.50 | 2.25 |
| 学校図書館メディアの構成 [週間オンデマンド] | 38 | 20 | 52.6 | 4.05 | 0.85 | 4.15 | 0.73 | 4.10 | 0.79 | 4.10 | 0.79 |
| 教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む) [PP、PS用週間オンデマンド] | 503 | 193 | 38.4 | 4.47 | 0.45 | 4.46 | 0.48 | 4.40 | 0.54 | 4.46 | 0.50 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

私の授業では、知識や技能を一方的に伝えるのではなく、学生自身が考え、対話し、学んだことを自分の生活や将来に結び付けることを大切にしています。教員志望の学生が少ないという実態を踏まえ、教職に就くかどうかにかかわらず、学ぶ意味を実感できる授業を目指しています。そのため、学校現場での具体的な実践事例を示すとともに、学生が自ら考え、表現し、他者の考えに触れる活動を重視し、「学んでよかった」「自分にもできそうだ」と感じられる授業づくりを心がけています。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

「教育の方法及び技術」FC用では、回答率97.8%とほぼ全員が回答する中、各項目3.76～3.93の評価を得ました。特に教員志望者が10%以下という履修者の実態を考えると、教職への関心が必ずしも高くない学生にも一定の学習意義を伝えられたと考えます。FE用では回答率94.8%で各項目3.96～4.03と安定した評価でした。PP・PS等では回答率38.4%ながら193名が回答し、全項目4.40以上でした。「学校図書館メディアの構成」も全項目4.05以上であり、科目や履修者の特性に応じた授業づくりが一定の成果につながったと捉えています。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

成績評価については、各科目の到達目標に基づき、授業への取組、課題・レポート、最終試験等を総合して評価しました。特に、単に知識を習得しているかだけでなく、学んだ内容を具体的な場面に結び付け、自分の考えとして説明・活用できることを重視しました。一方、履修者数の多い科目では、評価基準をより明確に示し、公平性と客観性を一層高める必要があります。今後も学生が評価基準を理解し、学習改善につなげられる評価を目指します。

4. 学生へのメッセージ

本授業では、教職に必要な知識を身に付けるだけでなく、実際の学校現場で生かすことのできる「教員実践力」を高めることを大切にしてきました。そのため、私自身の学校現場での経験や具体的な実践事例を取り上げ、皆さん自身が考え、判断し、実践につなげることを意識して授業を行いました。授業で学んだことを一つでも自分の力として蓄え、教育実習や将来の教育活動の中で生かしてほしいと思います。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

教育 学科　教員氏名 本藤 展康

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| キャリアサポート［教職］ | 127 | 120 | 94.5 | 4.64 | 0.51 | 4.64 | 0.51 | 4.59 | 0.62 | 4.62 | 0.52 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

教職に関する学びの最終年度にあたり、キャリアデザインⅠ・Ⅱや、面接・模擬授業・論作文等の対策講座で学んできたことを整理するとともに、教員採用試験において、これまでの学びの成果を発揮し、IPUの学生らしい個々の人間的なすばらしさを発揮する豊かな非認知能力（表現力）も身に着けさせていく。また、授業内でグループワークによる学生同士の対話の時間を設けることで、教員になるという志を共有する仲間の絆づくりにも取り組んでいく。こうして、教員としてのより実践的な資質を向上させることをねらいとしている。この授業と、面接や模擬授業等の教員採用試験対策講座の両輪で、次の2点を大切にした授業展開を行う。
①教員として働くことの意義や教員になるために必要な資質や能力を養うとともに、自己理解を深める中で将来の生き方について考える。
②教員採用試験合格に必要な技能を向上させるとともに、仲間と支え合いながら採用試験突破をめざす。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

本年度の授業での評価が全項目でほぼ4.6以上になっている。このことから、多くの学生が「教員になりたい。教員になるために努力する。」という気持ちで授業に臨んでいたことがうかがえる。実際の授業場面でも、積極的にグループワークに取り組んだり、学んだことをしっかりとノートに書き留めて、教員採用試験前にはそれを振りかえっている姿も見られており、学生自身が積極的に主体的に学んだ結果が、この授業満足度に反映されていると考える。教員としては、良い授業や学習内容を提供することは最低限の責務であると考えるが、より良い学びを創造するためには、学び手自身が主体的に意欲的に取り組むことで、教員の努力や工夫に相乗的な効果をもたらすことができると考える。学生にとって授業内容は決して楽しいものばかりではないが、この評価結果は多くの学生が教員採用試験を突破して教員になりたいと願う学生たちの熱い思いの現れだと考える。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

S・A評定の学生が81.1%となっている。出席・授業態度・振り返りレポート・最終レポートによる評価であり、多くの学生が真摯にこの授業に取り組んできたことがうかがえる。教員志望の学生は、この「キャリアサポート」の授業を核として新しい事項を学び、「論作文対策講座」でそれに関する自分の考えをまとめ、「面接対策講座」で端的にまとめて表現するというサイクルで学習を進めている。これにより、学習内容にまとまりができ、学生にとっては、一つ一つの教育課題を整理しながら学ぶことができている。このような各授業間の連携を今後も大切にしていきたい。さらに、この授業の受講者を対象に、教職支援室職員が、一人約15～20名の学生を担当し、学習の進捗状況や採用試験に関する面談を、正規の時間外で月1回実施している。これにより、個々に合った学習方法を提案したり、受験自治体に関する助言を行ったりしている。この中で、教員採用試験への不安についても相談対応をしており、メンタル面でのサポートも成果を上げている。

4. 学生へのメッセージ

「教員になりたい。」という強い思いをもってこの授業を受講した皆さん、半年間お疲れさまでした。この授業やその他対策講座で学びながら、教員採用試験対策に取り組むのは、本当に大変だったのではないでしょうか。部活動やアルバイトと両立させながらも、毎日5時間以上学習に取り組んでいた方も多かったですね。そんな中、途中で折れそうになった人もいますが、そこはチームIPU、仲間と支え合いながら乗り切ることができました。教員としての知識・技能も大切ですが、こうして仲間と力を合わせて乗り越えた経験が、皆さんを人間的に大きく成長させてくれたと思います。今度は、皆さんが先生として、児童生徒をしっかりと支えていく番です。IPUでの経験をもとに、自分の良さ、豊かな非認知能力をしっかりと発揮して、チームとしての学校（勤務校）の核となれるよう成長されることを期待しています。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

教育 学科　教員氏名 木戸 和彦

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| コンピュータリテラシーⅠ［FE用］ | 79 | 76 | 96.2 | 4.03 | 0.75 | 4.12 | 0.65 | 3.79 | 0.89 | 4.14 | 0.82 |
| コンピュータリテラシーⅠ［FE(表現コース)用］ | 26 | 25 | 96.2 | 4.44 | 0.33 | 4.24 | 0.98 | 4.32 | 0.78 | 4.16 | 1.41 |
| 統計学 | 43 | 36 | 83.7 | 4.36 | 0.62 | 4.36 | 0.56 | 4.36 | 0.62 | 4.36 | 0.56 |
| 学校図書館メディアの構成［週間オンデマンド］ | 38 | 20 | 52.6 | 4.05 | 0.85 | 4.15 | 0.73 | 4.10 | 0.79 | 4.10 | 0.79 |
| 情報メディアの活用［週間オンデマンド］ | 40 | 19 | 47.5 | 4.05 | 0.79 | 4.11 | 0.73 | 4.05 | 0.79 | 3.89 | 0.94 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

大学の授業は、専門性が高く難しいのが当たり前である。しかし、難しいことを難しい言葉のみで教えても、当然理解できない。そこで、平易な言葉や身近な事例を示して説明・解説することで、万人に理解できることを目標としている。また、学生の義務は、「様々な事情で大学に行きたくても行けなかった人」に習得した内容を教え、伝えることだと考えているので、授業内容はしっかり理解させ、正しい知識と技術を身に付けさせられるように工夫している。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

全体的に満足度が高く、良好な結果が得られている。学生の予習復習にかける時間をより多く取れるようなレポートや課題の工夫が必要である。ほとんどの科目が、ICT関連機器の操作を必携PCにて実際に操作しながら授業展開したので、座学よりは学生のモチベーションを保てたと思う。しかし、授業中のインターネットやスマホの利用方法、また教え方に一層の工夫が必要と思われる。
本年度から、コンピュータリテラシー担当者との協議により、新しい方式での授業を展開したが、これは全くうまくいっていないように思われる。オンデマンド対応も可能な授業展開ですので、後期から変更するようにお願いした。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

学生が課題を回答中に教室内を巡回し、なるべく個別に質問が受けられ、質問しやすい状況を作りながら授業を展開した。中間アンケートで「少し難易度が高い」ことが挙げられていたが、より分かりやすい事例を取り入れて解説した。
リテラシー系科目は、少し難しめの課題を予習として出題し、自立学習を促した。今後、履修者全員が満足できるような、より魅力のある講義を目指したい。また、難解な科目をより分かりやすく講義・解説するように心がけ、学ぶことの楽しさを知らない学生にその魅力を伝え、積極的な授業参加を促したい。更に、講義中に質問をしやすい状況を作れるように授業を組み立てていく。

4. 学生へのメッセージ

どの授業も一人ひとりが、非常に真面目に取り組んでいたので、スムーズに授業が展開できました。講義で習得したスキルは、今後の大学生活だけではなく、社会人になっても必要なものです。様々な場面で活用してほしい。また、コンピューターの分野は日進月歩する分野ですので、現状に満足せず常に最新の情報を取り入れ、日々学習を続けてほしい。学校図書館は、子供たちにとって非常に重要な教育の場です。良書をしっかり見極められるように、まずは自分自身が多くの本を読んで下さい。また、教職員にとっても非常に重要な場所です。情報関連機器の使用はもちろんのこと、その操作方法の指導が出来るようにしておくことも重要です。学校現場も多様化した時代ですので、オールマイティに対応できるように自身を磨き続けてもらいたい。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

教育 学科 教員氏名 木野 正一郎

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 道徳教育の理論及び指導法［PP2431組用、PS2421組用］ | 81 | 76 | 93.8 | 4.32 | 0.66 | 4.32 | 0.64 | 4.25 | 0.61 | 4.32 | 0.66 |
| 道徳教育の理論及び指導法［PP2432組用、PS2422組用］ | 64 | 60 | 93.8 | 4.18 | 0.64 | 4.23 | 0.60 | 4.16 | 0.69 | 4.23 | 0.64 |
| 道徳教育の理論及び指導法［PP2433組用,FC用］ | 87 | 77 | 88.5 | 4.21 | 0.61 | 4.25 | 0.63 | 4.17 | 0.66 | 4.22 | 0.67 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

本科目は、文部科学省（平成29年）「教職課程コアカリキュラム」に基づき、①道徳教育の原理、②道徳教育の歴史や現代社会における諸課題、③発達心理学（社会心理学含む）、④学習指導要領の理解、⑤多様な指導法、⑥学習評価、⑦学習指導案の作成より構成している。シラバスも文科省の審査を経て認定されており、コアカリキュラムの規定を厳格に遵守すべき科目である。授業担当者としては上記の趣旨に大いに賛同しており、従来型の「一元的に価値観を教え込む道徳」から、「多様な価値観に触れながら問題解決的に考え議論する道徳」へパラダイムシフトできるよう授業を展開している。原理としてはデューイやローティの理論に基づくプラグマティズム道徳に重点を置き、歴史的には諸子百家の教えを基に個（個性化）と集団（社会化）について理解を深められるよう工夫した。また、発達心理学や社会心理学の知見も取り入れ、後半の「実践の部」での指導案作成に「理論の部」の学習成果を反映できるよう全体を構造化している。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

上記の3クラスはすべて同一内容で実施した。加重平均による3クラス合計の満足度は5点満点中4.26であり、概ね同水準の高い評価を得た。特に受講生が80名を超えるコマ（火1・木2）では、アクティブ・ラーニングの実施にあたり受講生・指導者ともに工夫を要する場面が多かった。大人数クラスにおいてもスムーズに議論が行えるよう、グループ編成やICT活用を駆使したが、さらなる効率化に向けて見直しを検討したい。課題量は多めであったが（欠席者・公欠者へのオンデマンド課題含む）、自由記述等からは理解が深まった様子がうかがえ、受講生の主体的な取り組みに感謝したい。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

第1回に示したルーブリックおよび課題提出時の留意点に基づき、毎回の課題を10段階で評価した。これを平常点70%、指導案点（パフォーマンス評価含む）30%の100点満点に換算して最終成績を算出した。評価においては、コアカリキュラムに基づく知識・技能の活用および「考え議論する道徳」の到達度を重点とした。ルーブリックに基づく得点率の分布を踏まえ、厳正に達成度を判定した結果、到達度の高い学生が多く、最終成績分布はS: 48.5%、A: 42.4%、B: 3.5%、C: 2.6%、G（未受験者）: 3.1%（※端数処理済）となった。学生の学習意欲の高さが好成績に結実したと考えている。

4. 学生へのメッセージ

全体的に意欲的な参加が多く、手ごたえを感じる授業となった。道徳教育のカリキュラムは多岐にわたるため、全体像の把握に苦労した学生も多かったと推察する。また「考え議論する道徳」は従来型と異なり、概念の理解に戸惑いがあったかもしれない。一つ一つの用語を記憶する「コンテンツ的な学び」にとどまらず、理論の背景や全体像を捉える「コンピテンシー的な学び」へ昇華してもらえたなら幸いである。道徳は人権や平和等に関わる重要科目であり、毎回の修得と指導案への反映が不可欠であるため、公欠や実習による欠席者にもオンデマンドによる完全習得を求めた。真摯に対応してくれた学生の皆さんに御礼を申し上げたい。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

教育 学科 教員氏名 濱嶋 幸司

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| キャリアデザインⅠ［企業］ | 258 | 237 | 91.9 | 4.46 | 0.58 | 4.44 | 0.57 | 4.34 | 0.72 | 4.37 | 0.71 |
| キャリアサポート［企業］ | 76 | 59 | 77.6 | 4.58 | 0.41 | 4.58 | 0.41 | 4.44 | 0.65 | 4.56 | 0.55 |
| 環トレ［FC・FE用］ | 3 | 2 | 66.7 | 4.50 | 0.25 | 4.00 | 1.00 | 4.00 | 0.00 | 3.50 | 2.25 |
| 社会調査法［FE、BC用］[週間オンデマンド] | 87 | 34 | 39.1 | 4.21 | 0.93 | 4.32 | 0.92 | 4.06 | 1.35 | 4.32 | 1.04 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

・科目の目的、到達目標（→各回でおこなうこと）を常に意識します。
・履修者に教えるのではなく、履修者がわかる／身につくを念頭に置いた授業を用意します。
・一方的に情報を伝えるのではなく、思考・作業の時間を多くとります。
・評価は公正に、事前に伝え、根拠（事実）を踏まえておこないます。やる気があり、受業に対し誠実に向き合っている学生を高く認めていきます。
・授業時間でわからなかったことがあれば、直後、オフィスアワー、クラスルーム等でも質問してもらい、確認後に早めに応答していきます。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

「社会調査法」はオンデマンドで実施としました。東京キャンパスの学生も履修しています。昨年度14名から180名以上と大幅に履修者が増えました。教育経営学科学生だけでなく現代経営学科からの履修もあり、科目に関心を持った学生の参加によって中間報告・確認試験もしっかりできていました。アンケート結果も履修者の取組姿勢と自信がうかがえます。欲を言えば、回答者がもっと多いとありがたかったです。「キャリアデザインⅠ[企業]」「キャリアサポート[企業]」については佐藤典子キャリアセンター長を中心にキャリアセンターの皆様、担当教員の先生方のお力で意欲・満足度の高い結果となっています。「環トレ」については2名の回答ですので何とも言えませんが、満足いく授業にしないといけないとは思います。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

「社会調査法」は出席状況・課題提出・最終試験を加味してS評価からC評価まで適切な分布になったかと思います。授業内容をどこまで理解しているのか、到達状況を確認しながら評価しました。最終試験の前に中間レポート（30点分）を用意し、できるだけ授業期間中に成果を確認し、評価に含めることにしました。最終試験を30点にしたので、S評価になる学生は出席・課題提出・最終試験をしっかり受けていないと取れないようにしてみました。生成AIを学習として使うのは認めつつも、解答代行にならないように注意を払いました。地道に学習している学生の評価を高くできたと思っています。「キャリアデザインⅠ[企業]」「キャリアサポート[企業]」については事前に得点も提示されておりますので、基準に基づいた妥当な評価・分布になったと思います。「環トレ」は単位のつかない学生の義務科目として位置づけています。基礎学力の向上、新年度での就活学力テストでの伸びを期待します。

4. 学生へのメッセージ

・シラバスは必ず読んでください。履修登録時、第1回目だけではなく、中盤（6-8回）や後半（12-14回）にも読み返し、科目の進捗と各回の目的を押さえておいてください。
・授業に集中しましょう。メモ・ノートをつける習慣をつけ、復習してください。とくに復習に時間を費やしてください。
・課題提出は早めにお願いします。期限を過ぎると不受理もしくは大幅な減点をおこないます。
・わからないことは授業終了直後、オフィスアワー、クラスルームでの限定コメント（メール）をして、解決のためのアクションを起こしてください。聞かないでやり過ごすより、聞いて対応することが皆さんのプラスになります。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

教育 学科 教員氏名 鈩 悠介

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 社会科教育法［FE2533組用］ | 24 | 24 | 100.0 | 4.25 | 0.44 | 4.33 | 0.22 | 4.29 | 0.29 | 4.42 | 0.24 |
| 社会科教育法［FE2532組用］ | 25 | 24 | 96.0 | 4.42 | 0.33 | 4.46 | 0.33 | 4.33 | 0.39 | 4.58 | 0.33 |
| 教育評価 | 19 | 18 | 94.7 | 4.33 | 0.33 | 4.33 | 0.33 | 4.22 | 0.51 | 4.39 | 0.35 |
| 社会科教育法［FE2531組用］ | 26 | 24 | 92.3 | 4.20 | 0.96 | 4.28 | 0.76 | 4.24 | 0.82 | 4.36 | 0.71 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

私が担当する授業はいずれの授業でも，物事を判断するための言葉を授業者が示しながら，受講者が自分の考えや信念を他の受講者とともに表現することを重要視しています。また，理論的な用語や概念を具体的な何かを「する」作業を通して把握させることに重きをおいています。自分の授業がある程度うまくいったかどうかについては、例えば学生がその用語や概念を使って作業したり、周囲の学生と会話・おしゃべりしたり、その用語や概念の便利さや不便さについて考えているかを見ています。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

今回についても全体的に良い評価をいただけたかと思います。自由記述欄の学生の記述についても、社会科教育法については、今年は自分が何かができるようになったことを積極的に表現する回答がやや増えたように思います。また教育評価についても考え方の違いやそこを調整する難しさを学べたことを学習成果として取り上げていることが印象的でした。形式的なところでの不備の指摘も少数ながらありましたので、これは今後の課題とします。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

社会科教育法については、成績の分散の度合いが例年よりやや大きくなりました。最終レポート（学習指導案）について、より適切な問い、資料、学習活動等の観点からチェックし、提示されたルーブリックに照らしてブラッシュアップする時間を是非設けてほしいと感じるところです。教育評価については全体的に高い成績となった受講生が多くなりました。これはこの講義の性質上、強い問題意識を持って受講する学生の割合が高くなりやすいことが影響を与えているように思われます。

4. 学生へのメッセージ

いつも暖かい授業評価をしてくれてありがとうございます。皆さんがどのような手応えをこの講義から感じたのかを読み取ることができました。最終的な成績はアルファベットの形でユニパに載っているわけですが、学んだことの内実はそのアルファベットではなく、皆さんが書き溜めた毎回のレポートやそれに対する私のフィードバック、最終レポート（学習指導案）から皆さん自身が改めて見出していくものです。ためしにGmailで「社会の理解」「社会科教育法」「教育評価」と検索して、過去のレポートを読み返してみるのも面白いかと思います。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

教育 学科 教員氏名 川村 康文

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 初等理科［他学科］ | 34 | 34 | 100.0 | 4.71 | 0.21 | 4.74 | 0.19 | 4.76 | 0.18 | 4.79 | 0.16 |
| 初等理科［FE2633組用］ | 28 | 28 | 100.0 | 4.46 | 0.46 | 4.32 | 0.86 | 4.21 | 0.81 | 4.39 | 0.38 |
| 理科教育法［他学科3年水4］ | 42 | 41 | 97.6 | 4.31 | 0.79 | 4.24 | 0.80 | 4.26 | 0.86 | 4.33 | 0.75 |
| 初等理科［FE2631組用］ | 28 | 27 | 96.4 | 4.22 | 0.40 | 4.04 | 0.70 | 3.93 | 0.66 | 4.19 | 0.67 |
| 初等理科［FE2632組用］ | 27 | 26 | 96.3 | 4.07 | 0.88 | 4.15 | 1.09 | 3.93 | 0.96 | 4.22 | 0.91 |
| 理科教育法［他学科3年水3］ | 26 | 24 | 92.3 | 4.75 | 0.19 | 4.71 | 0.21 | 4.67 | 0.31 | 4.71 | 0.21 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 授業の哲学は，学生に考えさせる授業を行うことで，基本，アクティブラーニングの姿勢を貫いている。教師からの一方向授業は行わず，授業内で必ず学生側の活動があるようにしている。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| 学生の側からは，きびしいという意見が多いかと思ったがそこまでではなく，学生側もアクティブラーニングな授業に応えてくれたのではないかと考えている。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| S,A，B,C，Dの基準や所感については，まず，学生にSの極みを意識させて，どこまでやれるとS評価に達するのかを提示した。これにより，昨年より学生の授業中の集中度が良くなったと感じている。また，自分もSをとれる可能性があると気づき，挑戦，達成を目指す学生を，授業中に感じ取れた。昨年より，学生が一生懸命にやってくれたと感じている。また最初から，あまあまな学生もいて，授業の雰囲気を壊すかなと思ったが，授業の後半戦ごろには，少しまっとになってきて，なんとか山を登り切ってくれたかなと感じている。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| 理科嫌いは，みなさんのせいではなく，これまでの小中高の学校で，嫌いになるような授業を受けさせられてきたことにあります。理科への苦手意識をもったまま先生になると，子ども達も理科嫌いになってしまうと考えています。その打開のためには，IPUでは楽しく明るい理科授業を準備しています。是非，IPUで楽しく明るく授業を受けて下さい。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

教育 学科　教員氏名 伊藤 仁美

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 英語科教育法Ⅲ(発展) | 20 | 18 | 90.0 | 3.89 | 1.25 | 3.89 | 1.46 | 3.63 | 2.23 | 3.74 | 1.25 |
| 英語学概論 | 9 | 8 | 88.9 | 4.75 | 0.19 | 4.75 | 0.19 | 4.75 | 0.19 | 4.88 | 0.11 |
| 国際交流実習Ⅰ(基礎) | 17 | 15 | 88.2 | 4.87 | 0.12 | 4.73 | 0.20 | 4.40 | 1.04 | 4.33 | 1.16 |
| スピーキング・スキル | 14 | 12 | 85.7 | 4.33 | 1.06 | 4.33 | 0.72 | 4.17 | 0.97 | 4.33 | 0.56 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学(または授業方針) |
| --- |
| (1) 学生が毎回の授業に期待感をもって臨むことができる<br>(2) 学生が肯定的な学習経験を積み重ねることができる<br>(3) 学生が自ら学び、他者と学び合う意義を感じることができる |
| 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して |
| 英語科教育法Ⅲ(発展)では、前半はPPPモデルの実践、後半は個人での模擬授業と振り返りに取り組んだ。段階的な分析ワークを取り入れ、学生がより自信を持って実践・省察に取り組めるよう授業内容を改善していく。英語学概論では、対話ベースの演習を取り入れ、練習問題の精選と配置順の改善を行ったことで、抽象的で難解な概念の理解と定着が進み、過去最高値を記録した。国際交流実習Ⅰ(基礎)では、学生がつい日本語を使ってしまう背景の分析を踏まえ、今後は学生の実態に合わせたタスク難易度の再考と最適化を進める。スピーキング・スキルでは、モノログ中心の活動から展開し、今後はターンテイキングが柔軟に発生するグループディスカッション等の実践的なタスクにより比重を置いていく。☒ |
| 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して |
| 成績評価の基準は、シラバスに基づいており、妥当であると考える。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| 授業評価アンケートへの回答、ありがとうございました。次年度に向けて、さらなる授業改善に努めます。 |

担当:教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

教育　　学科　　教員氏名　井上　聡

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 実践英文法(基礎) | 26 | 25 | 96.2 | 4.48 | 0.49 | 4.28 | 0.84 | 4.08 | 1.19 | 4.32 | 0.70 |
| 英語科教育法Ⅰ(基礎) | 12 | 10 | 83.3 | 4.50 | 0.45 | 4.40 | 0.44 | 4.20 | 0.96 | 4.40 | 0.44 |
| 上級英語文法［英語教員希望者限定週間オンデマンド］ | 20 | 15 | 75.0 | 4.40 | 0.44 | 4.50 | 0.45 | 4.30 | 0.41 | 4.50 | 0.45 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

「面白くなければ授業ではない」が私のモットーです。

ただし、ここでいう「面白さ」は、単に笑いがあるという意味ではありません。「なるほど」と知識がつながる面白さ、難しい問題を解けたときの達成感、自分とは違う考え方に出会う面白さなど、授業には様々な面白さがあります。ときにはかなり難しい内容にも踏み込みますが、最初は分からなかったことが、予習や授業、議論を重ねるうちに分かるようになる。その過程こそ大学で学ぶ面白さだと思っています。「教員が教える時間」ではなく、学生と一緒に知的な面白さをつくる授業を目指しています。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

実践英文法（基礎）は、元気な1年生に囲まれ、私自身も楽しく授業をさせてもらいました。一方、文法理解や課題管理には個人差があり、後半の長文演習ではその差がやや広がりました。ただ、「分かったつもり」の知識を実際の英文で使ってみるという点では、一定の手応えを感じています。
英語科教育法Ⅰは少人数だったため、かなり踏み込んだ議論や小テスト作成まで取り組むことができました。異学年の境界を越えた交流が自然に生まれたことも印象的でした。
上級英語文法では、予備校等でもなかなか扱わない高難度の内容まで踏み込みました。「上級」と名乗る以上、中途半端にはしたくないという私自身のこだわりもあります。大半の学生が最後までしっかり取り組んでくれました。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

成績評価については、求められた課題に誠実に取り組み、必要な水準までやり遂げた学生には、分け隔てなく単位を認定しています。そのうえで、質の高い成果には「S」を、最低限度の到達には「C」を付与しました。
3科目とも「事前課題（予習）」「振り返りコメント」「理解度確認テスト」を組み合わせて評価しました。課題提出が極端に少ない、あるいは取り組みが著しく粗い場合には「D」としました。
特に気になったのは、1年生では基礎力や課題管理力の個人差、2年生ではAIのやや雑な使い方です。AIを使うこと自体は大いに結構ですが、「AIが答えたから提出する」だけでは本人に何も残りません。便利な道具だからこそ、使い方によって学びの差が広がると感じました。

4. 学生へのメッセージ

私の授業では、課題を丁寧にこなし、できるだけ個人差を埋めた状態で授業に臨むことを約束事にしています。反転授業では、事前課題をやって初めて対面授業が面白くなります。材料を持って教室に集まり、議論したり、疑問をぶつけたりする時間を一緒につくってほしいと思います。
そしてAIについて。授業でも何度か言いましたが、ぜひ自分の実になるように使ってください。答えをコピーするだけなら、AIだけが仕事をして、皆さん自身は成長しません。
どうせ使うのであれば、「なぜ？」「別の説明は？」「この説明の弱点は？」と問い続け、AIに使われるのではなく、AIを使い倒すくらいになってください。
授業も同じです。与えられたものをこなすだけでなく、自分なりの疑問や面白さを見つけてください。その面白さを皆さんと一緒につくることが、私にとって授業をする一番の楽しみです。

担当：教務課／大学評価・IR室

## 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

教育　学科　教員氏名　羽田　あずさ

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1（注意） | | 項目2（関連） | | 項目3（自信） | | 項目4（満足） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 初等英語［FE2622組用］ | 39 | 39 | 100.0 | 3.77 | 0.84 | 3.85 | 0.85 | 3.72 | 0.92 | 4.15 | 0.64 |
| 比較文化論 | 6 | 6 | 100.0 | 4.83 | 0.14 | 5.00 | 0.00 | 4.83 | 0.14 | 5.00 | 0.00 |
| 幼児英語指導法Ⅰ | 5 | 5 | 100.0 | 4.80 | 0.16 | 4.60 | 0.24 | 4.60 | 0.24 | 4.60 | 0.24 |
| 初等英語［FE2621組用］ | 59 | 56 | 94.9 | 3.86 | 1.17 | 3.85 | 1.08 | 3.68 | 1.40 | 3.76 | 1.30 |
| 小学校英語科教育法［FE2432組用］ | 35 | 32 | 91.4 | 3.82 | 1.12 | 3.64 | 1.14 | 3.52 | 1.04 | 3.48 | 1.34 |
| 異文化コミュニケーション論 | 39 | 34 | 87.2 | 4.14 | 0.75 | 4.06 | 0.80 | 3.94 | 1.20 | 4.09 | 0.88 |
| 小学校英語科教育法［FE2431組用］ | 28 | 24 | 85.7 | 4.08 | 1.53 | 4.00 | 1.46 | 3.88 | 1.64 | 3.92 | 1.69 |
| 小学校英語科教育法［FE2433組用］ | 26 | 21 | 80.8 | 3.95 | 1.23 | 4.14 | 1.12 | 3.82 | 1.60 | 3.86 | 1.66 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

・振り返りを大切にしています。スパイラルに学んでいくことで、記憶の定着を図る授業設計にしています。前時の振り返りからスタートするのはそのためです。皆さんの振り返り（質問）から、新たな知識を共有することもできました。

〇小学校外国語科（英語）教員養成
〇異文化コミュニケーション・比較文化

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

〇英語の理解：1年生の授業でした。タイムマネジメントや授業運営がスムーズにいかず一人一人にポジティブなフィードバックができず申し訳なかったと感じています。それでも、毎時間のペアワークに楽しく取り組んだりや専門的事項の講義をしっかりと聞いてくれてありがとうございました。
〇異文化コミュニケーション論：1年生から4年生まで学科の異なる学生が受講しました。目的意識や意欲が異なる多様な学生がいる中で、なるべく様々な人が交流できるように心がけました。ペアやグループワークに積極的に取り組んでくれてありがとうございました。
〇比較文化論：2年生から4年生まで学科の異なる学生が受講しました。課題に対し調べたことから自分の考えを構築し、発表しあうことで知識だけでなく多様な人の考えを知ることができる貴重な機会でした。私にとってもたくさんの学びとなりました。ありがとうございました。
〇小学校英語科教育法：3年生の授業でした。英語が好きな人も苦手意識がある人もそれぞれの取り組み方でベストを尽くしていることが伝わってきて本当に嬉しかったです。「授業はみんなで作り上げるもの」という意識で盛り上げてくれた人もいました。ありがとうございました。ここで学んだことが現場で何かの役に立つことを願っています。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

〇英語の理解：授業への参加度（30%）、課題（30%）、最終発表＆レポート（40%）：課題と最終発表＆レポートはルーブリックで規準をお示ししました。課題の再提出や発表の再チャレンジを受け付けた結果、自身の努力で評価が上がった人もいます。
〇異文化コミュニケーション論：課題への取り組み（30%）、レポート課題（50%）、テスト（20%）：課題の占める割合が大きいので毎回の課題を真摯に取り組んだ人や再提出を受け付けましたので、自身の努力によって成績が上がった人もいます。
〇比較文化論：授業参加度（30%）、課題（40%）、発表（20%）：課題（プレゼン資料作り）とその発表の占める割合が大きく、学生の皆さんが真摯に取り組んだ成果が現れていました。
〇小学校英語科教育法：マイクロティーチング・ディスカッション（30%）、課題・レポート（30%）、模擬授業・指導案（40%）：毎時間の課題やマイクロティーチングや模擬授業に地道に、真摯に取り組んだ成果が現れていたと思います。

4. 学生へのメッセージ

授業は、教員だけが作るものではなく学生と教員が一緒に作るものだと思っています。学生と教員、学生同士の相互作用で、学びが深まることを期待しています。積極的に他者との対話を楽しみ、思考を働かせながらアクティブに聞き、自分の考えを広げたり深めたりすることができる授業を目指しています。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

教育 学科　教員氏名 岸本 勝義

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| キャリアデザインⅠ［教職］ | 168 | 159 | 94.6 | 4.47 | 0.60 | 4.38 | 0.68 | 4.38 | 0.70 | 4.39 | 0.74 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

本講座は、教職を目指す学生が講義やグループディスカッションなどの実践的な活動を通し、教員として働くことの意義や自己理解を深め、教員として必要な資質・能力を養うことを目的としている。また、教育現場の最新の現状を知り、教員採用試験の基本的事項への理解を深めることで、自身の将来や生き方について主体的に考える機会とする。受講生は「絶対に教員になりたい」という強い志をもつ学生から、「どの道に進むべきか」と迷っている学生まで多岐にわたる。そのため本講座では、社会人としての基礎基本である「立ち居振る舞い」や「教員としての心構え」をはじめ、「教育現場の課題」「求められる資質・能力」「信頼される教師とは」等を幅広いテーマを取り上げ、多様な視点から教職を見つめ直せるよう設定した。本講座が学生一人一人の主体的なキャリア形成に役立つとともに、「教員になりたい」という想いをいっそう確かにし、教員採用試験合格に向けて着実に努力を重ねていくための原動力となることを期待している。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

授業評価アンケートでは全項目で平均値が4.3を超えており、学生の授業に対する満足度は高く、おおむね良好な結果であった。第1回と第14回の授業において、学生の「教職への思い」を5件法（「迷っている：1点」～「絶対に先生になりたい：5点」）で調査した結果、「絶対に先生になりたい」の割合は38.3%から55.2%へと増加した。「先生になりたい（4点）」を含めた回答は75.2%にのぼり、受講を通して教職に対する熱意が全体として高まったことがうかがえる。また、学習成果として「教員になってから教員の姿勢や信頼される教員とは何かを考えるきっかけになり、教員になりたい強く思うことができた」「教員になる上で自分に今足りないことやこれから伸ばしていくべき力は何かを考えるようになった」「教員になりたいという気持ちを再確認できた」といった前向きな意見が多くみられた。受講生それぞれが自身の適性や将来像と向き合い、教職への価値を再発見したと思われる。なお、他コースへの変更を予定している学生は23名であったが、本講座への参加を通じて教職への理解が深まり、自身の進むべき方向性を再検討した結果であると考えられる。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

評価項目は「出席（20%）」「学習態度（20%）」「各回のレポート（20%）」「最終レポート（40%）」と設定した。最終レポートについては、評価者間のばらつきを抑える工夫として第1評価者と第2評価者による2段階評価を行い、その平均値を算出し評価した。また、あらかじめ記述のポイントや留意点、評価の視点を学生に明示して取り組ませた。評定結果ではS・A評定の学生が83.2%を占めており、多くの学生が教員になるための基礎を修得すべく、意欲的に授業へ取り組んだことがうかがえる。また、学生の記述の中に「前半の全体での講義だけでなくグループごとに分かれて話し合いをしたことで、新たな視点を発見することができた」といった内容が多くあり、グループディスカッションへの意欲的な姿勢も、積極的に評価している。今後も、前半の全体講義を短時間に集約し、後半のグループディスカッションの時間を十分に確保することで、学生同士の対話による学びの機会を大切にし、より実践的で質の高い学びの深化を図っていきたい。

4. 学生へのメッセージ

「キャリアデザインⅠ」を通して、教師に求められる資質や能力、そして仕事の重みや責任について多角的に理解を深められたことと思います。現在の学校教育は、多様化する社会課題や教育現場の多忙化といった現実に直面しています。それでも、皆さんが教職を志すのは、教員が他に代えがたい魅力的でやりがいのある仕事だからです。子どもの未来を切り拓く人間形成に深く関わり、学校生活を共有しながら、子どもが壁を乗り越えた瞬間を共に喜び、自らも大きく成長していけるのは、教員という仕事ならではの大きな魅力です。「教員になる」という目標を達成するためには、採用試験対策はもちろん、最新の教育課題とその対策など、これからまだまだ多くのことを学び深めねばなりません。しかし、IPUは同じ志を持つ頼もしい多くの仲間がいます。そして私たち教職支援室の教員も、皆さんの目標達成に向けて全力でサポートします。後期の「キャリアデザインⅡ」でも、「チームIPU」として共に励まし合い、夢を叶えるための努力を着実に重ねていきましょう。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

教育　学科　教員氏名　高橋　章二

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1（注意） | | 項目2（関連） | | 項目3（自信） | | 項目4（満足） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 重複障害児教育総論 | 62 | 56 | 90.3 | 4.48 | 0.50 | 4.50 | 0.54 | 4.32 | 0.79 | 4.45 | 0.60 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 幼・小・中・高・特別支援学校では，学習指導要領の改訂の中で資質・能力の育成をめざして，主体的・対話的で深い学びを軸とした授業改善が行われている。このことは，大学での授業においても共通するものであり，学生が表面的な知識や技能の獲得のみに留まることなく，問題の本質に迫り，自らが課題解決に向けて主体的に行動することが必要である。そのため，授業の中に，グループワークや演習，自己表現の場を積極的に取り入れていき，自分の考えをまとめ，表現し，議論をしていく過程の中で，自分とは違う考えに触れることにより，物事を一面的でなく多面的に捉え，深く課題に迫ってほしいと考えている。教師と学生，学生相互の議論を基軸とした授業でありたい。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| 学生が表面的な知識や技能の獲得のみに留まることなく，問題の本質に迫り，自らが課題解決に向けて主体的に行動することが必要である。そのため，授業の中に，グループワークや演習，自己表現の場を積極的に取り入れていき，自分の考えをまとめ，表現し，議論をしていく過程の中で，自分とは違う考えに触れることにより，物事を一面的でなく多面的に捉え，深く課題に迫ってほしいと考えている。教師と学生，学生相互の議論を基軸とした授業でありたい。満足度が4．5であり、学生たちのニーズを十分に把握しながら次年度の同授業改善をさらに行っていきたいと考えている。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| 授業内容の理解を図るためにふりかえり課題を毎回出している。また、翌週の授業では簡単な確認テストを行い、授業内容の理解を確認していった。このことは、授業アンケートの自由記述から学生からも一定評価をもらっており今後も続けていきたい。成績については、出席・授業態度20%、毎回のふりかえり課題30%、最終テスト50%の配分で評価を行っている。最終評価については、S,Aの学生が80%近くおり、多くの学生は内容の理解ができていると考えられる。B,Cの学生については、出席・授業態度も問題がなく、また、ふりかえり課題も提出をしているが、最終テストの点数が悪いことが成績に影響をしていると考えられる。最終週に、今まで学習してきた内容の各講義のポイントを押さえる授業を行ってきているが、B,C学生については、基礎内容を覚えるということが十分にできていないように感じる。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| 特別支援教育は教師を目指すものとして必ず身に付けておかないといけない基本事項だと考えています。令和4年12月には、通常学級で学ぶ児童生徒の中で、特別な支援が必要な児童生徒が8.8%いるという報告が出されました。35人学級でいえば各クラスに3人は在籍するということになります。今後は、すべての教員が特別支援教育の専門性を身に付け，特別な支援が必要としている子どもに対して適切な対応ができることが必要となります。本学では特別支援学校教諭の免許状が取得可能です。特別支援学校での教員を目指す学生、通常学級の中で支援が必要な子どもたちに適切な教育を行いたいと思っている学生は、ぜひ特別支援学校教諭の免許状を積極的に取得してもらいたいと考えています。また、重度重複障害児教育総論は、5障害のうち2つ以上の障害が重なっている子どもたちの指導・支援を考えていくための授業です。この授業の内容の理解のためには、5障害、それぞれの障害理解も求められます。ですから、授業以外でも積極的に学ぶ姿勢が必要になります。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

教育 学科　教員氏名 三堀 仁

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 生活科教育法 [FE2432組用] | 37 | 34 | 91.9 | 4.24 | 0.59 | 4.21 | 0.63 | 4.15 | 0.83 | 4.21 | 0.69 |
| 生活科教育法 [FE2431組用] | 22 | 20 | 90.9 | 4.75 | 0.19 | 4.75 | 0.19 | 4.80 | 0.16 | 4.80 | 0.16 |
| 生活科教育法 [FE2433組用] | 25 | 22 | 88.0 | 4.32 | 0.58 | 4.45 | 0.52 | 4.27 | 0.56 | 4.41 | 0.61 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

授業を行うに当たって常に心掛けていることは「実践力」をつけるということです。学校現場では、教師として児童の前に立ったその時から求められる知識や技能があります。それは教育現場に立ってから経験によって身につくものも多くありますが、学生の段階で学び、獲得できるものもあります。基本的な指導方法、教材研究の仕方、教科書の使用方法、場面に応じた児童への関わり方など、具体的な活動場面を取り入れています。これによってある程度の実践力を授業を通して学び取ることができると考えています。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

生活科教育法の授業の中ではなるべく実践事例を紹介し、この場面はどのように捉えたらよいか、教師としてどのように対応したらよいか、具体的に考えてもらうようにしました。また、グループで話し合って考えを深めたり他のグループの発表を聞いて新たな気付きを得たりする場面を多く取り入れました。さらに、100分授業になったことを踏まえ具体的な教材づくりにも取り組みました。実際に制作活動を行うことで児童の気持ちを想像し指導に際しての留意すべき点に気付くことができました。アンケートではそうした点を受講者から評価してもらっているので今後もその方針で授業を行っていきたいと考えます。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

成績評価は学習態度、学習深度、課題への取組で評価しています。学習態度は授業に臨む姿勢や振る舞い、学習深度は毎回の「学習のまとめ」の記述内容から、課題への取り組みは「課題に対してしっかり向き合い自分の言葉で表現しているか」という視点で評価しました。授業に真面目に参加し真摯に課題に取り組んでいればA評価になるように点数配分をしています。「学習のまとめ」やレポート課題が優れていればS評価となります。レポートが自分の言葉で書かれていなかったり字数が足りなかったりするような内容であればB・C評価になってしまいます。今回の受講者も真面目に取り組んでいた学生が多くいました。

4. 学生へのメッセージ

具体的な事例を通して考える、体験を通して考える、グループ協議を通して考える、この3点は授業の中で今後もしっかりと取り組んでいき、教師を目指す学生の皆さんに実践力をつけてほしいと考えています。また、教育現場で困らないように学習指導案を適切に書けるよう丁寧に指導していきたいと考えています。教壇に立った時「そういえば…」と思い出してくれるようなことがあれば嬉しく思います。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

教育　学科　教員氏名 四宮貴久

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1（注意） | | 項目2（関連） | | 項目3（自信） | | 項目4（満足） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 総合表現概論 | 26 | 25 | 96.2 | 4.60 | 0.50 | 4.36 | 0.86 | 4.16 | 1.14 | 4.52 | 0.77 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

プロデュース、脚本、演出等の専門家による講義を通じて、表現に関わる多様な知識を広げるとともに、見識を深める。あわせて、自らのアイデアを他者に的確に伝えるための基礎的な文章構成力を養い、企画立案および実践への導入を図る。
【到達目標】
1. 各専門家からの講義を理解している。
2. 表現活動に関する多様な視点を踏まえ、自らの考えを整理し、見識を深めることができる。
3. 自らのアイデアを他者に的確に伝えるための基礎的な文章構成力を身につけている。
4. 基礎的な企画を立案し、その内容を他者に説明・共有することができる。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

4項目の平均値を単純平均すると4.41点。特に「興味・関心」と「満足度」が4.5を超えているため、授業そのものへの好意的な受け止めは非常に強いと考えられる。これに対して、「（問3）この授業を受講して自信が高まりつつある」では、自己効力感を得られなかった回答が3件あることから、一部の学生に対しては何かしら負荷がかかっていたことが推測される。その一つの要因として考えられるのが、手書きでA41枚（雛形あり）のレポート課題を与えていたことだ。自分の考えを自らの手で言語化すること、AIによる不正を退けるものとしての措置であったが、書くことが苦手な学生にとっては辛く感じられるものであったのかもしれない。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

受講者26名のうち21名がSまたはA評価となり、多くの学生が授業で設定した学習目標に十分到達した。特に、出席93.4%、協働活動における相互評価87.3%、コンテンツ発表84.2%と、高い成果が見られた。一方、課題の未提出が多い学生では総合得点が大きく低下しており、継続的な課題への取り組みに学生間の差が見られた。次年度は、課題未提出が蓄積する前の段階で声かけや進捗確認を行うなど、学習から離脱しつつある学生への早期支援を強化したい。

4. 学生へのメッセージ

この授業では、さまざまな分野で活躍する専門家の話から、知見を広げることを目的として学んできました。そして、自分の考えを言葉にし、仲間と共有し、企画として形にすることに取り組んでもらいました。毎回のレポートやグループ活動、コンテンツ発表など、それぞれが真摯に取り組んでくれたことを嬉しく思います。本コースにおいて「歌」「ダンス」「演技」の技術力を高めることは大切なことです。合わせて、自ら考え行動し、協働して何かを生み出すことが、これから社会で活躍していくために欠かせない力となります。今回の授業で得た学びを、これからの表現活動や教育現場、そして自身の挑戦につなげてくれることを期待いたします。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

教育 学科　教員氏名 小川 智勢子

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 国語科教育法［他学科A］ | 13 | 13 | 100.0 | 4.46 | 0.25 | 4.62 | 0.24 | 4.62 | 0.24 | 4.77 | 0.18 |
| 初等国語［FE2622組用］ | 68 | 67 | 98.5 | 3.88 | 0.99 | 3.93 | 1.01 | 3.79 | 0.90 | 3.99 | 0.81 |
| 初等国語［FE2621組用］ | 57 | 55 | 96.5 | 4.21 | 0.81 | 4.21 | 0.74 | 4.11 | 0.92 | 4.23 | 0.75 |
| 国語科教育法［他学科B］ | 27 | 26 | 96.3 | 4.42 | 0.47 | 4.46 | 0.48 | 4.35 | 0.53 | 4.46 | 0.48 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

◎私の授業では、「話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと」という国語科で育成する言語能力を、学生自身が実践的に学べるような授業づくりを心がけています。毎回のノートデータの提出や原稿用紙での振り返りは、ICT活用が進む現在においても、国語科における「書くこと」の指導につながる大切な課題だと考えています。また、受け身の授業にならないよう、グループワークや個人発表をこまめに取り入れ、「話すこと・聞くこと」を実践的に学べる機会を多く設けています。読書課題にも力を入れており、図書館で本を借りる課題、読書レポートの作成、自分が選んだ本について仲間に語る活動、さらに国語科教育法では本の購入も課題としました。こうした取り組みを通して学生一人一人の言語能力を高めながら、子どもに国語科を教える視点を身につけられる授業を目指しています。今年度は特に国語科教育法における指導案作成と模擬授業の充実を図っています。そのため、授業内にショート模擬授業を取り入れ、実践的な学びを積み重ねられるよう工夫しています。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

★初等国語では、「自分の考えをしっかりと周りに表現することの大切さと言葉の難しさを学ぶことができた」「日本古来の文化に気づくことができた」「”教える側”の視点から深く学ぶことができた」「国語を学ぶ理由や読書の楽しさを知った」など、多面的な学習成果が記述から読み取れました。一方で、「説明が分かりやすい」という評価がある反面、「授業内容が理解できないことがあった」という記述もあり、分からないことを率直に言える雰囲気づくりや、安心して質問できる場の設定が必要になると感じました。★国語科教育法では、「授業内で漢字の筆順や発問のミニ模擬授業をステップのように取り入れてくださったので、最後の模擬授業をガチガチになりすぎずに行うことができた」「否定から入るのではなく、しっかりとできているところを褒めてくださったから、厳しいことを言われることもあったが自分のどこができていないか一方でどこが良くできていたのかなど振り返るときにすごく参考になった」との評価がありました。授業内で段階的にミニ模擬授業を取り入れたことが、学生の安心感や学びの深まりにつながったと捉えています。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

◎学生のみなさんの成績は、私の指導の結果であり、指導と評価は一体のものだと考えています。第 1 回目の授業で、授業のルールと評価方法を示し、毎回のノート提出や振り返りは形成的評価としてフィードバックしてきました。国語科で「言葉」を学ぶことは、細かなルールを理解し、形式を整える力を身につけることでもあります。そのため、レポートの書き方が指示と異なる、文末表現が統一されていない、段落構成が不十分といった点で減点された学生もいました。一見細かな点に見えますが、共通のルールに基づき誤解なく伝え合うためには、形式を整えることが重要です。こうした基礎的な力の積み重ねが、将来子どもたちに言葉を教える際の確かな土台になると考えています。

4. 学生へのメッセージ

◎14回の授業のうち7回を終えた段階で独自に振り返りアンケートを実施し、後半の授業改善に役立てました。また、これまでみなさんが小・中・高校で受けてきた国語科授業を振り返りながら、本授業を共につくる場面も設けました。2026年度前期の授業を通して、私自身もみなさんから多くの学びを得ることができました。授業にはまだ改善すべき点があると感じていますが、みなさんの真剣な姿勢が私の指導を支えてくれました。本授業を通して、学び続けることの楽しさや大切さを感じてもらえたら嬉しく思います。週1回100分✕14回、みなさんと過ごした時間は非常に有意義でした。将来、みなさんから国語科の授業を受ける子どもたちのために、これからも、ときに厳しく、しかし根本は優しく、楽しく、共に授業を創っていきたいと考えています。次世代の教育を、一緒によりよいものにしていきましょう。

担当：教務課／大学評価・IR室

## 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

教育　学科　教員氏名　小澤　尚子

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| ダンスⅠ(基礎) [PP･PS用] | 69 | 67 | 97.1 | 4.78 | 0.42 | 4.70 | 0.46 | 4.69 | 0.50 | 4.75 | 0.44 |
| 体育実技 [FE③(表現コース用)] | 27 | 25 | 92.6 | 4.40 | 0.71 | 4.08 | 1.12 | 4.12 | 1.05 | 4.00 | 1.04 |
| ダンスⅠ(基礎) [PH･PP･PS女子用] | 48 | 44 | 91.7 | 4.73 | 0.45 | 4.68 | 0.47 | 4.64 | 0.61 | 4.64 | 0.49 |
| ダンスⅠ(基礎) [PP･PS男子用] | 60 | 54 | 90.0 | 4.67 | 0.58 | 4.67 | 0.61 | 4.61 | 0.66 | 4.67 | 0.58 |
| ダンスⅠ(基礎) [PP･PS男子用] | 63 | 49 | 77.8 | 4.61 | 0.67 | 4.59 | 0.73 | 4.63 | 0.64 | 4.67 | 0.59 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 誰一人取りこぼさず、より親しみやすくダンスに取り掛かれるような授業展開を大切にしている。毎時のめあてとDKW（ダンスキーワード）を提示し、学習記録を通して、その時間に学んだことを振り返る機会を設けた。また、個人の技能だけでなく、仲間とともに学ぶ集団としての意識を重視した。現代的なリズムのダンスでは、随時、列ごとに動きを確認し、「できた・できない」だけにとらわれずに踊ることを楽しみながら、それぞれの「できた」を喜べるよう工夫した。こうした積み重ねが、ダンスへの抵抗感の軽減につながったのではないかと考えている。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| 「ダンスⅠ（基礎）」は、4クラスとも4項目の平均値が4.59以上であり、回答した学生から概ね肯定的な評価が得られた。毎時間のめあてやDKWの提示、学習記録、列ごとの動きの確認を通して、一人一人が学習内容を捉え、安心して取り組める授業を目指した。今後も学生の様子や学習記録を丁寧に捉え、誰一人取りこぼさない授業づくりを継続したい。<br>「体育実技」は、興味・関心4.40、受講ニーズとの一致4.08、自信4.12、満足4.00であった。授業への関心に比べ、満足や受講ニーズとの一致はやや低い結果であった。授業のねらいと活動のつながりをより分かりやすく伝えるとともに、毎時間の学習記録から学生のつまずきや実感を捉え、指導の工夫につなげたい。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| ダンスの評価では、現代的なリズムのダンステストを個人で20点、創作ダンスをグループ創作で20点の評価項目として設定した。個人で取り組む学習と、仲間と創作する学習の両方を評価することを意図した。創作発表会ではステージで発表する機会を設け、互いの表現から刺激を受け、他者の表現を受け止める態度を育むことや、発表するやりがいにつなげることを大切にした。今後は、技能面の評価だけでなく、創作や鑑賞を通して得た学びについても学習記録と照らし合わせ、授業のねらいに対する到達状況を丁寧に振り返りたい。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| ダンスは、「できた・できない」だけで捉えるものではありません。一人一人の感じ方や表現を大切にしながら、まずは身体を動かしてみること、仲間の表現を受け止めることを、これからも大切にしてください。授業や創作発表会での経験を振り返り、自分の小さな「できた」にも目を向けてほしいと思います。仲間とともに学び、互いのよさを認め合いながら、表現する楽しさを広げていくことを願っています。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

健康科 学科　教員氏名 河野 儀久

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| アスレティックトレーナーの役割 | 54 | 54 | 100.0 | 4.33 | 0.70 | 4.26 | 0.78 | 4.04 | 0.96 | 4.20 | 0.68 |
| 予防とコンディショニングⅡ | 12 | 12 | 100.0 | 4.25 | 0.52 | 4.33 | 0.39 | 3.92 | 0.91 | 4.25 | 0.52 |
| アスレティックトレーナー実習Ⅰ［PH用］ | 77 | 76 | 98.7 | 4.32 | 0.74 | 4.21 | 0.92 | 4.12 | 0.91 | 4.16 | 0.88 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

授業では、アスレティックトレーナーに求められる専門的知識・技術を身につけるだけでなく、現場で自ら考え、判断し、行動できる力を育成することを重視している。講義と実技・実習を関連づけ、選手の安全管理や傷害予防、コンディショニングに関する知識を実践へつなげるとともに、他職種・関係者とのコミュニケーション能力や主体的に学び続ける姿勢の育成を目指している。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

予防とコンディショニングⅡ（4.25／5.00）
学生から概ね高い評価を得ることができた。傷害予防やコンディショニングに関する知識を、実際のスポーツ現場を想定した内容と関連づけて指導したことが、理解や関心につながったと考える。今後は、より実践的な課題や事例を取り入れ、学生が主体的に考え、応用する機会を増やしたい。

アスレティックトレーナーの役割（4.20／5.00）
一定の高い評価を得ることができた。アスレティックトレーナーの専門的役割だけでなく、選手・指導者・医療従事者等との連携やコミュニケーションの重要性を具体的な事例を通して伝えたことが、学習につながったと考える。今後は、学生同士のディスカッション等をさらに充実させ、主体的な学びを促したい。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

予防とコンディショニングⅡ
授業で扱った基礎的な知識を概ね習得できている学生が多かった。一方で、知識を実際のコンディショニング場面に応用する力には個人差が見られたため、今後は思考・判断を伴う課題を充実させたい。

アスレティックトレーナーの役割
アスレティックトレーナーの役割や業務についての理解は概ね良好であった。今後は、単なる知識の習得にとどまらず、さまざまな状況に応じて自ら考え、適切に判断する力をさらに育成したい。

4. 学生へのメッセージ

授業で得た知識を覚えるだけでなく、「なぜこの方法を選択するのか」を考える習慣を身につけ、現場で活用できる力につなげてください。またトレーナーの仕事は「知っている」だけでは務まりません。選手やスタッフとの関わりを大切にし、相手の立場を考えて行動できるトレーナーを目指してください。そして実習では、失敗を恐れず積極的に挑戦してください。技術は繰り返し練習することで身につきます。一つ一つの経験を大切にし、現場で信頼されるトレーナーへ成長していきましょう。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

健康科 学科　　教員氏名 古山 喜一

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 整復学実技Ⅶ(総合) | 48 | 48 | 100.0 | 4.46 | 0.58 | 4.52 | 0.37 | 4.58 | 0.28 | 4.52 | 0.42 |
| 臨床柔道整復学演習Ⅰ［4年生用］ | 49 | 49 | 100.0 | 4.51 | 0.41 | 4.53 | 0.41 | 4.47 | 0.45 | 4.53 | 0.37 |
| 臨床柔道整復学Ⅳ(社会保障制度と職業倫理) | 51 | 50 | 98.0 | 4.34 | 0.78 | 4.42 | 0.68 | 4.44 | 0.65 | 4.44 | 0.65 |
| 健康運動実習［PH用］ | 49 | 48 | 98.0 | 4.50 | 0.54 | 4.52 | 0.46 | 4.52 | 0.50 | 4.50 | 0.71 |
| 整復学実技Ⅲ(上肢・固定法Ⅰ)《連続》 | 62 | 60 | 96.8 | 4.48 | 0.38 | 4.47 | 0.42 | 4.35 | 0.53 | 4.45 | 0.41 |
| リハビリテーション医学Ⅰ | 50 | 48 | 96.0 | 4.45 | 0.70 | 4.45 | 0.70 | 4.37 | 0.84 | 4.39 | 0.81 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

担当授業において、「何ができるようになったのか」、「何を説明できるようになったのか」を重要視し授業展開を図っている。確実な学習成果の修得を目指し、定期的に理解度を小テストで確認しながら、授業進度を調節している。また、小テストの結果は実施毎に各個人にフィードバックしている。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

能動的に学習し授業に向き合えるようになってもらいたいと考えるために、一方的な授業ではなく、双方向型やグループ学習の授業展開を図り、飽きない授業構成を常に考えている。学生には成長して行く自分を実感できるように努めた。多くの受講者が「当該授業に満足あるいはまあまあ満足」と回答してくれたことに関しては非常に喜ばしく思う。
基礎的な基礎柔道整復学、解剖学、生理学の知識の修得に加え、より臨床的な内容についても理解ができたと思う。
また、授業熱意についても多くの学生が認めてくれた事についても同様には嬉しく思う。
反省点として、双方向性の授業内容を更にブラッシュアップする必要性を私自身が認識しているので、今後の改善点とする。
中間アンケートを参考に後半の講義を改善し実施した。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

整復学実技Ⅶ（総合）は、これまでの柔道整復学の総復習であるが、柔道整復理論および実技は口頭試問および実際の実技動作にて、学生の理解度を確実に確認するよう務めた。理解度が到達目標に未達の学生に対しては、到達するまで何回も繰り返し学習の場を設け、全員が十分に理解するよう努めた。
ゼミでは資格試験および定期試験対策として、演習問題を適宜取り入れ、教育用の視聴覚教材製品版を使い確実な知識を修得させるよう心がけた。
卒業後、医療現場に就いた場合において、過不足の無いように詳細に授業を行った。
成績評価については、シラバス表記に沿って行った。

4. 学生へのメッセージ

柔道整復師が軟部組織損傷を扱う割合は年々増しており、今や業務の主軸をなすものになっている。各軟部組織損傷に対する正確な知識の修得の必要性は今後増々重要であり、その為には人体の構造と機能を十分に理解しなければ施術に向き合えない。よって、解剖学、生理学の基礎的専門知識を疎かにしてはいけない。
また、柔道整復師が扱える業務範囲外の外傷についても疎かにしてはならず、今後において正確な知識の修得が必要である。

担当：教務課／大学評価・IR室

## 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

健康科　学科　　教員氏名　坂本　賢広

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1（注意） | | 項目2（関連） | | 項目3（自信） | | 項目4（満足） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 関係法規 | 77 | 76 | 98.7 | 4.27 | 0.56 | 4.40 | 0.58 | 4.19 | 0.81 | 4.39 | 0.50 |
| アスレティックトレーナー実習Ⅰ［PH用］ | 77 | 76 | 98.7 | 4.32 | 0.74 | 4.21 | 0.92 | 4.12 | 0.91 | 4.16 | 0.88 |
| 整復学実技Ⅴ（下肢・固定法Ⅰ）《連続》 | 52 | 51 | 98.1 | 4.57 | 0.36 | 4.55 | 0.40 | 4.39 | 0.71 | 4.41 | 0.79 |
| 解剖・生理学実習Ⅰ | 50 | 49 | 98.0 | 4.51 | 0.45 | 4.53 | 0.45 | 4.43 | 0.61 | 4.55 | 0.41 |
| 体育実技［PH用］ | 77 | 75 | 97.4 | 4.59 | 0.38 | 4.52 | 0.54 | 4.48 | 0.65 | 4.67 | 0.38 |
| 検査・測定と評価 | 69 | 61 | 88.4 | 4.48 | 0.45 | 4.46 | 0.51 | 4.38 | 0.56 | 4.48 | 0.41 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 医療国家資格である柔道整復師は、外傷やスポーツ障害など運動器のケガを中心としたものの見方が重要ですが、内科的疾患や生理学的評価をしようとする試みも患者さんを診る上でとても重要です。運動器疾患以外にも視野を広げて医療を提供することが求められる社会になってきていると考えるからです。内科疾患を持つ患者さんがケガをすることも珍しくなく、他の医療資格者との連携も必要になってくるであろうことは容易に想像できると思います。柔道整復師が適切に業務を運用するためには、関係法規で柔道整復師に関わる法律や各種医療国家資格関連の法律を学び「法令遵守」を意識することが、これからの柔道整復師に必須です。また、体育実技ではフライングディスクスポーツを通してコミュニケーションのあり方や身体活動の大切さを学ぶ機会としました。整復学実技Ⅴ（下肢固定法Ⅰ）では、国家試験必修問題への対策と臨床現場に関わる技術を合わせた授業を展開しました。柔道整復師は骨折・脱臼の整復と固定および捻挫・打撲・挫傷などの施術が主な業務です。技術と知識の両方を学ぶため国家試験対策と臨床現場からの考えを組み合わせて1対1教育を中心に今後も授業展開をしていきたいと思います。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| 今年度前期に担当したすべての授業満足度（20名以上の授業）が平均4.4を超えており、受講した学生の皆さんに心より感謝申し上げます。担当した授業において、設定した到達目標や授業内容について多くの学生に満足いただけたことを大変うれしく思います。一方で現状の評価に満足することなく、授業内容の精査を怠らずに磨いていきたいと思います。また、本学着任以来「90分1コマ勝負」という総長のアドバイスを貫く授業展開は、今も意識して続けており、わかりやすい授業を目指しています。基本的な考え方として、国家試験対策に向けた指導を行い、友人と勉強したり、いつでもわからないことがれば教員に聞きに来る、質問に来るよう伝えてます。<br>今後も精進して授業を実施していきたいと思います。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| 各科目の成績評価については、体育実技についてはS評価が多く、授業への積極的参加と学生同士のコミュニケーションが活発にで来ていたように感じました。整復学実技Ⅴ（下肢固定法Ⅰ）ではB,C評価が半分を占めていたため、授業内にととどまらずプライベートでの実技練習が必要になるかと思われます。S，A評価の学生は、授業外での練習を重ねているとのことで、今後は授業のみでなくプライベートでの練習も必要に応じて研鑽を積むことが重要と感じます。解剖生理学実習Ⅰでは、A，B評価が多い傾向にあり、レポートの質が求められるかと思います。社会に出るために報告書などを作詞得することが多々あると思いますので、今のうちに文章を作成できるようにすると良いかと思います。関係法規では、任意でしたが裁判の傍聴にいく学生が6～7割を占めており、法律に興味を持ってくれたことをうれしく思います。その裏付けとして、S，A評価が半分を占めている結果でした。全体的に授業への積極的参加が感じられました。今後とも勉学に励み国家試験合格に向けてがんばりましょう。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| わからない、難しいといった内容がほとんどだと思います。まずはわからないものを1つだけわかるように努力していきましょう。その一つ一つの積み重ねが自分の成長に繋がります。1つずつ進んでいくことが一番の近道だと思います。一つずつの積み重ねがあって国家試験合格となります。影の努力こそ人を成長させますので、前向きに勉強に取り組んでいきましょう。わからなければ、教員に聞きに来てください。お互いに頑張っていきましょう。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

健康科 学科　　教員氏名 大塚 愛二

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 生命科学基礎 | 20 | 16 | 80.0 | 4.38 | 0.36 | 4.38 | 0.48 | 4.31 | 0.34 | 4.44 | 0.50 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

・学修者が到達目標に到達すること。「この授業に取り組んだ学生が授業のシラバスに記載された到達目標に到達すること」を第一に考えている。
・Classroomを用いてペーパーレス、ウェブベースの資料提供を図っている。紙ベースの配布物を無くし、資料も試験も課題提出もウェブベースとしている。これは、紙資料を無くしても入手でき、また紙以外の資料コンテンツ（動画など）を提供できること、それらのコンテンツにいつでもどこでもアクセスできること、さらに紙の使用料を減らして環境負荷を減らすことを目的としている。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

授業評価アンケートの各項目について平均値で4.31～4.44で、満足度も「とてもそう思う」「ややそう思う」を合わせると87.5%が満足している。自由記述の回答では、知識レベルが向上したことに対する記述が多く見られている。別途独自に行ったアンケート調査では、「最初の頃は比較的やさしい内容だったけど最後の方になると難しい内容が増えてきたけど課題に取り組むなどして復習もできた」「ヒトの細胞に対する理解度を深めることが出来ました。また、卒論で研究してみたいテーマを決めることが出来た」など、さらに多くの建設的な意見をいただいている。学生にとって難易度はやや難しいと感じる場合があるということだが、授業、ワークシート、レポートへの取り組みを通じて生命の面白さにふれているようである。学修者がこれまでにどの程度生物を修得しているのかによっても学修者自身が感じる難易度が変わってくる。難しいという声のある反面、知らないことがわかってよかったという声もある。難易度の照準をどの程度に定めるのか、教養科目の場合、受講者が多様なため、また受講目的も異なっているため、定めにくいが、今後さらに検討してゆきたい。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

学修者が到達目標に到達したか。毎回のワーク、中間と最終のテスト、課題レポート、これらにきちんと取り組んだ学生は到達目標に到達し合格水準以上となっている。とくに、100分授業に対応する一つとして、毎回のワークシートを2分割し、授業のハーフタイムと最後に1回以上取り組むことができるように時間を設けた。これにより、ワークシートを全くやっていない学生がほとんどいなくなり、ワークシートへの取り組みが知識の定着に貢献しているものと思われる。
Classroomの利用により、資料提供はすべてウェブベースで行った。教育実習や大会で欠席した学生も同じ資料を入手可能で各回の課題も取り組むことができて、欠席したためにそこの授業回での学修内容が欠落することの無いようにしているので、全体的な到達度は高いと考えられる。

4. 学生へのメッセージ

最後まで授業に熱心に取り組んでくれた学生のみなさん、ありがとう。生命科学は文字通り生命（いのち）の科学です。これを学ぶことは、“いのち”を大切にするということにつながっていきます。“いのち”を大切にすることは、自分自身を大切にすること、お互いを思いやり尊敬しあうことにつながります。これからも、様々なメディアを通じて生命について考えてください。生命には不思議なことがいっぱいあります。すべてがわかっているわけではありません。というより、わかっていることはほんのわずかです。素朴な疑問があれば、いつでも質問してください。一緒に考えましょう。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

健康科 学科　　教員氏名 畑島 紀昭

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 整復学実技Ⅰ(包帯法Ⅰ)《連続》 | 77 | 77 | 100.0 | 4.55 | 0.59 | 4.49 | 0.59 | 4.43 | 0.79 | 4.51 | 0.54 |
| 臨床柔道整復学演習Ⅱ | 47 | 47 | 100.0 | 4.55 | 0.46 | 4.57 | 0.41 | 4.57 | 0.41 | 4.53 | 0.46 |
| キャリアデザインⅠ［健康科学科用］ | 50 | 49 | 98.0 | 4.57 | 0.33 | 4.51 | 0.49 | 4.43 | 0.61 | 4.47 | 0.53 |
| 公衆衛生学Ⅰ | 50 | 49 | 98.0 | 4.65 | 0.31 | 4.65 | 0.39 | 4.51 | 0.54 | 4.63 | 0.40 |
| 体育実技［PH用］ | 77 | 75 | 97.4 | 4.59 | 0.38 | 4.52 | 0.54 | 4.48 | 0.65 | 4.67 | 0.38 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

国家試験に関係のある科目を担当しているため、教科書を使用するように授業を行い、国家試験対策に繋がるように心掛けている。また、他の科目と繋がるような授業を行うようにも心掛けて記憶の定着を図る。
アクティブラーニングの要素も取り入れるように心掛け、学生間での話し合いを行う時間を作り、国家試験合格に繋がるようにしたい。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

アンケート結果がほぼ全ての科目で4点以上の評価を頂くことができた。昨年よりも公衆衛生学Ⅰが点数が向上している。国家試験に直接関与する科目であるため良い点で合ったあった。他の科目に関しては学生の様子を観察し対応していく必要があると感じる。小テストやアクティブラーニングを有効に使い、学生の就学意欲の向上に努めていきたい。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

整復学実技Ⅰ（包帯法Ⅰ）《連続》…包帯法は国家試験問題に出題されている。そこで国家試験問題に対応できるような授業を行った、積極的に参加している学生は多くみられた。

公衆衛生学Ⅰ…豆知識を習うような内容で、医療人になるには必要な知識ではあるが、学生には関係性が見出さず苦手科目と思う学生が多くいる。小テストを多く実施し記憶の定着を図っている。授業をもっと興味がわく内容にするたに工夫を行った行きたい。

臨床柔道整復学演習Ⅱ …国家試験で頻出され、正答率の高い問題をピックアップして実施した。国家試験につながる授業になっていたと思う。

4. 学生へのメッセージ

色々な情報を詰め込みながら話を行うようにしています。世間話のように聞こえる内容があるかもしれませんがつながるようにしていますので聞いてくれたら嬉しいです。これからも興味が湧くような授業を行うように、色々と工夫しながらやっていきたいと思います。毎年進化していけるように努めて参りますので、皆さんも積極的に授業に参加してください。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

健康科 学科　　教員氏名 平林 大輔

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 基礎柔道整復学Ⅰ(総論) | 77 | 76 | 98.7 | 4.61 | 0.47 | 4.58 | 0.63 | 4.29 | 0.78 | 4.58 | 0.50 |
| 柔道整復解剖生理演習Ⅰ | 61 | 60 | 98.4 | 4.43 | 0.48 | 4.45 | 0.51 | 4.12 | 0.94 | 4.40 | 0.51 |
| 整復学実技Ⅴ(下肢・固定法Ⅰ)《連続》 | 52 | 51 | 98.1 | 4.57 | 0.36 | 4.55 | 0.40 | 4.39 | 0.71 | 4.41 | 0.79 |
| 解剖・生理学実習Ⅰ | 50 | 49 | 98.0 | 4.51 | 0.45 | 4.53 | 0.45 | 4.43 | 0.61 | 4.55 | 0.41 |
| 柔道整復解剖生理演習Ⅲ | 34 | 31 | 91.2 | 4.74 | 0.19 | 4.74 | 0.19 | 4.65 | 0.36 | 4.68 | 0.28 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

私の受け持つ教科ほとんどは基礎医学（解剖学・生理学）や柔道整復理論（総論）等国家試験科目主力教科です。これらを修得するには非常に時間が掛かります。1年次に学習した「解剖学」「生理学」の復習の教科である「柔道整復解剖生理演習」では、何を記憶すれば良いのかを明確にして教授します。「基礎柔道整復学」では柔道整復学の導入の意味もあるので、教科書の内容を丁寧に教授しています。学年末試験は完全筆記テストを行い難しく設定してありますが、国家試験を視野に入れると、どうしても記憶しておかなければならない物ばかりである事が4年になって初めて分かると思います。1.2年の皆さんにとって難しい学問ばかりですが、諦めず困難に向き合う力を今のうちに養って欲しいと考えています。難しい教科ですが、努力すれば単位取得が確実に出来るように配慮しています。修得に根気がいる学問ばかりですが、じっくり自分と向き合って計画的に学習して下さい。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

「柔道整復解剖生理演習Ⅰ・Ⅲ」は授業内容については納得してくれている事を理解しました。どうすれば学生諸君に理解して貰えるのかを日々考え授業内容に反映しています。これからも難しい内容を分かりやすく教授していきます。
「基礎柔道整復学Ⅰ」もおおむね理解してもらえていると考えています。〇〇骨折、〇〇脱臼等定義が多いですが、実際にこの言葉を臨床で聞いた時即座にイメージ図が出てくる事が大切です。これからも文字から分かりやすく理解出来るように教授方法をアップデートしていきます。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

「解剖・生理学実習」では基礎医学の実習の一つであるグラム染色を行いました。今まで経験した事が無い体験が出来たと思います。おおむね好評で「楽しかった」と言う声が多かったのはとても驚きました。プレパラートの作成は通常手間が掛かりしんどい作業ですが、手間を惜しまず努力している姿は感動しました。今後も化学等の実験を取り入れて「化学」と「科学」の違いを理解し魅力ある解剖・生理演習を考えていきます。

4. 学生へのメッセージ

国家資格を取得する事は、国が定めた基準に合格する事が大切です。「〇〇君はこれだけ努力しているから合格させてあげよう。」と言う事は出来ません。どんなに努力しても規定の点数に足りなければ不合格です。この無慈悲な戦いは4年後に必ずやってきます。合格すれば天国、不合格は地獄です。1.2年から計画的に学習すれば確実に合格出来ますが、自分に甘えると大きな「ツケ」を支払う事になります。私の授業で成績の悪かった人はもう一度学習計画を練り直して下さい。皆で笑って卒業出来るように早い段階から頑張りましょう。

担当：教務課／大学評価・IR室

## 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

健康科　学科　教員氏名　簀戸　崇史

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1（注意） | | 項目2（関連） | | 項目3（自信） | | 項目4（満足） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 非認知能力育成Ⅰ［PH用］ | 77 | 77 | 100.0 | 4.32 | 0.56 | 4.23 | 0.62 | 4.16 | 0.60 | 4.34 | 0.46 |
| 整復学実技Ⅶ（総合） | 48 | 48 | 100.0 | 4.46 | 0.58 | 4.52 | 0.37 | 4.58 | 0.28 | 4.52 | 0.42 |
| 臨床柔道整復学Ⅴ（軟部組織Ⅰ） | 50 | 49 | 98.0 | 4.63 | 0.31 | 4.65 | 0.27 | 4.49 | 0.49 | 4.55 | 0.41 |
| 基礎柔道整復学Ⅴ（保存療法） | 50 | 49 | 98.0 | 4.63 | 0.31 | 4.61 | 0.36 | 4.53 | 0.41 | 4.59 | 0.36 |
| 臨床柔道整復学Ⅱ（骨折Ⅱ） | 63 | 61 | 96.8 | 4.28 | 0.59 | 4.33 | 0.65 | 4.07 | 0.88 | 4.30 | 0.60 |
| 整復学実技Ⅲ（上肢・固定法Ⅰ）《連続》 | 62 | 60 | 96.8 | 4.48 | 0.38 | 4.47 | 0.42 | 4.35 | 0.53 | 4.45 | 0.41 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 私の授業では内発的動機付けを起こすための方法を模索しながらグループでの輪を大切にし、授業前の自己学習時間、授業間でのアクティブラーニングを行う事で認知能力と非認知能力が学生の中から気づくことが出来る展開、仕掛けを行っています。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| 非認知能力育成に関しては、1年生の前期の大切な時期に交友関係を深められるような取り組みとして、IPUや興味を持った課題に対してグループワークで実施した。それぞれに楽しく、積極的に取り組みを実施してもらった事が満足度に繋がったと考えます。<br>整復学実技Ⅶ（総合）では認定実技試験同等の取り組みを実施しており、国家試験の必修問題につながる内容を展開し、学生にとって必要な内容になっていたのではと考えられる。<br>臨床柔道整復学Ⅴでは柔道整復師が臨床の世界で最も見ることが多い軟部組織損傷であり、臨床の視点も含めた授業を展開した事が学生にとって満足度につながったのではと考えられる。<br>基礎柔道整復学Ⅴ（保存療法）では超音波画像診断装置の使用方法など物療機器の授業を展開し、これからの柔道整復師に必要な画像評価ツールを学ぶ事が学生にとって満足度につながったと考えられる。<br>臨床柔道整復学Ⅱ（骨折Ⅱ）では、下肢解剖の復習から下肢骨折の現象を模型などを利用して展開した。結果として、復習から入ったことにより学生のイメージに落とし込む時間を作ることができたのではと推察する。<br>整復学実技Ⅲでは毎回のペアを変更し、上肢の固定方法を展開した。実技として患者との接し方、男女、身体の大小に対する固定方法の違いなどを学んで頂けたのではと考える。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| 非認知能力育成は作成物に対して、ルーブリックに沿って全員で評価を行い、その内容に対して成績を付与した為、妥当な評価である。<br>整復学実技Ⅶ（総合）では認定実技試験同等の取り組みを実施しており、毎回の試験を合格した回数で評価しているため、妥当な成績である。<br>臨床柔道整復学Ⅴ（軟部組織Ⅰ）では国家試験に向けての定期テストが主な評価対象であり、妥当な成績である。<br>基礎柔道整復学Ⅴ（保存療法）では毎回のレポート（手書き）を評価することによって学生の能動的学習に繋げ、そのレポートの内容の評価、小テストの評価によって成績を付与したため妥当である。<br>臨床柔道整復学Ⅱ（骨折Ⅱ）では国家試験に向けての定期テストが主な評価対象であり、妥当な成績である。<br>整復学実技Ⅲ実技試験を実施し、その内容をもって評価し成績を付与しているため、妥当な成績である。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| 非認知能力育成はチーム意識、個々の表現、積極性などを5訓に沿って学ぶ能動的学習の基礎を実施しました。それぞれにこれから学ぶ事が多くありますが、あくまで自ら望んで学ぶ能動的学習を進めてください。<br>整復学実技Ⅶ（総合）は必修対策でもあり、この内容を国家試験に向けて学び続けてほしいと思います。<br>臨床柔道整復学Ⅴ（軟部組織Ⅰ）、基礎柔道整復学Ⅴ（保存療法）、臨床柔道整復学Ⅱ（骨折Ⅱ）の科目は国家試験においても、臨床に出ても非常に大切な科目になります。基礎になりますが、臨床に出た際に応用力が求められますので、単位取得に関わらず、学びを深めてほしいと思います。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

体育 学科　教員氏名 伊藤 三千雄

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| スポーツ科学入門［PP用］ | 238 | 222 | 93.3 | 4.39 | 0.62 | 4.34 | 0.59 | 4.30 | 0.67 | 4.37 | 0.62 |
| 教育実習事前・事後指導(保健体育) | 192 | 176 | 91.7 | 4.56 | 0.52 | 4.55 | 0.45 | 4.51 | 0.55 | 4.52 | 0.57 |
| 運動生理学演習Ⅰ | 24 | 21 | 87.5 | 4.71 | 0.20 | 4.76 | 0.18 | 4.76 | 0.18 | 4.76 | 0.18 |
| スポーツ健康演習 | 5 | 3 | 60.0 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

社会で活躍する上で必要となる「コミュニケーション力」「協働力」「批判的思考力」「創造力」の4つの力を基盤とし、学生が社会人として必要な基礎的素養を身につけるとともに、自ら考え、主体的に行動できる力を育む授業を展開する。
加えて、地域や社会との連携を意識した実践的な学びを取り入れ、学生が社会的課題を身近な問題として捉え、他者と協働しながら課題解決に向けて行動する力を養うことを重視する。また、学生一人ひとりが学びの意義や成長を実感し、意欲的かつ楽しみながら学修に取り組める環境づくりを進める。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

本年度前期は、前年度から引き続き担当した「スポーツ健康演習」、「スポーツ科学入門［PP用］」、「教育実習事前・事後指導（保健体育）」、「運動生理学演習Ⅰ」を担当した。いずれの科目においても、自ら考え、主体的に行動できる力を育む授業展開を意識し、座学と実技・演習の双方を通じて、学生同士や教員とが互いに学び合う「双方向型の学修環境」の構築を重視した。 授業評価アンケートの結果からは、昨年度のフィードバックを反映した授業改善が一定の成果を上げていることが示された。今後も、学生一人ひとりの成長と学びの意義の実感を尊重し、コミュニケーション力や協働力を高められる主体的な授業づくりを継続していきたい。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

本年度前期における成績評価は、学生の出席状況や学修意欲を考慮しつつ、講義、実習、演習といった各科目の特性に応じた多角的な方法で実施した。具体的には、「教育実習事前・事後指導（保健体育）」における模擬授業や、「スポーツ健康演習」における指導シミュレーションの評価において、学生同士の相互評価を取り入れた。これにより、プログラムの適切さや安全管理に加え、指導・運営面での協働的な取り組みも客観的に評価項目へ反映させることができた。 また、大人数講義である「スポーツ科学入門」などにおいても、リフレクションシート等の評価項目を細分化することで、学生一人ひとりの批判的思考や学びの状況を正確に把握しやすくし、迅速なフィードバックや学習支援へとつなげた。今後の課題としては、各科目の学修目標に沿った評価基準をさらに精緻化し、より実践的で効果的な評価を行えるよう改善していきたい。

4. 学生へのメッセージ

社会人としての基本（挨拶、出席、時間厳守、報連相）は、すべての信頼を築く土台です。その確かな土台の上に立ち、これからの社会に不可欠な「コミュニケーション力」「協働力」「批判的思考力」「創造力」の4つの力を、日々の挑戦と試行錯誤を通じて主体的に磨いていってください。
特に健康・スポーツの学びにおいては、自ら体を動かす「実践」と「他者との協働」の体験こそが、知識を本物の力へと変えてくれます。「楽しい」授業は、教員と学生の双方向の対話から生まれるものです。共に学び合い、互いの成長を実感できる有意義な時間を一緒に創り上げていきましょう。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

体育 学科　教員氏名 梶谷 亮輔

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 陸上Ⅰ(基礎)［PP女子用、他学科＋PP2年生以上］ | 57 | 56 | 98.2 | 4.41 | 0.49 | 4.50 | 0.36 | 4.41 | 0.49 | 4.45 | 0.43 |
| スポーツ科学入門［PP用］ | 238 | 222 | 93.3 | 4.39 | 0.62 | 4.34 | 0.59 | 4.30 | 0.67 | 4.37 | 0.62 |
| 陸上Ⅰ(基礎)［PP男子用］ | 53 | 49 | 92.5 | 4.63 | 0.31 | 4.59 | 0.28 | 4.47 | 0.45 | 4.57 | 0.37 |
| 教育実習事前・事後指導(保健体育) | 192 | 176 | 91.7 | 4.56 | 0.52 | 4.55 | 0.45 | 4.51 | 0.55 | 4.52 | 0.57 |
| 陸上Ⅰ(基礎)［他学科＋PP2年生以上］ | 68 | 61 | 89.7 | 4.35 | 0.75 | 4.34 | 0.80 | 4.32 | 0.86 | 4.45 | 0.70 |
| 陸上Ⅰ(基礎)［PP男子用］ | 83 | 73 | 88.0 | 4.62 | 0.29 | 4.55 | 0.33 | 4.56 | 0.41 | 4.59 | 0.32 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

私の授業では、学生が主体的に学び、自ら考え、実践する力を育成することを基本方針としている。特に体育・スポーツに関する授業においては、知識や運動技能の習得にとどまらず、学んだ内容を実生活や将来の教育・指導現場で活用できる力を身に付けることを重視している。また、学生一人ひとりの能力や経験の違いを尊重し、それぞれが自身の成長を実感できる授業づくりを心掛けている。実技科目では、運動の原理や技術的なポイントを理解した上で実践することを重視し、講義科目では、身近な事例を取り入れながら知識と実践を関連付ける工夫を行っている。今後も学生との双方向のコミュニケーションを大切にし、学習意欲と自己肯定感を高められる授業を目指していきたい。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

各クラスとも授業評価は概ね高い水準にあり、特に男子クラスでは項目1（注意）および項目4（満足）の評価が高く、授業に対する学生の関心や満足度が良好であったことがうかがえる。授業では、陸上競技の基本動作や技術の習得に加え、動作の仕組みを理解しながら実践することを重視した。一方、クラスによって評価に若干の差が見られたことから、学生の技能水準や経験の違いに応じた指導方法の工夫が必要である。今後は、個々の到達度に応じた課題設定やフィードバックを充実させ、すべての学生が技能向上を実感できる授業を展開していきたい。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

【陸上Ⅰ（基礎）】
成績評価においては、陸上競技の基本的な運動技能の習得状況だけでなく、技術に対する理解度や授業への主体的な取り組みを重視している。特に、運動経験や技能水準には個人差があることから、記録や技能の優劣のみで判断するのではなく、授業を通じた成長や課題改善への取り組みを適切に評価することが重要である。今後も評価基準を明確にし、学生が自身の課題と到達目標を理解しながら学習できるよう工夫していきたい。

4. 学生へのメッセージ

体育・スポーツに関する学びは、知識や技術を身に付けるだけでなく、自ら課題を発見し、考え、挑戦する姿勢を育むことにもつながる。授業を通じて得た経験や気付きを大切にし、今後の学修や日常生活、将来の進路に積極的に生かしてほしい。特に、思うような結果が得られなかった場合でも、その過程を振り返り、改善に向けて努力することが自身の成長につながる。これからも失敗を恐れず、さまざまなことに主体的に挑戦してほしい。また、他者との関わりを通じて多様な考え方を理解し、互いに学び合う姿勢を大切にしてほしい。皆さんが授業で得た学びを今後の成長につなげ、それぞれの目標に向かって努力し続けることを期待している。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

体育　学科　教員氏名　岩田　知郎

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1（注意） | | 項目2（関連） | | 項目3（自信） | | 項目4（満足） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| キャリアマネジメントⅡ［中高保体教員］ | 52 | 51 | 98.1 | 4.49 | 0.49 | 4.39 | 0.71 | 4.37 | 0.74 | 4.35 | 0.74 |
| 保健体育科指導法Ⅱ（応用）［PP］ | 19 | 18 | 94.7 | 4.94 | 0.05 | 4.78 | 0.17 | 4.78 | 0.28 | 4.78 | 0.28 |
| 教育実習事前・事後指導（保健体育） | 192 | 176 | 91.7 | 4.56 | 0.52 | 4.55 | 0.45 | 4.51 | 0.55 | 4.52 | 0.57 |
| 保健体育科指導法Ⅳ（実践）［PP+他学科］ | 115 | 104 | 90.4 | 4.25 | 1.10 | 4.18 | 1.12 | 4.05 | 1.32 | 4.08 | 1.31 |
| 保健体育科指導法Ⅱ（応用）［再履修者用+他学科］ | 76 | 66 | 86.8 | 3.87 | 1.21 | 3.71 | 1.39 | 3.68 | 1.32 | 3.62 | 1.66 |
| 保健体育科指導法Ⅳ（実践）［PP+他学科］ | 45 | 39 | 86.7 | 4.28 | 0.85 | 4.38 | 0.63 | 4.28 | 0.85 | 4.35 | 0.83 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| この講座「キャリアマネジメントⅡ」は，中高の保健体育科教員を目指す学生が教職に就くため，必要な保健体育関係の知識や技能を獲得させることを意図した授業である。授業は講義形式ではなく，体育館やグラウンドで学生主体の授業を行う形で学びを深めた。特に，それぞれのスポーツ種目の技能やルールの学びを重視した。学生は，数人のグループごとに1回の授業を担当し，交替でその種目の要点や過去の採用試験でよく問われた内容について解説する。その後，模擬授業的に基本の動きやミニゲーム，正規ルールでの試合などを行う。スポーツの活動やルールは，座学の授業でも工夫次第で説明・理解ができないことはないが，実際の空間で直接体験することがより深い学びにつながることは想像に難くない。また，各授業の最初に行った”前時の振り返りミニテスト”により，要点をまとめることにもつながると考えている。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| 「キャリアマネジメントⅡ」: 授業評価アンケートには，受講した52人中，51人が回答した。この割合の高さはこの授業への期待と関心の高さを示していると考える。「この授業に満足しているか」の問いに対して，「とてもそう思う（28名）」「ややそう思う（16名）」と，肯定的な回答が全体の86%であった。学生の授業に対する満足度は比較的高く、良好な結果と考える。ただ，昨年度の同じ授業に比べて，同じ答えの割合が下がってしまったが，これは受講者数が大幅に増えた（11人→52人）ためもあると思われる。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| 「キャリアマネジメントⅡ」: 評価項目は、「毎時間のミニテスト（30%）」「プレゼン等（40%）」「確認テスト（ミニテスト含む）（40%）」と設定している。教育実習等以外の欠席がなく，授業・提出物に真摯に向き合った学生にはSかAの評価を返している。学生の記述には、「協力して楽しくできた」「友達の専門的な知識から得るものがあった」「たくさんの授業を見てきて，どんな動きをすれば相手にわかりやすいかを考えることができた」などがあり，高い満足度を与えることができたと思われる。学生個々人はは，それぞれの経験から，自分の専門種目は深く理解できているものの，活動経験の少ない，あるいは全くない種目も少なからず存在する。保健体育科の教員はほぼすべての種目を指導することになるため，どの種目にも一定以上”精通”していることが求められるが，この授業のように，学生同士が互いの経験や知識を相互に与え合える機会を作ることは，保健体育の教員養成のプログラムにあって有効だと考えている。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| 中学校や高等学校の保健体育科教員を目指すみなさん、この授業を通してスポーツと教育の可能性を信じ、これを追求していきましょう。これからの社会を担う立派な人材になって欲しいと思います。キャリアマネジメント（Ⅰ～Ⅳ）の授業を通して、中高保健体育教師に求められる知識や行動力・実践力など、様々な視点からその種目への理解を深めることができるようになります。魅力的で学びがいのある体育授業を創るためには自分自身の努力はもちろん，一緒に学ぶ仲間の様々な知識や経験を寄せ集めていくと良いでしょう。今後も皆さんは「教師になる」という目標達成のために、多くの仲間とともに「チームIPU」としてしっかり取り組んでいきましょう。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

## 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

体育　学科　教員氏名　戸田　晃大

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1（注意） | | 項目2（関連） | | 項目3（自信） | | 項目4（満足） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| スポーツ科学入門［PP用］ | 238 | 222 | 93.3 | 4.39 | 0.62 | 4.34 | 0.59 | 4.30 | 0.67 | 4.37 | 0.62 |
| 心理学［B］ | 125 | 109 | 87.2 | 4.24 | 0.69 | 4.18 | 0.69 | 4.15 | 0.82 | 4.26 | 0.70 |
| 心理学［A］ | 231 | 200 | 86.6 | 4.19 | 0.83 | 4.09 | 0.95 | 3.95 | 1.14 | 4.09 | 1.06 |
| キャリアサポート［企業］ | 76 | 59 | 77.6 | 4.58 | 0.41 | 4.58 | 0.41 | 4.44 | 0.65 | 4.56 | 0.55 |
| 教育心理学［週間オンデマンド］ | 494 | 183 | 37.0 | 4.39 | 0.48 | 4.32 | 0.54 | 4.22 | 0.64 | 4.37 | 0.48 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

私の授業哲学は、教員や他の学生との相互作用を通した、主体的な知識の構築とメタ認知の育成である。これは、動画教材や生成AIの発展を背景とする。このような時代において、「参加する意味のある授業」を目指す必要があると考えている。この哲学のもと、一般的には「座学」として開講される担当科目について、教員、学生間での相互作用を中心とする授業を展開した。具体的には、対面開講の心理学では、ミニ心理実験や心理尺度の作成、高頻度のディスカッションなどを取り入れた。オンデマンド開講の教育心理学でも、相互コメント・評価の仕組みなど、可能な限り一方通行とならないよう授業を設計した。また、その一環として、メタ認知の養成にも力を入れた。学生自身が自分の理解について省察する機会を多分に設けるなどした。これにより、学生自身の「自信」は揺らいでしまうのかもしれないが、意味のある学びを目指すため、根拠のない自信で終わってしまうことが無いようにするためには、必要な学習機会であると考えている。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

自身の担当した科目間での比較として、心理学Aでは他の科目よりも満足度に関して低い評価（4.09）となった。なお、この科目は心理学Bと同一内容である。そのため、以下では心理学Bとの比較に基づき議論する。心理学Bとの大きな違いは、学生数と留学生比率である。まず、学生数は心理学Aで2倍程度であった。哲学に記載した通り活動ベースの授業を展開したが、250名近い講義ではその方法に工夫の余地が残るものと考えられる。次に、留学生の比率について、心理学Aでは30%程度が留学生であった。留学生とそうでない学生では、授業の参加方法に文化的な違いがみてとれた。留学生は授業内容について断続的に議論をしながら参加する一方で、日本人学生はじっくりと話を聞く場面が多数見受けられた。このような違いによる弊害は学生も実感していたようで、評価コメントにもこの旨散見された。また、授業内での活動においては言語的な違いも障壁となったようである。後半座席を分けるなどして対応したが、留学生にとっての学び、留学生のいる環境での学びを損なうため、あまり良い方略ではなかったと感じる。以上の内容は、単に文化的な違いであり、どちらが良い、悪いという話ではない。授業者側の工夫として、どちらにとっても学びある機会を提供できるよう検討したい。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

評価は授業中の活動と最終成果物（発表、授業案など）を用いて行った。授業では最終成果物に上手く取り組むための活動を実施した。割合としては、前者と後者で半々程度とした。結果、成績評価の分布はS評価が30%程度、A評価が50%程度、B以降は10%程度からE評価に向けて減少する形となった。評価の分布、方法の大枠については、大きく問題は無かったように思う。しかしながら、方法に関する学生への伝達、詳細の理解に工夫の余地があると考えている。課題を正確に理解することは、学生の成果物の質の向上に結びつく。次回の実施においてはこの点の改善を進める。

4. 学生へのメッセージ

前期の授業、お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。皆さんにとって、私の開講する授業は、少し大変だったのではないかと思います。「聞いているだけ」の時間は短く、「皆さん自身が取り組む」活動の時間が長い授業だったためです。また、何度も「本当に理解できているのか？」を問われる場面があり、少し自信を失うこともあったかもしれません。多くの場面において「分かる」を実感できることは、素晴らしいこと、良いこととして扱われます。確かに、そのような実感が、全ての学習者にとって学びのモティベーションになっていることは確かです。しかしながら、ひとえにそう思い込むことには、危険性も含まれています。「分かったつもり」になって、学習の機会が失われる危険性です。世の中で「分かりやすい」と評される説明は、「分かることしか話していない」だけの可能性も高いです。そこにあるのは理解ではなく、一時の快感情です。意味のある学びからは、少し遠いところにある存在です。これらの理由から、皆さんには、何度も自分の理解を問うための活動を展開してきました。恐らく、沢山の疑問が生じる時間であったと思います。しかしながら、実はそれが、皆さん自身の成長の証拠です。疑問というものは、理解からしか生まれません。分かることが増えるから、それらの間にある「分からない」も増えるのです。大丈夫です。不安になった皆さんは、しっかりと成長をしています。そこには一時の快感情は無かったかもしれませんが、皆さんが自信を持つに足る、先の学びに繋がる理解は必ずあったと断言できます。

担当：教務課／大学評価・IR室

## 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

体育　学科　教員氏名　佐藤　伸之

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1（注意） | | 項目2（関連） | | 項目3（自信） | | 項目4（満足） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| スポーツ科学入門［PP用］ | 238 | 222 | 93.3 | 4.39 | 0.62 | 4.34 | 0.59 | 4.30 | 0.67 | 4.37 | 0.62 |
| 教育実習事前・事後指導（保健体育） | 192 | 176 | 91.7 | 4.56 | 0.52 | 4.55 | 0.45 | 4.51 | 0.55 | 4.52 | 0.57 |
| ソフトボール［PP・PS男子＋他学科男子］ | 47 | 42 | 89.4 | 4.69 | 0.21 | 4.69 | 0.21 | 4.69 | 0.21 | 4.67 | 0.22 |
| ソフトボール［PP・PS男子用］ | 52 | 45 | 86.5 | 4.49 | 0.52 | 4.51 | 0.47 | 4.47 | 0.52 | 4.44 | 0.51 |
| ソフトボール［PP・PS男子＋他学科男子］ | 50 | 43 | 86.0 | 4.48 | 0.75 | 4.32 | 1.04 | 4.41 | 0.74 | 4.34 | 0.91 |
| ソフトボール［PP・PS男子用］ | 51 | 41 | 80.4 | 4.71 | 0.30 | 4.66 | 0.32 | 4.71 | 0.26 | 4.71 | 0.26 |
| スポーツアナリティクスⅠ | 42 | 33 | 78.6 | 4.64 | 0.35 | 4.70 | 0.33 | 4.67 | 0.34 | 4.70 | 0.33 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

本年度に担当した各科目では、専門的な知識や技能を身につけることに加え、学生が主体的に学び、自ら課題を発見し、他者と協力しながら解決していく力を育成することを重視した。座学では、講義による知識の理解だけでなく、ディスカッション、グループワーク、課題への取り組みを通して、学生同士が意見を共有しながら理解を深められる学習環境づくりを心がけた。また、スポーツ科学入門やスポーツアナリティクスでは、実際のスポーツ現場や社会の課題と関連づけて説明し、理論と実践を結びつけて考えることを重視した。実技では、投・打・走などの基本技能やルール、安全に関する知識に加え、指導、審判、授業・ゲーム運営などの実践的な場面で活用できる力の習得を目指した。タブレットやスマートフォンを用いた動画分析を取り入れ、自らの動きを客観的に振り返り、改善につなげる機会も設けた。さらに、ゲーム形式の活動や協働的な課題解決を通して、技能の向上だけでなく、他者に伝える力、協調性、フェアプレイの精神を育むことを目指した。これらの授業を通して、学生が学んだ知識や技能を自分自身の経験や将来の実践へ結びつけ、主体的に学び続けられるようになることを授業の基本方針としている。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

本年度は、各科目の特性に応じて、講義、ディスカッション、グループワーク、実技、動画による振り返り、データ分析などを組み合わせ、学生が授業に主体的に参加できるよう授業を設計した。授業評価アンケートでは、7つの開講科目における科目別平均の単純平均が、「注意」4.57、「関連」4.54、「自信」4.54、「満足」4.54となり、すべての項目で概ね高い評価を得た。特に、スポーツアナリティクスⅠでは「関連」と「満足」がともに4.70となり、実際のスポーツ場面と結びつけた課題やデータ分析を取り入れたことが、学習内容の意義の理解や授業への満足につながったと考えられる。また、ソフトボールでは、ゲーム形式の実技、グループでの活動、動画を用いた自己分析を通して、学生が自らの技能や課題を捉えながら学習に取り組むことができた。今後は、大人数の授業においても、短時間の振り返り、身近な事例を用いた問い、学生同士で考えを共有する活動を増やし、学習内容を自分の経験や将来と結びつけられるよう改善したい。今後も、授業評価の数値だけでなく、学生の記述や授業中の反応も踏まえ、各科目の特性に応じた授業改善を継続していく。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

本年度の成績評価では、科目の到達目標に応じて、出席状況や授業への参加態度、課題レポート、発表、試験、実技テスト、データ分析課題などを組み合わせ、学習過程と成果を総合的に評価した。座学では、知識の習得度だけでなく、授業で学んだ内容を整理し、自らの考えとして言語化する力や、実際のスポーツ場面へ応用する力を評価できるようにした。実技では、捕る、投げる、打つなどの基本技能に加え、安全への配慮、ルールの理解、仲間との協働、ゲームや活動の運営に関わる姿勢も重視した。また、課題レポートや動画による振り返りを通して、学生が自らの成長と課題を捉える機会を設け、思考力や自己分析力も評価に反映させた。

このような多面的な評価により、知識や技能の到達度だけでなく、主体的な学習姿勢や表現力、協働的に学ぶ力を含めて、学生一人ひとりの学習過程を捉えることができたと考えている。今後は、各評価項目と授業の到達目標との対応をさらに明確にするとともに、ルーブリック等を活用して評価基準を学生と事前に共有し、学生自身が目標と成長を確認できる評価方法へ改善していきたい。

4. 学生へのメッセージ

体育・スポーツの授業は、単に技術や知識を習得する場にとどまらず、仲間と協力し、課題を発見し解決していく経験を通して、学びの本質を体感できる非常に貴重な機会です。授業で培った技能や理論、安全への配慮やルール理解は、将来指導者として活動するうえでも基盤となり、進路や社会での活躍に直結する大きな財産となります。そのためには、ただ教員の指示を待つのではなく、自ら主体的に考え、行動し、仲間と意見を交わしながら学びを深めていく姿勢が求められます。授業を単なる技能・知識習得の場としてではなく、協調性やコミュニケーション力、課題解決力を養い、自らを高め合う場として積極的に活用してください。これからも仲間とともに挑戦を楽しみながら、体育・スポーツを学ぶ意義と喜びを実感し、共に学びを深めていきましょう。

担当：教務課／大学評価・IR室

## 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

体育　学科　教員氏名　坂本　康輔

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1（注意） | | 項目2（関連） | | 項目3（自信） | | 項目4（満足） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 器械運動Ⅱ（応用） | 8 | 8 | 100.0 | 4.50 | 0.25 | 4.50 | 0.25 | 4.63 | 0.23 | 4.50 | 0.25 |
| 器械運動Ⅰ（基礎） | 42 | 41 | 97.6 | 4.49 | 0.54 | 4.46 | 0.44 | 4.34 | 0.66 | 4.49 | 0.49 |
| 器械運動Ⅰ（基礎） | 66 | 64 | 97.0 | 4.31 | 0.74 | 4.25 | 0.68 | 4.23 | 0.85 | 4.37 | 0.63 |
| 保健体育科指導法Ⅱ（応用）［PP］ | 19 | 18 | 94.7 | 4.94 | 0.05 | 4.78 | 0.17 | 4.78 | 0.28 | 4.78 | 0.28 |
| 器械運動Ⅰ（基礎） | 54 | 51 | 94.4 | 4.20 | 0.90 | 4.22 | 0.56 | 4.14 | 0.98 | 4.24 | 0.96 |
| スポーツ科学入門［PP用］ | 238 | 222 | 93.3 | 4.39 | 0.62 | 4.34 | 0.59 | 4.30 | 0.67 | 4.37 | 0.62 |
| 教育実習事前・事後指導（保健体育） | 192 | 176 | 91.7 | 4.56 | 0.52 | 4.55 | 0.45 | 4.51 | 0.55 | 4.52 | 0.57 |
| 器械運動Ⅰ（基礎） | 51 | 46 | 90.2 | 4.41 | 0.50 | 4.54 | 0.29 | 4.46 | 0.47 | 4.46 | 0.42 |
| 保健体育科指導法Ⅳ（実践）［PP+他学科］ | 45 | 39 | 86.7 | 4.28 | 0.85 | 4.38 | 0.63 | 4.28 | 0.85 | 4.35 | 0.83 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学(または授業方針)

講義を通して、社会で即戦力の人材になるために必要な能力を身に付けることが目標である。そのために実技科目では「自分を分析する」「どうやったらできるのか」をテーマにし、座学科目では「得た知識を活用し、知恵にする」をテーマに授業を展開している。一方的な授業展開ではなく、学生の実態を捉えることに努め、「どうやったらこの授業内容、ねらいが伝わるだろう。」と自問して常に効果的な授業方法を模索している。
今年度はより深い学びを促すために、フィードバックに力を入れた。一方通行は避け、自分が行ったことを振り返り、学習を深めることを強く意識した。また、教科横断的に複数の視点から学べるようにするために、自身の担当講義(主に教職科目)と他の先生と連携を図ることによって、学習者が得た知識を活用する場面を設けることにより、学習の定着ができるように実施した。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

器械運動について、ICT、グループ活動の内容にこだわったことが、学習評価に影響したと考える。今年度も昨年と同様に「自己の技能を選択し、まとめる」ことをめあてとし、学生が主体的に考え、行動することができるような単元計画を実施した。また、昨年度に引き続き、高い技能を有している学習者は「教える」側になることを意識させ、教える楽しさや難しさを感じてもらうような工夫をした。これに加えて器械運動Ⅱの履修者がⅠの履修者へ指導を行う実践指導を充実させた。結果的に器械運動Ⅰ・Ⅱの評価は例年よりも若干低下していたが、個別の振り返りについては肯定的な評価が非常に多く、昨年度以上に質の高い学習効果が得られたと推察できる。背景には学習者同士での学び合いが形成されていたり、「できた」ときの喜びを分かち合う姿が多く見受けられた印象を受けたためである。しかし、器械運動の特性上、「できなかった」「痛い・怖い」となった場合、受講意義を感じることができず、低い評価をした学習者がいたことから、次年度も引き続き、「できる喜び」体験する授業を展開したい。保健体育科指導法においては、昨年度に続き、座学知識を実技に即反映できるハイブリッド方式に加え、今年度は現場経験豊富な先生による講話も入れることでより理論と実践を体現することができたことから昨年度よりも高い評価を得ることができた(4.71→4.82)。教育現場を強く意識させるような授業を展開するため、各種目の特性や魅力、面白さを伝えた。そして、その魅力や面白さを伝えられるために学習指導案の作成を徹底したことにより、「教育実践力の基礎」を身に付けることができたと考える(問3評価:4.78)。実際に身体を動かして保健体育科教育を学ぶことができたことにより教師としての「大変さ」「やりがい」や「教育実習」を強く意識できたのではないかと考える。その結果が質問2の「ニーズ」の評価(4.78)に反映されていると考える。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

実技科目においては「教員採用試験の実技試験評価＋振り返り内容」をベースに評価した。成績評価においては「高い技能を有しているかつ、他者と関わり、教えることができる」をSとし、A「高い技能を有し、他者と関わることができる」B「満足できる技能を有し、他者と関わることができる」C「最低限の技能を有している」を基準とした。ほとんどの学習者は他者と関わりながら活動することができ、技能面においても最低限の技能を習得することができていた。保健体育科指導法においてはⅡでは「教員になる人物として良い授業を作成できる」ことをベースに評価し、Ⅳでは「より専門的で合理的な授業作成ができる」ことをベースに評価した。「教員として良い授業を展開できるかつ、生徒や先生と良好な関係を築ける」をS評価とし、A「教員として授業を展開でき、生徒や先生と関係を築ける」、B「教員としてなんとか授業を展開でき、生徒や先生と最低限の関係を築ける」、C「教員として授業展開は難しいが、生徒や先生と関係を築ける」とした。Ⅳについてはこれまでの学習から、さらに実態やねらいに応じた授業ができることとして評価した。今年度は現場経験豊富な先生方にご協力いただき、理論と実践を併せたより良い講義を実践することができた。

4. 学生へのメッセージ

学生は学びを受けるという受け身で良い立場でありながら自らすすんで行動しないといけない準社会人の立場という比較的立ち回りが難しい立ち位置にいると思います。両方を器用にできる人はなかなかいないのではないでしょうか。ですが、もし仮に「毎日86,400円が使えます。残額は翌日には持ち越しできません」としたら1日にどれくらい使いますか？おそらく、使わないのはもったいないと思いお金を全部使おうと思って、趣味やゲームにお金をかける人がいれば、本を買ったり、旅行したり、はたまた自分磨きをする人もいるでしょう。おそらく「全くお金を使わない」人はいないと思います。実はこの86,400円というのは「1秒を1円として1日の時間(秒)」です。有名な例え話です。お金(時間)を使わないのはもったいないですよね。つまり、受け身でいては使えるお金は何の価値にもなりません。お金(時間)を使うことで自分にとってきっかけや成長を与えてくれます。ある日は何も使わないことも良しとしますが、大学生活という限られた時間は戻ってきません。積極的に何かに時間(お金)を使うことが、生活を充実させるのではないかと思います。お金を使って失敗しても良い、使わずに後悔するよりずっと良い経験になると思います。ぜひ行動しましょう。

担当:教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

体育 学科　教員氏名 坂本 博秋

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| バレーボールⅡ(応用) | 13 | 13 | 100.0 | 4.69 | 0.21 | 4.38 | 1.16 | 4.54 | 0.25 | 4.69 | 0.21 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 全員が出席率100%、課題提出率100%を目指す。指導者資格取得に向け各地で行われている指導者講習会の基準にのっとって展開する。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| 全体的に高い評価をいただいたと思います。出席率も高く各自が意欲的に取り組んでいたように感じています。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| 各自の目的がしっかりとしているので非常に充実した授業を行うことができた。また修了試験はかなりの勉強量が必要であったが、全員合格点達にすることができた。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| バレーボールの歴史や変遷、またルールの成り立ちや競技特性について今までと違った角度からバレーボールをみることができたのではないでしょうか。各自意欲的に取り組み出席率100%、課題提出率100%、全員合格という結果を残しました。今後さらなるレベルアップを目指し、上位の資格取得に向けて励んでもらえればと思います。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

体育 学科　教員氏名 十河 直太

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| スポーツ科学入門［PP用］ | 238 | 222 | 93.3 | 4.39 | 0.62 | 4.34 | 0.59 | 4.30 | 0.67 | 4.37 | 0.62 |
| 教育実習事前・事後指導(保健体育) | 192 | 176 | 91.7 | 4.56 | 0.52 | 4.55 | 0.45 | 4.51 | 0.55 | 4.52 | 0.57 |
| 運動生理学演習Ⅰ | 24 | 21 | 87.5 | 4.71 | 0.20 | 4.76 | 0.18 | 4.76 | 0.18 | 4.76 | 0.18 |
| 基礎ゼミナールⅠ［再履修］PP用 | 3 | 2 | 66.7 | 4.00 | 1.00 | 4.00 | 1.00 | 4.00 | 1.00 | 4.00 | 1.00 |
| 健康科学概論［週間オンデマンド］ | 431 | 174 | 40.4 | 4.35 | 0.49 | 4.31 | 0.56 | 4.22 | 0.64 | 4.31 | 0.53 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

理論と実践を心がけ、単なる知識の修得にとどまらず「現場で活用できる実践力」と「自律的な学習姿勢（自己効力感）」を育む指導を方針としています。講義形式の授業であっても、問いかけやフィードバックを通じて思考を促し、受講生一人ひとりが自身の成長や学びの意義を明確に実感できる授業づくりを心掛けています。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

スポーツ科学入門［PP用］：大規模講義ながら平均4.30～4.39と高評価を得た。各分野の専門家が授業をオムニバスで担当することで学生の興味づけが機能したと考えらえる。
運動生理学演習Ⅰ：全項目で平均4.71～4.76、標準偏差0.18～0.20と非常に高い評価であった。少人数制を活かした密な対話や演習が、高い満足度と深い理解に繋がったと考える。
基礎ゼミナールⅠ［再履修］PP用：平均4.00である一方、標準偏差が1.00とばらつきが見られた。個別フォローの質をさらに向上させ、受講生の個別のつまずきに対応していく必要がある。
健康科学概論 ：授業評価自体は4.22～4.35と良好であるが、回答率が40.4%に留まったことが残念である。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

運動生理学演習Ⅰ・教育実習事前事後指導：主体的な取り組みが見られ、提出課題や演習成果の質も非常に高く、授業評価の高評価と相関する妥当な成績分布となった。
スポーツ科学入門・健康科学概論：期末課題や小テストの得点傾向から、概ね意図した学習到達度に達していると判断できる。ただし、オンデマンド科目等において一部取り組みが遅れがちな学生が見受けられたため、評価基準の早期周知と中間フィードバックを強化する。
基礎ゼミナールⅠ［再履修］：再履修者3名であったため、個別に対応することができた。

4. 学生へのメッセージ

アンケート回答をありがとうございました。皆さんからのフィードバックは、今後の授業改善に向けた貴重な財産です。授業で得た気づきや学びを基礎に、今後も自らの目標に向かって自信を持って挑戦を続けてください。更なる成長を心より応援しています。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

体育 学科　教員氏名 小川 雄太

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| キャリアマネジメントⅡ［中高保体教員］ | 52 | 51 | 98.1 | 4.49 | 0.49 | 4.39 | 0.71 | 4.37 | 0.74 | 4.35 | 0.74 |
| 教育実習事前・事後指導(保健体育) | 192 | 176 | 91.7 | 4.56 | 0.52 | 4.55 | 0.45 | 4.51 | 0.55 | 4.52 | 0.57 |
| 教育課程論［週間オンデマンド］ | 674 | 258 | 38.3 | 4.33 | 0.61 | 4.33 | 0.68 | 4.29 | 0.62 | 4.30 | 0.65 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

「教育課程論」は、免許法施行規則において、教育の基礎的理解に関する科目の教育過程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）に対応する科目であり、免許状取得のために必須として位置づけられている。また、免許状は、その分野における最低限度の知識を持つことを客観的に担保するものである。教壇に立つか、立たないかに関わらず、教育免許を取得することを希望する学生には、この点をよく理解して授業に望んでもらう必要がある。「教育課程論」で取り扱う内容は幅広いものの、いずれも学校教育現場の基礎的な事項であり、本科目が免許状取得に必須であることを踏まえると、本科目の重要性を改めて認識することができる。国内の他大学においても、教職を志す学生が履修するための「教育課程論」が開講されており、当方が本学において担当する「教育課程論」も一定の水準を保って実施することを心掛けた。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

「教育課程論」の回答率38.3%にとどまっているものの、258名もの学生が回答している。オンデマンド科目であることに加えて、履修者数が674名を数えていることも回答率に影響したものと考えている。なお、いずれの平均値も4.0を超えていることで、教職を志す多くの学生に役立つ内容であったと自負している。引き続き、内容のブラッシュアップに努めたいと考えている。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

「教育課程論」の評価項目については、毎回の授業で実施している小課題（50%）と最終のレポート課題（50%）と設定した。オンデマンド科目という位置づけであったため、質問等を行いやすいように、質問専用フォームを開設して受け付けた。加えて、課題の提出の注意事項等については、授業内で取り扱うとともに、繰り返し、クラスルームからも連絡を行うことで、双方向のコミュニケーションの維持に努めた。

4. 学生へのメッセージ

繰り返しになりますが、「教育課程論」で取り扱う内容は幅広いものの、いずれも学校教育現場の基礎的な事項を含んでいます。自分自身が教壇に立った時をイメージして、改めて復習してもらえらと考えています。みなさんが日本の将来の教育を支える人材となることを精一杯応援しています。頑張ってください。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

体育 学科　教員氏名 仙波 慎平

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| スポーツ科学入門［PP用］ | 238 | 222 | 93.3 | 4.39 | 0.62 | 4.34 | 0.59 | 4.30 | 0.67 | 4.37 | 0.62 |
| 教育実習事前・事後指導(保健体育) | 192 | 176 | 91.7 | 4.56 | 0.52 | 4.55 | 0.45 | 4.51 | 0.55 | 4.52 | 0.57 |
| スポーツアナリティクスⅠ | 42 | 33 | 78.6 | 4.64 | 0.35 | 4.70 | 0.33 | 4.67 | 0.34 | 4.70 | 0.33 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

受講生の規模や授業の性質（大人数講義、指導法、専門的演習など）に応じた柔軟な展開を重視しました。「スポーツ科学入門」等の大人数授業では、意欲を高める教材提示と興味関心を促す展開を意識し、「スポーツアナリティクスI」などの専門科目では実践的な課題解決能力と確かなスキルの修得を目指しました。全科目において、学生が主主体的に学びへ関与できるよう、学んだ知識が将来や実践にいかに繋がるか（関連性）を明示し、自身の成長を実感できる環境づくりを心掛けました。高い回答率からも、学生の関心に配慮した講義・指導設計はおおむね機能したと考えています。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

全科目で「注意・関連・自信・満足」の平均値が4.30～4.70と非常に高い評価を得られたことを大変嬉しく思います。特に専門性の高い「スポーツアナリティクスI」では全項目で4.60以上と突出して高く、実践的な授業設計や達成感の提示が功を奏したと実感しています。また「教育実習事前・事後指導」でも平均4.50超えと高い満足度を示しており、実生活や将来への関連性を強く実感してもらえた成果と受け止めています。全体として標準偏差も小さく抑えられており、受講生間での学びの満足度や理解度に大きなムラが生じなかった点は評価できるポイントと考えています。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

授業評価アンケートにおける「項目3（自信）」のスコア（4.30～4.67）が高かったことから、学生自身が学びを通じて達成感を得られるような明確な評価基準を設定できたと捉えています。履修者の多い科目においても公正かつ客観的な基準で評価を行い、受講者が納得して成果を実感できるよう意図しました。演習系科目では過程の評価や個別フィードバックを大切にし、自信の醸成に繋げられたと感じています。一方で、少数ながら学習の定着に不安を残した学生の存在を念頭に置く必要があります。今後は、評価に至るステップの更なる可視化や早期のサポート体制を整え、意欲の底上げを図ります。

4. 学生へのメッセージ

受講者の皆さん、アンケートへのご協力ありがとうございました。高い回答率に加え、各科目において大変前向きで素晴らしい評価や反応をいただけたことを心より感謝します。「学びが自分の将来や実践に繋がっている」と感じ、自信や満足感を持って授業に取り組んでくれた姿勢は非常に頼もしく、教員としても大きな励みになりました。スポーツの知見やアナリティクス、指導法の学びは、実践の中で活かしてこそ本当の力となります。今回の授業で得た知識や「できた」という自信を糧に、今後も関心領域を広げ、主体的に学び続けていくことを期待しています。お疲れ様でした。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

体育 学科　教員氏名 前田 誠一

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| ハンドボールⅡ(応用) | 19 | 17 | 89.5 | 4.76 | 0.18 | 4.76 | 0.18 | 4.76 | 0.18 | 4.76 | 0.18 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学(または授業方針) |
| --- |
| 受講学生が積極的に参加し、学生と共に、楽しい授業を円滑に行う事が私の授業方針です。<br>指導実践だけではなく、指導者養成講習会等で実際に出題された問題集、指導案、論文を配布し、質の高い授業を展開します。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| 指導者養成試験で実際に出題された問題を用い、授業の中で専門性を学ぶことにより、学生の興味、関心を得る事が出来た。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| ハンドボールの特性(飛ぶ・投げる・走る)を理解し、一貫指導法、スポーツコンプライアンス、スポーツインテグリティーを伝授できた。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| 皆さんのおかげで楽しく、質の高い授業を展開する事が出来ました。<br>授業を履修し、出席してくれてありがとうございました。 |

担当:教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

体育　学科　教員氏名　藤谷　かおる

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1（注意） | | 項目2（関連） | | 項目3（自信） | | 項目4（満足） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 体育行政学 | 53 | 49 | 92.5 | 4.16 | 0.85 | 4.18 | 0.87 | 4.08 | 0.95 | 4.12 | 1.07 |
| 教育実習事前・事後指導（保健体育） | 192 | 176 | 91.7 | 4.56 | 0.52 | 4.55 | 0.45 | 4.51 | 0.55 | 4.52 | 0.57 |
| 保健体育科指導法Ⅳ（実践）［PP+他学科］ | 115 | 104 | 90.4 | 4.25 | 1.10 | 4.18 | 1.12 | 4.05 | 1.32 | 4.08 | 1.31 |
| 保健体育科指導法Ⅱ（応用）［再履修者用+他学科］ | 76 | 66 | 86.8 | 3.87 | 1.21 | 3.71 | 1.39 | 3.68 | 1.32 | 3.62 | 1.66 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

学生が保健体育科の教員を目指して、理論と実践（模擬授業）を踏まえて、4年間を通して現場で指導ができるような授業展開をすすめる。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

授業は、76名の履修者となり、講義室18で、ほぼ後ろ1列のみ空く状態であった。座席指定とし、2週間毎にローテーションしながら実施した。
授業のコメントでは、「指導案の書き方が理解できた」「様々な分野の指導案を作成して、指導案の作成の際の注意点やポイントを知ることができた」とする一方、「授業内容がよく分からず、ただ指導案を書かされる授業」「毎回、何をしているのか分からなかった」と両極端の意見が示された。保健体育科教育法Ⅱのため、学習指導案の書き方を中心に授業を展開した。本来であれば、実技を踏まえて学習指導案の書き方を修得できるようにするのが望ましかったが、人数的に模擬授業を行なうことが難しく、座学中心になった点は反省することころである。保健体育科教育法Ⅲでは、模擬授業を中心に行なうため、そこで学習指導案の書き方を踏まえて、実践に繋げて行きたいと考える。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

成績評価については、授業時の課題（知識、学習指導案作成上の問題点）、学習指導案提出分（個人、グループ）、学習指導案の書き方（復習：添削して返却）による総合評価を行なった。学習指導案については、学生はオンデマインド教材で学習後、個人で学習指導案の作成を行ない、次にグループで、体育分野について、担当者を決めながら、単元別に学習指導案を作成した。その後、保健分野（生涯に通じる健康、労働と健康、働く人の健康の保持増進）を例に、学習指導案作成の書き方を加え、振り返りを行なった。
評価の基準は、Sが課題提出及び内容、学習指導案の提出及び内容等が90点以上であった場合、Aが課題提出及び内容、学習指導案の提出及び内容等が80点以上であった場合、Bが課題提出及び内容、学習指導案の提出及び内容等が70点以上であった場合とした。

4. 学生へのメッセージ

リフレクションペーパーでも、学習環境が不十分の中での授業との指摘があった。この点は、今後、教務課と相談しながら改善を図りたいと考える。本授業内容が学習指導案を作成するという一方的な授業という評価を受けた点に関しては、施設、履修者数の分散等を踏まえて改善する必要あると考える。
保健体育科教育法Ⅱの授業目的の柱は、保健体育科教育法Ⅲ以降の関連科目で、模擬授業をスムーズに行なうための基礎学習の位置づけとなっている。後期の保健体育科教育法Ⅲでは、保健体育教育法Ⅱの学習指導案作成時の不明点や書き方が分からなかった点等を授業担当教員に質問し、模擬授業を実践してほしい。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

体育 学科　教員氏名 片桐 夏海

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 柔道Ⅰ(基礎)［PH用］ | 62 | 60 | 96.8 | 4.40 | 0.44 | 4.20 | 0.63 | 4.22 | 0.64 | 4.40 | 0.51 |
| 柔道Ⅰ(基礎)［次世代女子・PP女子・PS女子用］ | 28 | 27 | 96.4 | 4.56 | 0.32 | 4.48 | 0.32 | 4.41 | 0.46 | 4.56 | 0.32 |
| 柔道Ⅰ(基礎)［PP・PS女子用］ | 54 | 52 | 96.3 | 4.75 | 0.23 | 4.73 | 0.24 | 4.71 | 0.24 | 4.75 | 0.23 |
| スポーツ科学入門［PP用］ | 238 | 222 | 93.3 | 4.39 | 0.62 | 4.34 | 0.59 | 4.30 | 0.67 | 4.37 | 0.62 |
| 教育実習事前・事後指導(保健体育) | 192 | 176 | 91.7 | 4.56 | 0.52 | 4.55 | 0.45 | 4.51 | 0.55 | 4.52 | 0.57 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 学生一人ひとりの多様な考え方や経験を尊重し、主体的に学び、考え、行動できる力を育成することを授業方針としている。専門的な知識・技能の習得に加え、学びを実生活や将来の職業に結び付けられるよう、理論と実践を往還する授業を重視している。また、学生の知的好奇心を喚起し、新たな気づきや学びを得られる授業づくりに努めている。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| 授業評価では、全体として良好な評価が得られた。特に「柔道Ⅰ（PP・PS女子用）」では、全項目で4.71以上の高い評価が得られ、満足度は4.75であった。一方、「柔道Ⅰ（PH用）」では、関連性（4.20）と自信（4.22）が他の項目と比較して低い結果となった。今後は、基本動作や技の習得に加え、それぞれの動作の意味や必要性について理解を深めるとともに、学生の技能水準に応じた段階的な指導を充実させ、技能の向上や達成感を実感できる授業づくりに努めたい。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| 実技科目である「柔道Ⅰ」では、基本動作や礼法の習得に加え、学生それぞれの技能水準に応じた段階的な学習を重視した。特に、技能の習得過程を評価することで、運動経験や身体能力の違いに配慮した指導を心がけた。また、講義科目では、専門的な知識の理解に加え、その知識を実践場面に結び付けて考える力を重視している。授業評価では、一部科目において自信の項目が相対的に低かったことから、今後は学習到達目標と評価基準をより明確にし、学生が自身の到達度や課題を具体的に把握できるよう、形成的評価やフィードバックの充実を図りたい。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| 実技、講義共に皆さんにとって、知的好奇心がくすぐられ新たな発見と言った、学びの多い時間となるよう努めていきます。引き続き頑張っていきましょう。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

## 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

体育　学科　教員氏名　堀川　峻

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1（注意） | | 項目2（関連） | | 項目3（自信） | | 項目4（満足） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 剣道Ⅰ（基礎） | 57 | 55 | 96.5 | 4.65 | 0.26 | 4.56 | 0.32 | 4.56 | 0.32 | 4.67 | 0.26 |
| スポーツ科学入門［PP用］ | 238 | 222 | 93.3 | 4.39 | 0.62 | 4.34 | 0.59 | 4.30 | 0.67 | 4.37 | 0.62 |
| 教育実習事前・事後指導（保健体育） | 192 | 176 | 91.7 | 4.56 | 0.52 | 4.55 | 0.45 | 4.51 | 0.55 | 4.52 | 0.57 |
| 剣道Ⅰ（基礎）［2年生以上男子用］ | 31 | 28 | 90.3 | 4.54 | 0.39 | 4.50 | 0.54 | 4.50 | 0.54 | 4.64 | 0.37 |
| 剣道Ⅰ（基礎）［PP1年生男子用］ | 39 | 35 | 89.7 | 4.53 | 0.75 | 4.53 | 0.75 | 4.58 | 0.63 | 4.58 | 0.69 |
| スポーツ文化論 | 23 | 16 | 69.6 | 4.69 | 0.21 | 4.50 | 0.25 | 4.50 | 0.25 | 4.56 | 0.25 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

体育・スポーツに関する専門的な知識や技術を修得するとともに、それらを実際の指導や実践の場で活用できる能力を養い、国内外のさまざまな分野で活躍できる人材の育成を目指している。そのため、講義等で学んだ理論を実践場面に応用する力に加え、実践を通して得られた経験や課題を改めて理論的な視点から捉え直す力を身につけることを重視している。理論と実践を相互に関連づけながら学ぶことで、体育・スポーツに対する理解をより深めてほしいと考えている。
また、授業では学生が自ら考え、他者と意見を交わしながら主体的に学びを進めることのできる環境づくりを大切にしている。教員が知識を一方向的に伝えるだけではなく、学生同士の対話やグループでの課題解決、発表活動などを取り入れ、それぞれが自らの考えを整理し、表現する機会を設けている。こうした学習活動を通して、専門的な知識や技能だけでなく、他者と協働して課題に向き合う力や、自ら学び続ける姿勢を育成したいと考えている。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

「剣道Ⅰ（基礎）」では、二人組やグループでの活動を積極的に取り入れ、学生同士が互いに関わり合いながら学ぶ授業を展開した。技術の習得や向上のみを目的とするのではなく、相手を尊重する姿勢や、他者と協力して学ぶ態度を身につけることも重視し、剣道の実践を通して協調性や対人関係能力の育成につながるよう工夫した。「スポーツ文化論」では、教員から学生への一方向的な知識伝達にとどまらず、双方向的なやり取りを通して学生自身の思考を促すことを重視した。講義内容に関連する設問や課題を随所に設定し、自らの考えを整理し、言語化する機会を設けることで、学生が受動的に講義を受けるだけでなく、主体的に授業へ参加できるよう努めた。「教育実習事前事後」では、将来、保健体育科教員として求められる資質・能力を身につけることを目的として、学習指導案の作成指導や模擬授業等に対する具体的なフィードバックを丁寧に行った。特に、授業のねらいと学習活動との整合性や、生徒の実態を踏まえた指導方法について学生自身が考えられるよう助言し、教育実習に向けた実践的な指導力の向上を図った。「スポーツ科学入門」では、学生がスポーツを学術的な視点から捉えることへの関心を高められるよう、身近なスポーツ現象や学生自身の経験と研究・科学的知見とを関連づけながら授業を構成した。専門的な内容を分かりやすく提示するとともに、スポーツ科学の多様な研究領域や研究の意義に触れることで、今後の専門的な学修に対する興味・関心を引き出すことを意識した。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

「剣道Ⅰ（基礎）」では、出席状況や授業への参加態度に加え、基本動作や基本技術の習得状況、実技テスト等を総合的に考慮して評価を行った。単に技術の完成度のみを見るのではなく、授業を通してどの程度技能が向上したか、また、相手と協力しながら積極的に学習へ取り組むことができているかについても重視した。一定の客観性を保ちながら、学生の学習過程を含めた評価を行うことができたと考えている。今後は、技能面だけでなく、相手を尊重する態度や主体的に課題へ取り組む姿勢についても、より明確な基準を設定して評価できるよう検討していきたい。
「スポーツ文化論」では、授業内で課した課題への取り組み、講義内容に対する理解度、最終レポート等をもとに総合的な評価を行った。特に、知識を単に記憶しているかではなく、授業で扱った内容を踏まえ、自らの考えを論理的に整理し、表現することができているかを重視した。授業内課題と最終レポートを組み合わせることで、学習の過程と到達度の双方を評価することができたと考えている。一方で、学生の思考の深まりや授業への主体的な関与をより適切に捉えるため、今後は評価基準やルーブリック等の活用についても検討していきたい。

4. 学生へのメッセージ

体育学部体育学科で開講されている各授業は、理論と実践の両面から体育・スポーツという分野の本質を多角的に学ぶことで、体育・スポーツの専門家としての基盤を形成する非常に重要なものであり、皆さんの将来の進路や社会での活躍に直結する財産となります。このような授業の効果を最大限に引き出すためには、教員からの知識の提供を待つ受動的な姿勢ではなく、一人ひとりが自ら学ぶ意欲を持ち、主体的に取り組む姿勢が求められます。また、他者と協力しながら学ぶこと、異なる視点を尊重し合い、意見交換を行うことも、学びの質を高めるうえで非常に重要です。これからは、ただ課題をこなすだけでなく、仲間とともに互いを高め合い、体育・スポーツを学ぶ意義や楽しさを実感しながら、今後の授業に取り組むことで、専門家としての第一歩を着実に踏み出していきましょう。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

競技スポーツ科 学科　　教員氏名 江波戸 智希

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| スポーツ外傷・障害の予防Ⅰ | 66 | 56 | 84.8 | 4.29 | 0.60 | 4.18 | 0.65 | 4.04 | 0.68 | 4.25 | 0.54 |
| トレーニング演習Ⅱ(応用)［PS用］ | 69 | 53 | 76.8 | 4.49 | 0.59 | 4.47 | 0.63 | 4.43 | 0.74 | 4.49 | 0.51 |
| スポーツ外傷・障害の予防Ⅰ［週間オンデマンド］ | 8 | 4 | 50.0 | 3.75 | 1.19 | 3.75 | 1.19 | 3.75 | 1.19 | 3.50 | 1.25 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

トレーニング演習Ⅱ（応用）の専門の科目授業では、まずは専門知識のインプットを行い、その後、可動域、コア、パワー、スピード＆アジリティ、持久力各種トレーニングテクニックを体験・実践を行うアウトプット型を通して、専門的なスキルを身につけていく方針で行った。身体の機能を適切に学び、自身の専門競技のパフォーマンスアップに活かしてもらいたい。
スポーツ外傷・障害の予防Ⅰの専門の科目授業では、同じく専門知識のインプットを行い、その後、トレーニング指導実践やプログラミングデザイン、動作分析・評価を実際に行うアウトプット型を通して、専門的な指導を経験、身につけていく方針で行った。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

トレーニング演習Ⅱ（応用）はPSアスリート用では、満足度において4.25点と高い点数を得ることができた。また、スポーツ外傷・障害の予防Ⅰにおいても満足度4.49点と高い水準を保てた。
専門科目であるため、満足度はもちろん、自信が高まるように学習成果などがわかるように工夫を進めてた結果、こちらはトレーニング演習Ⅱ（応用）は4.04、スポーツ外傷・障害の予防Ⅰは4．43と高い水準が取れた。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

スポーツ外傷・障害の予防Ⅰにおいては、受講態度　30%、課題（予習・復習課題，最終レポート）70%にて行い、課題に対して十分な学習が認めらえ、独自性のあるものがSとなり、以降、課題の質の低下や課題未提出のものが減点対象となり、各成績に配当された。トレーニング演習Ⅱにおいては、受講態度（予習、復習課題含む）50%、課題　（期末試験）50%にて行い、特に期末試験において、身体の専門的知識と活用を自身の活動に照らし合わせて、専門的単語にて回答ができているものをSとし、以降、回答の質の低下や課題未提出のものが減点対象となり、各成績に配当された。

4. 学生へのメッセージ

予習、復習をこまめに行い、アクティブラーニングでは学習が身に付くと思いますので、引き続き頑張っていってもらいたい。
最後に。大切なことは授業を楽しむことです。今後もぜひ、様々な授業を楽しみながら参加してみてください。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

競技スポーツ科　学科　　教員氏名　伊藤　亮輔

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1（注意） | | 項目2（関連） | | 項目3（自信） | | 項目4（満足） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| キャリアデザインⅠ［企業］ | 258 | 237 | 91.9 | 4.46 | 0.58 | 4.44 | 0.57 | 4.34 | 0.72 | 4.37 | 0.71 |
| トレーニング演習Ⅲ（発展） | 108 | 94 | 87.0 | 4.53 | 0.33 | 4.56 | 0.33 | 4.51 | 0.31 | 4.52 | 0.33 |
| トレーナー論 | 109 | 92 | 84.4 | 4.59 | 0.52 | 4.56 | 0.53 | 4.44 | 0.59 | 4.62 | 0.51 |
| トレーニング演習Ⅰ（基礎）［A］ | 32 | 27 | 84.4 | 4.48 | 0.40 | 4.48 | 0.40 | 4.52 | 0.40 | 4.56 | 0.40 |
| トレーニング演習Ⅰ（基礎）［B］ | 86 | 72 | 83.7 | 4.53 | 0.42 | 4.43 | 0.50 | 4.32 | 0.69 | 4.44 | 0.52 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 学生が知識を「覚える」だけでなく、「理解し、考え、他者と共有し、自分の言葉で説明できる」ことが学びの定着につながると考えている。そのため、基礎的な知識を学ぶ講義に加え、スポーツ現場での実例を紹介し、教科書的な知識が実際の現場でどのように活用されるのかをイメージできるようにしている。また、講義と実技を組み合わせることで、理論と実践を常に関連付けながら学べるよう工夫している。さらに、グループワークやディスカッションを通して他者と協働して考える機会を設け、学習した内容を全体の前で発表することで、他者の話を聞く力、内容を理解する力、自分の考えを伝える力を養うことを重視している。最終的には、小テストやレポート課題によって学習内容の定着度を確認し、知識の習得から実践的な活用までを一連の学びとして捉えた授業を設計している。 |

| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| --- |
| 【トレーニング論Ⅲ（発展）】<br>満足度は4.52を記録していた。競技スポーツ科学科の3年生が受講し、これまで受講してきたⅠ・Ⅱの、さらに延長線上に位置付けられる授業であった。内容は、これまでに学んだ基礎・応用知識を活かし、「アスリートが対処しなければならないさまざまな制約に対して、どのように解決策を考案していくのか」をテーマとした。体育会活動に取り組む学生にとっては、自身が競技生活の中で経験した課題に直結する内容も多く、授業で得た知識を自身の競技生活に置き換えて考えることで、実践につながる学びを得られたことが、満足度の高さにつながったのではないかと考えている。<br>【トレーナー論】<br>満足度は4.62を記録していた。本授業では、明確な定義が定められていない「トレーナー」という職業が、歴史的・文化的・職業的・組織的にどのような役割を担ってきたのかを学ぶ内容とした。競技スポーツ科学科と体育学科の1年生が主に受講しており、入学直後でスポーツ科学に関する知識が十分でない学生も多かった。そのため、専門的な用語の使用をできるだけ抑える一方、自身がトップアスリートの現場で経験してきた事例を紹介することで、トレーナーが実際のスポーツ現場でどのような役割を果たしているのかを具体的にイメージできるよう工夫した。こうした工夫が、学生にトレーナーが関わるスポーツ現場への興味を持ってもらうことにつながり、満足度の高さにもつながったのではないかと考えている。<br>【トレーニング演習Ⅰ（基礎）】<br>2クラスとも授業満足度は概ね4.5を記録していた。競技スポーツ科学科の1年生が主に受講する授業であり、体育会活動に取り組む学生が多かったことから、授業で学んだ内容を自身の競技力向上に活かせる点が、学生の授業への積極的な取り組みにつながったと考えている。 |

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

【トレーニング論Ⅲ（発展）】
成績の基準は、さまざまな制約に対するプログラムの立案・実行に関する遂行能力（50%）と基礎知識・理論に関する習熟度（50%）を評価した。高評価の受講生は、グループで協調して課題解決に向けた取り組みを行い、質の高いプログラムの立案・実行にその成果が反映されていた。低評価の受講生は、グループワークでは消極的で、学習内容の理解も不十分であった。
【トレーナー論】
成績の基準は、トレーナーの役割と業務に関する習熟度（70%）と自身の競技経験とトレーナーの役割に関連した課題への取り組み（30%）を評価した。高評価の受講生は、トレーナーの役割について十分に理解を深め、自身の競技経験をトレーナー視点で解釈しながら言語化できていた。低評価の受講生は、課題未提出が多く、授業でも学習意欲が低く、学習内容の理解も不十分であった。
【トレーニング論Ⅰ（基礎）】
成績の基準は、筋力トレーニングの実技能力の習熟度（70%）と筋力トレーニングに関する理解度（30%）を評価した。高評価の受講生は、授業で得たトレーニング知識を活かし、適切な筋力トレーニングを実行できていた。低評価の受講生は、トレーニングのポイントや注意点の理解が不十分で、実技においても適切な動作ができていなかった。

4. 学生へのメッセージ

講義では多くの知識を学ぶと思いますが、同じくらい実践する力が大事です。多くの知識があっても、それを実行する力がなければ、競技パフォーマンスを高めたり、アスリートを支えたりすることはできません。また、実行するには仲間との協調が不可欠です。興味を持ちにくい講義であっても、そこで学んだ知識は実践で役立ちます。スポーツの現場では、自律と協調が大切です。多くを学び、多くを実行し、知的アスリート、そして知識と実践力を備えた専門家を目指して成長していってほしいと思います。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

競技スポーツ科 学科　　教員氏名 吉岡 利貢

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| スポーツ科学入門［PH用］ | 54 | 54 | 100.0 | 4.17 | 0.95 | 4.15 | 0.98 | 3.91 | 1.05 | 4.13 | 0.93 |
| スポーツ科学入門［PS用］ | 123 | 103 | 83.7 | 4.25 | 0.69 | 4.20 | 0.78 | 4.00 | 0.85 | 4.11 | 0.90 |
| スポーツ生理学 | 86 | 66 | 76.7 | 4.11 | 0.67 | 4.03 | 0.76 | 4.02 | 0.92 | 4.11 | 0.67 |
| 競技スポーツアナリティクス演習C（レースプラン） | 11 | 7 | 63.6 | 4.29 | 0.49 | 4.29 | 0.49 | 4.29 | 0.49 | 4.29 | 0.49 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学(または授業方針)

自身のスポーツ経験に照らしたレポートを作成してもらうことで、授業内容をよく理解してもらうことを大切にしている。

2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

スポーツ科学入門［PS用］：学科教員をゲストに呼びながら授業を展開したが、こちらの手ごたえに反して評価が低かった。今年度のレポート内容を参考に、来年度のプランを練りたい。

スポーツ生理学：オンデマンドと対面を組み合わせて授業を展開した。少し難しい単元もあったものの、予想される範囲内での評価であった。

競技スポーツアナリティクス演習C（レースプラン）：自身のレースを分析し、プレゼンする授業であった。想定よりは高い評価であったが、決して高い水準ではないため、今後、大きく修正を加える必要を感じている。

3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

スポーツ科学入門［PS用］:小レポートを量と内容の2つの観点から得点化し、評価した。優秀なレポートが多く、高評価の割合が高かった。

スポーツ生理学：確認テスト、小レポートおよび総合レポートかを点数化し、その総合得点で評価した。それぞれのレポートは少し難易度が高かったようであるが、課題を確実に行うことで高評価を得ることができるため、30%程度の学生がS評価であった。

競技スポーツアナリティクス演習C（レースプラン）：PCスキルの高低によって評価が分かれた。最低限のスキルを持った上で受講することで、プレゼンのレベルが保たれると感じている。

4. 学生へのメッセージ

競技力を効率よく高められるかどうかには、その背景にある科学について理解しているかどうかが強く関係しています。競技スポーツに関する様々な学問を学ぶ際には、常に自身の競技生活、あるいはサポート活動と照らし合わせて学ぶ癖をつけて下さい。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

競技スポーツ科　学科　　教員氏名　宮本　彩

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1（注意） | | 項目2（関連） | | 項目3（自信） | | 項目4（満足） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 健康運動実習［PH用］ | 49 | 48 | 98.0 | 4.50 | 0.54 | 4.52 | 0.46 | 4.52 | 0.50 | 4.50 | 0.71 |
| アスリートキャリアⅢ（スポーツリスクマネジメント） | 116 | 103 | 88.8 | 4.28 | 0.68 | 4.20 | 0.70 | 4.15 | 0.80 | 4.18 | 0.76 |
| 障害者スポーツ論 | 50 | 44 | 88.0 | 4.57 | 0.43 | 4.50 | 0.52 | 4.43 | 0.56 | 4.50 | 0.52 |
| アスリートキャリアI（クロスオーバースキル） | 120 | 103 | 85.8 | 4.31 | 0.58 | 4.33 | 0.45 | 4.16 | 0.62 | 4.36 | 0.50 |
| 非認知能力育成Ⅰ［PS用］ | 119 | 99 | 83.2 | 4.34 | 0.70 | 4.24 | 0.68 | 4.23 | 0.80 | 4.32 | 0.62 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 担当している科目の性質がそれぞれで大きく異なるため、学生への指導・教育や対応も、授業の目標・目的ならびに配当学年によって変えている。1年生の一般教養科目ならびにキャリア教育科目は大学の学びに慣れていく、また、グループワークを通じて仲間との対話の中で課題を解決することを実践していくような授業展開にしている。そのため、課題のクオリティだけでなく、課題に向けた過程の重要性にも目を向けながら授業を行っている。一方、3年生のキャリア教育では卒業後の進路選択など受講生の状況が個々に異なることから、各自が自身の考えを深める時間も組み入れた授業展開にしている。専門教育となる「障害者スポーツ論」は初級パラスポーツ指導員養成の科目であることから、教科書に則った正しい知識の伝達とともに、受講者自身が考え、どのように行動するのかという問いを毎回の授業で課している。さらに、健康運動実習は実践を重視し、教員からの指導時間だけでなく学生同士の指導時間を十分に設け、学生たちがこれまで学んできた知識・経験・技能がパフォーマンスとして発揮できるように配慮している。個々の授業の特性に応じた授業展開を心掛けるとともに、いずれの授業でも学生自身の主体的な学びの喚起に向けて注力している。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| 1年生の一般教養科目ならびにキャリア教育科目はいずれも満足度が4.3点代とまずまずであった。課題の提出方法や受講態度など細かな注意をすることも多かったがしっかりと学生自身が理解し、行動しようとしてくれた結果であると考える。一方、3年生のアスリートキャリアⅢについては満足度が4.18点とやや低かった。標準偏差も0.76点と大きいことから、多様な学生のニーズをつかみ切れていない部分があったと思われる。この結果を真摯に受け止め、今後の教育に生かしていきたい。<br>障害者スポーツ論については、満足度4.50点であった。この科目は毎回の課題と定期試験の実施があり、学生にとっては簡単ではない科目である。それにもかかわらず、満足度が高かったのは学生自らが高い意欲で取り組んでくれた結果であると考える。健康運動実習についても、地域の高齢者やベルギーからの留学生を対象にした運動教室を一から作り上げるという学生にとっては負荷の高い授業であった。学生たちは授業時間外も仲間との話し合いを重ね、どの教室も参加者さんから高い評価を得られたことが満足度4.50点につながったと考える。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| どの科目においても、自ら考えて、具体的な行動ができていたかということに主眼をおいて成績評価を行った。そのため、必然的に休まずに授業に出席した学生ほど高い成績となった。一方、休みがちで課題の提出が十分でない学生については低評価あるいは単位取得に至らなかった学生もいる。障害者スポーツ論以外の科目は卒業必修科目となっていることから、できるだけ履修者全員が単位取得できるよう、学生の興味関心を把握し、「学びたい」と思える内容を提供できるよう、引き続き、試行錯誤を続けていきたいと考えている。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| AIが普及し、わからないことを調べるだけでなく、レポートの作成までも任せられるようになってきました。そのような中、タイパやコスパを求めて、簡単に授業の課題を終わらせてしまっていませんか？本当にそれは効率的なことなのでしょうか？これから社会に出て、自らの力で問いを立て、課題解決に向けて他者と協働しながら何かを成し遂げようとするとき、既に答えが出されて、情報がインプットされた状態のAIでは太刀打ちできないことが多々あります。是非とも大学での学びを主体的に取り組み、自らの脳を使って思考するようにしてください。学ぶことは、とっても楽しいことです。私自身も、皆さんが楽しいと思える学びを提供できるように努力します。一緒に頑張りましょう。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

競技スポーツ科 学科　　教員氏名 金谷 和幸

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 非認知能力育成Ⅰ［PS用］ | 119 | 99 | 83.2 | 4.34 | 0.70 | 4.24 | 0.68 | 4.23 | 0.80 | 4.32 | 0.62 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 本授業では、知識の習得だけでなく、他者との協働を通じて課題を発見し、主体的に解決策を考える力の育成を重視した。グループワークやプレゼンテーションを中心としたアクティブ・ラーニングを取り入れ、学生一人ひとりが自ら考え、発言し、行動する機会を設けた。また、非認知能力の向上を意識しながら、コミュニケーション能力や協調性、責任感の育成を目指して授業を展開した。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| 授業評価では、全ての項目において平均4.2以上の評価を得ることができた。特に、グループワークやプレゼンテーションを中心とした授業運営により、学生が主体的に学習へ参加できたことが高評価につながったと考えられる。一方で、学生によって活動への参加度や学習成果に差が見られたため、今後は全員がより積極的に学びに参加できる仕組みづくりを進めていきたい。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| 成績評価は、出席状況やグループ活動への参加状況、振り返りレポートを総合的に評価した。多くの学生が大学の魅力や地域課題について主体的に考察し、チームでの議論や発表を通じて授業目標を達成できたと考えられる。一方で、考察の深さや論理的な表現力には個人差が見られたため、今後は評価基準をより明確に示し、学習の質の向上につなげていきたい。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| 授業への積極的な参加ありがとうございました。本授業で学んだ協働する力や課題解決に向けて考える姿勢を、今後の大学生活や将来の社会生活に生かしてください。皆さんのさらなる成長と活躍を期待しています。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

競技スポーツ科 学科　　教員氏名 佐々木 史之

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| スポーツ心理学 | 95 | 92 | 96.8 | 4.34 | 0.77 | 4.21 | 0.92 | 4.23 | 0.83 | 4.22 | 1.02 |
| 競技スポーツ心理学演習B（メンタルトレーニング） | 39 | 35 | 89.7 | 4.26 | 0.42 | 4.17 | 0.60 | 4.17 | 0.54 | 4.14 | 0.64 |
| スポーツ心理学［PS用］ | 112 | 95 | 84.8 | 4.19 | 0.85 | 4.12 | 0.89 | 3.95 | 1.06 | 3.95 | 1.14 |
| スポーツ心理学 | 83 | 70 | 84.3 | 4.14 | 0.63 | 4.08 | 0.70 | 3.97 | 0.96 | 4.04 | 1.00 |
| | | | | | | | | | 平均 | 4.09 | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

私が授業で大切にしていることは、学生自身が学ぶことの意味や目的を理解し、自ら意欲的に学ぶ姿勢を引き出すことです。
「この授業は何のために学ぶのか」「学んだことをどのように活かすのか」という目的意識を学生自身が持てるようにすることを大切にしています。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

スポーツ心理学では、クラスによって授業評価に若干の差が見られました。授業内容や進行については同様に実施しているものの、今後はクラスによる学習環境や学生の反応にも留意し、説明方法や授業内容にできるだけ差が生じないよう、より丁寧に授業を実施していきたいと思います。
スポーツ心理学[PS用]では、「自信」や「満足度」がやや低い傾向にありました。今後は、「今日の授業を通して、自分は何ができるようになったか」を学生自身が振り返る時間をより大切にし、学習内容の理解や達成感を実感できるような授業づくりを進めていきたいと思います。
競技スポーツ心理学演習B（メンタルトレーニング）では、全体的に4.1以上の比較的高い評価を得ることができました。今後は、授業で学んだ内容を実際の競技場面や日常の活動にさらに結びつけることができるよう、実践的な学習活動を充実させていきたいと思います。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

スポーツ心理学では、一部、課題提出が十分でない学生も見られましたが、多くの学生が授業に真摯に取り組み、到達目標を概ね達成することができました。
授業を通して、スポーツ心理学に関する基礎的な知識・理解の定着が見られ、全体として良好な学習成果が得られました。
スポーツ心理学[PS用]では、意欲的に授業へ参加する学生が多く、主体的な学習姿勢が見られました。授業内容への積極的な取り組みを通して、到達目標に沿った知識・理解の獲得が進み、全体として高い学習成果が得られました。
競技スポーツ心理学演習B（メンタルトレーニング）では、グループワークにおける協働的な学習と、個々の実践活動への取り組みを通して、学習内容の理解を深めることができました。実践を通して学びを具体化する様子も見られ、全体として高い学習成果が得られました。

4. 学生へのメッセージ

学生の皆さんにとって、学びや成長につながる授業ができるよう、これからも努力していきます。
授業では、Google クラスルームを通して、皆さんの意見や感想、要望等をお聞きします。授業をより良いものにしていくためにも、気づいたことや感じたことがあれば、遠慮なく記入してください。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

競技スポーツ科 学科　　教員氏名 秦 啓一郎

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 陸上Ⅰ(基礎)［PS用］ | 83 | 68 | 81.9 | 4.54 | 0.40 | 4.49 | 0.40 | 4.31 | 0.74 | 4.43 | 0.48 |
| 競技スポーツバイオメカニクス演習A（動作分析） | 26 | 18 | 69.2 | 4.50 | 0.36 | 4.50 | 0.36 | 4.39 | 0.46 | 4.39 | 0.35 |
| 競技スポーツアナリティクス演習A（レース分析） | 38 | 24 | 63.2 | 4.24 | 1.06 | 4.32 | 1.02 | 4.24 | 0.90 | 4.48 | 0.41 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学(または授業方針)

多様な学びのなかから学生は主体的な興味を深めることが重要であると考える。学生にはスポーツを通した知識の専門性を高めるとともに、生涯スポーツになり得る運動やスポーツの探求を目指してもらいたい。そのために、講義や演習を通して様々な形でスポーツとの取り組みを模索できるよう導きたいと考えています。

2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して

担当した授業である陸上Ⅰ、競技スポーツバイオメカニクス演習A(動作分析)、競技スポーツアナリティクス演習A(レース分析)において、すべての評価項目で5点満点中4.0以上の評価であった。慢心せず学生にとって有意義な学びの場を提供していきたい。

3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して

【陸上Ⅰ(基礎)】各種目ごとに到達目標記録を設定し、適切に評価することができた。
【競技スポーツバイオメカニクス演習A(動作分析)】各テーマごとにスポーツバイオメカニクスに関する広範な測定および分析内容の課題を設定し、最終レポートとしての提出およびその評価によって適切に成績評価をすることができた。
【競技スポーツアナリティクス演習A(レース分析)】平常点と各テーマごとのレース分析に関するレポートから評価を行い、適切に成績評価を行うことができた。

4. 学生へのメッセージ

何事にも興味を持って、主体性も取り組むことが成長に繋がります。点と点が線で繋がるように自身が主に取り組む活動との関連性を考え、自己成長に努めてください。

担当:教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

競技スポーツ科 学科　　教員氏名 田中 耕作

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 運動生理学演習Ⅰ | 24 | 21 | 87.5 | 4.71 | 0.20 | 4.76 | 0.18 | 4.76 | 0.18 | 4.76 | 0.18 |
| トレーニング科学Ⅱ(応用) | 77 | 63 | 81.8 | 4.29 | 0.59 | 4.19 | 0.60 | 4.16 | 0.74 | 4.24 | 0.59 |
| 体力学実習 | 11 | 9 | 81.8 | 4.22 | 0.84 | 4.22 | 0.84 | 4.11 | 0.99 | 4.22 | 0.84 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

競技スポーツ科学を学ぶ学生に対して、単に知識を習得するだけでなく、学んだ知識を実際のスポーツ現場で活用できる力を身につけることを重視している。そのため、講義による知識の伝達に加え、実習や測定、データの分析・解釈、グループでの活動などを取り入れ、学生が主体的に考え、実践する機会を設けている。また、授業を通して専門的な知識・技能に対する自信を高め、自ら学び続ける姿勢を身につけられるような授業づくりを心掛けている。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

「運動生理学演習Ⅰ」では、すべての項目で高い評価が得られており、実習を通して学生が主体的に学ぶ授業構成が一定の評価を得たと考えている。一方、「トレーニング科学Ⅱ（応用）」および「体力学実習」では、全体として良好な評価であったものの、「自信」に関する項目が他の項目と比較してやや低かった。今後は、授業で学んだ内容が実際の競技や指導現場でどのように活用できるのかをより明確に示すとともに、学生自身が理解度や技能の向上を実感できる機会を増やしていきたい。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

各科目では、授業への取り組みや課題、実習での活動、知識・技能の習得状況などを踏まえて成績評価を行った。特に実習科目では、結果だけではなく、測定方法の理解やデータを適切に解釈する力を身につけることを重視した。今後は、学生が「何を身につければ到達目標を達成したことになるのか」をより明確に理解できるよう、評価基準と授業内容との対応を分かりやすく示していきたい。

4. 学生へのメッセージ

授業への積極的な参加ありがとうございました。スポーツ科学では、知識を覚えるだけでなく、「なぜこのような結果になるのか」「得られたデータを競技やトレーニングにどう生かすのか」を考えることが重要です。授業や実習で学んだことを、自分自身の競技活動や将来の指導・支援に結びつけてほしいと思います。今後も疑問を持ちながら主体的に学び、実践できる力を身につけていってください。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

競技スポーツ科　学科　　教員氏名　品田　直宏

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 陸上Ⅰ(基礎)［PP女子用、他学科＋PP2年生以上］ | 57 | 56 | 98.2 | 4.41 | 0.49 | 4.50 | 0.36 | 4.41 | 0.49 | 4.45 | 0.43 |
| 陸上Ⅱ(応用) | 21 | 20 | 95.2 | 4.80 | 0.16 | 4.75 | 0.19 | 4.75 | 0.19 | 4.80 | 0.16 |
| 陸上Ⅰ(基礎)［PP男子用］ | 53 | 49 | 92.5 | 4.63 | 0.31 | 4.59 | 0.28 | 4.47 | 0.45 | 4.57 | 0.37 |
| 陸上Ⅰ(基礎)［他学科＋PP2年生以上］ | 68 | 61 | 89.7 | 4.35 | 0.75 | 4.34 | 0.80 | 4.32 | 0.86 | 4.45 | 0.70 |
| 陸上Ⅰ(基礎)［PP男子用］ | 83 | 73 | 88.0 | 4.62 | 0.29 | 4.55 | 0.33 | 4.56 | 0.41 | 4.59 | 0.32 |
| 陸上Ⅰ(基礎)［PS用］ | 83 | 68 | 81.9 | 4.54 | 0.40 | 4.49 | 0.40 | 4.31 | 0.74 | 4.43 | 0.48 |
| 競技スポーツアナリティクス演習C（レースプラン） | 11 | 7 | 63.6 | 4.29 | 0.49 | 4.29 | 0.49 | 4.29 | 0.49 | 4.29 | 0.49 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 陸上の授業に関しては「自分ができるようになるだけではなく、指導ができるようになる」ということを授業目標として設定し、授業運営を行なった。<br>学生が保守的にならず積極的に授業に参加できるよう、それぞれに役割を与え、また回毎に役割を変更する等、工夫して飽きのないように授業を進めていくことを心掛けた。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| 陸上Ⅰについては教職に関わる授業のため、安全管理やマネジメントの面も含めて指導を行なった。学生には口うるさく安全面の管理や指導方法について説明を行なってきたが、それが悪い評価へと繋がることにならずにほっとしている。<br><br>スポーツアナリティクス演習Cについてはマニアックな内容ではあったが、人数が多くない分学生と対話を行いながら授業を進めることができ、良かったと思っている。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| 成績評価に関しては厳密に課題に基づいて基準を設定したため、特に問題なかったように思う。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| 保守的にならず、自主的に取り組む、またたとえ興味のない科目であったとして、何かしら自身のためになることを学ぶ・見つけようとする姿勢を持って授業に臨んで欲しいと思います。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

競技スポーツ科　学科　　教員氏名　保科　圭汰

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 食育論 | 188 | 170 | 90.4 | 4.36 | 0.64 | 4.39 | 0.54 | 4.30 | 0.64 | 4.35 | 0.58 |
| 競技スポーツ栄養学演習B(競技力向上) | 48 | 42 | 87.5 | 4.33 | 0.51 | 4.33 | 0.56 | 4.21 | 0.79 | 4.29 | 0.59 |
| スポーツ栄養学［PS用］ | 83 | 65 | 78.3 | 4.40 | 0.36 | 4.43 | 0.40 | 4.23 | 0.79 | 4.31 | 0.61 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 私が担当している科目では，競技や日常に関わる食生活についての疑問や悩みなどを学習内容を通じて解決できるような授業を展開している．大学での授業は学んだことを知識で留めず，実践に移すことが大切であると考えている．そのためにも主体的に学ぶことや復習をしっかり行うことに重点を置いている． |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| ・食育論：履修者数が多い中，比較的高い満足度を得ることができたと感じている．授業の各テーマに応じて様々なチェックツールを用いて食生活の振り返りを行ってもらった結果，知識を実践に移すための一助になっていると考えている．<br>・スポーツ栄養学[PS用]：競技と食事・栄養の関係を結びつけることによって自身の生活に落とし込み，競技力向上やコンディショニングに役立ててもらうように授業内容を工夫した．その結果，高い満足度を得ることができたと感じている．<br>・競技スポーツ栄養学演習B（競技力向上）：競技スポーツ科学科において今年度から開講となった新規科目であるが，比較的高い評価を得ることができたと感じている．自身の食事を記録するとともに競技とのつながりを意識させることを継続して行った結果，日常での実践力が向上したといった意見があった．一方，食事記録中心ではなく，新たな情報提供を求める声もあったため改善したい． |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| ・食育論：毎回の小レポート提出および最終レポートにて適正な成績評価を行っている．自身の食生活のみならず，食文化やライフステージ別の食育など多角的な視点から「食」について理解できるように工夫している．<br>・スポーツ栄養学[PS用]：毎回の小レポート提出および最終レポートにて適正な成績評価を行っている．自身のこれまでの経験も踏まえて競技に繋げるための栄養補給方法を自身で考えられるように工夫している．<br>・競技スポーツ栄養学演習B（競技力向上）：食事記録および分析，考察をもとに食生活の課題を把握し，競技力向上に繋がる改善策を考えられているかについてプレゼン資料をもとに評価している． |
| 4. 学生へのメッセージ |
| 食育論では健康の維持・増進に関わるテーマを多く取り入れ，授業を展開しました．授業で紹介した調査等の結果は，年々変化するものです．是非，今後も学び続けてより深い知識を身につけ自身の生活に結びつけられるよう心掛けてください．<br>スポーツ栄養学では，生理学など他の学問と関連する内容も踏まえ，科学的な知見を紹介しながら授業を行いました．自身の競技生活に活かすために今後も学習を続け実践に繋げていってください．<br>競技スポーツ栄養学演習B（競技力向上）では，競技スポーツ科学科におけるスポーツ栄養学関連の最後に位置付けられている科目として，これまでの学習と実践を振り返り，自身の競技に活かすこと，さらには自己管理能力を高める機会にしてもらいたいと思っています． |

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

競技スポーツ科 学科　教員氏名 矢野 智彦

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 柔道Ⅰ(基礎)［PH用］ | 62 | 60 | 96.8 | 4.40 | 0.44 | 4.20 | 0.63 | 4.22 | 0.64 | 4.40 | 0.51 |
| 柔道Ⅰ(基礎)［PP・PS男子用］ | 55 | 49 | 89.1 | 4.90 | 0.09 | 4.78 | 0.17 | 4.86 | 0.12 | 4.88 | 0.11 |
| アスリートキャリアⅢ(スポーツリスクマネジメント) | 116 | 103 | 88.8 | 4.28 | 0.68 | 4.20 | 0.70 | 4.15 | 0.80 | 4.18 | 0.76 |
| 柔道Ⅰ(基礎)［PP・PS男子用］ | 25 | 22 | 88.0 | 4.68 | 0.40 | 4.68 | 0.40 | 4.77 | 0.36 | 4.77 | 0.36 |
| アスリートキャリアI(クロスオーバースキル) | 120 | 103 | 85.8 | 4.31 | 0.58 | 4.33 | 0.45 | 4.16 | 0.62 | 4.36 | 0.50 |
| 柔道Ⅰ(基礎)［次世代男子用］ | 21 | 17 | 81.0 | 4.88 | 0.10 | 4.88 | 0.10 | 4.88 | 0.10 | 4.71 | 0.56 |
| 柔道Ⅰ(基礎)［PP・PS男子用］ | 25 | 19 | 76.0 | 4.74 | 0.30 | 4.74 | 0.30 | 4.74 | 0.30 | 4.74 | 0.30 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 【柔道Ⅰ】<br>武道である柔道を通して、豊かな人間性と専門的な知識・技能を身に付け国際的に活躍する意欲のある人を育成する。<br>なお、柔道の歴史や考え方、さらには取り組む姿勢を学ぶ機会を提供する。<br>【アスリートキャリアⅠ（クロスオーバースキル）】<br>競技経験を自己分析と対話によって言語化し、自己表現力・協働力・主体性を、競技と社会の双方で活用できる力へとつなげる。自己紹介プレゼン、フェアプレイ、講話の振り返り、行動指針づくりを通じて、学科が目指す学生像への理解を深める。<br>【アスリートキャリアⅢ（スポーツリスクマネジメント）】<br>競技・日常生活・進路に潜むリスクを自分事として捉え、問題の予防と発生時の対応を考える力を育む。五訓の考察、学生FD、AIとの対話や企業・卒業生等の講話を、卒業後の進路と責任ある行動に結びつける。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| 【柔道Ⅰ】<br>礼法を重視することにより、相手を敬う気持ちが生じスムーズに授業が展開できた。<br>柔道の基本である受身は単純動作のため面白みに欠ける。従って本授業では相手の投げ技と結びつけて対人技能として指導することで効果的であった。<br>教員免許選択必修科目であることから、初心者が安全に学習できる指導法のポイントを解説できた。<br>出来る喜びを体験させ、昇段への意欲を向上させた。<br>【アスリートキャリアⅠ】<br>自己分析・自己紹介プレゼン、講話の振り返り、グループでの行動指針づくりを軸に授業を構成した。授業評価は関連4.33、満足4.36に対し、自信4.16であった。学びを自分の強みや具体的な行動として表す点に改善の余地がある。今後は発表後の相互評価と再発表を取り入れ、成長を実感できる機会を増やす。<br>【アスリートキャリアⅢ】<br>五訓・行動規範の考察、学生FD、リスクへの対策・対応の検討とキャリアに関する講話を関連づけた。授業評価は注意4.28、関連4.20、自信4.15、満足4.18であった。今後は実例を用いて予防策・初動対応を具体化し、講話の学びを自分の進路と行動計画へつなげる振り返りを充実させる。 |

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

【柔道Ⅰ】
小テスト(①帯の結び方②前回り受身③立礼・座礼)を数回取り入れたことにより、授業中の学習意欲や期末試験での効果が向上したようであった。
【アスリートキャリアⅠ】
自己紹介プレゼン、経験の振り返り、行動指針づくり等の学習成果について、自己理解の深まり、競技経験の言語化、他者との協働、行動への具体化を評価する観点とする。今後は観点を事前に共有し、初回と最終回の記述を比較して成長を可視化する。
【アスリートキャリアⅢ】
五訓・行動規範のレポートや討議、講話の振り返りについて、リスクの把握、予防策・対応策の具体性、根拠、進路への応用を評価する観点とする。今後は共通ルーブリックを用い、グループ活動でも個人の理解と貢献を確認する。

4. 学生へのメッセージ

【柔道Ⅰ】
礼法の意味を正しく理解し、自らの意思で日々の生活や練習の中で実践してほしいと思います。礼法は形だけの作法ではなく、相手や自分を大切にする心の表れです。
そして、稽古の中で投げたり抑えたりといった攻防を繰り広げることで、技がかかる瞬間の楽しさや、成功したときの大きな喜びを味わってほしいと願っています。その経験が柔道の本当の魅力を教えてくれるはずです。
本学でしっかり学び、努力を積み重ねて、ぜひ昇段し黒帯を締める自分の姿を実現してください。
【アスリートキャリアⅠの皆さんへ】
競技で培った努力・工夫・協働の経験を、自分の言葉で説明できる力に変えてください。仲間の考えから学び、自分たちで定めた行動指針を日々実践しましょう。
競技で身につけた力は、学業や将来の仕事でも生かせます。
【アスリートキャリアⅢの皆さんへ】
リスクを予測し、予防と発生時の対応を考える習慣を身につけてください。困ったときは一人で抱えず、周囲に相談し、自分と仲間を守る行動を選びましょう。講話や対話で得た学びを、進路選択と具体的な行動につなげ、社会でも信頼される人へ成長することを期待します。

担当:教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

国際経済経営 学科　　教員氏名 尾﨑 信之

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| コンピュータリテラシーⅢ | 45 | 39 | 92.9 | 4.10 | 0.99 | 4.18 | 0.74 | 3.93 | 1.32 | 4.10 | 0.89 |
| データサイエンス入門 | 67 | 51 | 94.4 | 4.37 | 0.85 | 4.29 | 0.82 | 4.12 | 1.06 | 4.33 | 0.87 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

基礎知識の定着を図るため、教員による一方的な説明に頼らず、授業冒頭での事前学習、インターネットを用いた調査、少人数でのグループワークとプレゼンテーションなど、多角的な方法で授業を進めることを基本としている。特に事前学習では、授業の鍵となる用語を選び、まず学生にその説明を手書きで記述させたうえで、教員がスライド等を用いて改めて解説するという2段階のアプローチを取り入れている。また、初回の授業ではノートを取ることの大切さを説明している。社会に出てからの議事録作成や、自分が重要だと判断した内容を個人メモとして書き留めることの意義に触れ、学期の後半には学生のノート（PCによるノートテイキングも可）を確認することで、授業への取り組み姿勢などを把握することにしている。講義資料はノートを取ることを前提として、図を中心とした配布を行うことにしている。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

コンピュータリテラシイⅢ

本授業の目的はコンピュータシステムの全般に関して、幅広く理解してもらうことである。コンピュータの歴史から、半導体の基本動作原理、16進法の計算、ハードウェア、オペレーティングシステム、システム開発、具体的なシステムの紹介などを広くカバーした。特に、最近のニュースは半導体産業（半導体装置産業含めて）の話題が多いこともあり、半導体の製造工程にしたがって、存在感のある日本企業の紹介も行った。産業界のニュースも気をつけて聞いてほしいと思う。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

データサイエンス

授業の進め方は、講義の後に、エクセルによる演習を行う方式とした。特に製造業の現場で使われているQC手法（7つ道具）の説明と演習には時間をかけた。ただ、Pythonのプログラミングを同時並行で習ったいたため、エクセルレベルの統計処理を基本とせざる得なかったため、今後、演習のやり方を考えていきたい。演習を授業時間内と次回までの課題に分けることで、さらなるデータサイエンスのトピックスも取り入れたいと考えている。

4. 学生へのメッセージ

今後、インタラクティブな授業が増えていくと思われるので、積極的に発言して欲しい。特に、留学生は日本語の練習と思って、発言して欲しいと思っている。間違えることは恥ずかしいことではなく、教員が必要に応じてアドバイスする。授業時間内の事前学習などは手書きでの提出を基本としたが、人に読んでもらう字を書いて欲しい。特に数値計算ではどこに答えがあるのか判らないものもあった。

授業での説明から、気になる内容・単語をさらに自分で深堀して調べていくことで、知識が確実に身に着く。これからも好奇心を持って勉学に取り組んでほしい。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

国際経済経営　学科　　教員氏名　武末　朝生

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1（注意） | | 項目2（関連） | | 項目3（自信） | | 項目4（満足） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 簿記入門Ⅰ［①］ | 89 | 78 | 95.1 | 4.45 | 0.66 | 4.41 | 0.52 | 4.26 | 0.91 | 4.37 | 0.67 |
| 簿記入門Ⅱ［再履］ | 18 | 13 | 100.0 | 4.62 | 0.39 | 4.62 | 0.39 | 4.77 | 0.18 | 4.85 | 0.13 |
| 財務会計 | 34 | 34 | 100.0 | 4.65 | 0.35 | 4.59 | 0.36 | 4.53 | 0.43 | 4.62 | 0.47 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

簿記・会計に興味がない学生や簿記・会計に苦手意識をもつ学生も、その面白さに目覚め、簿記・会計に対する知的好奇心をもって学修に取り組んでもらえるように、単に簿記・会計のルールなどを機械的に覚えるのではなく、その歴史的な背景や経済・経営における重要性などを理解することを通じて、簿記・会計という学問に対する学修意欲が湧きたつような授業を心がけています。また、毎回、授業の始めには、前回の授業の内容をかなり時間をかけて復習し、できる限り多くの学生が途中で脱落することなく、学修意欲を持続して取り組めるように留意しています。
特に、少人数クラスの簿記入門Ⅱ［再履］においては、簿記を楽しみながら学修できるように、アクティブラーニングを通じて、学生一人ひとりが主体的に授業に参加するという意識と意欲を持てるように、授業を活性化することに注力しました。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

簿記入門Ⅰ［①］は、昨年度よりも大人数で大教室での授業でしたが、全員が興味を失わず、授業に集中して取り組めるように、細目にアンケートも取り、学生の表情なども注意深く観察しながら、学生一人ひとりの理解度や自信などをよく確かめて、丁寧にわかりやすく説明するように心がけました。「教え方が丁寧でわかりやすい」という感想が最も多く、簿記が「面白い」とか「楽しい」といったコメントも多かったので、多くの学生にとっては満足度が高い結果となりました。一方で、理解度の速い学生からは、授業のテンポを速くしてほしいという意見もありましたので、メリハリをつけて、さらに改善したいと思います。
簿記入門Ⅱ［再履］では、新たな試みとして、サッカー・ワールドカップにヒントを得た競技形式のアクティブラーニングの授業を考案（2ページのルールブックも作成）して実施したところ、授業が「楽しい」「面白い」「わかりやすい」という感想が多く、満足度5の回答が85%（4が15%）となり、成功を収めました。
財務会計の授業では、小テストを数回実施して理解度を確認しましたが、もっと演習問題が必要という意見もありましたので、演習を増やすようにします。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

全科目について、「S」評価は成績上位15%までに厳正に限定しています。「A」以下については、科目特性や成績分布に応じた合理的な判断で評価しています。
簿記入門Ⅰ［①］は、公平を保つために、簿記入門Ⅰ［②］のクラスと共通の定期試験問題により、担当教員に関わらず、全学生統一の基準で成績評価を厳正に行いました。定期試験では、基本的な問題を出題したため、日頃の授業における取組み姿勢の差が、定期試験の点数に如実に反映される結果となりました。簿記という科目の性質上、一歩一歩の理解の積み重ねが非常に重要なため、授業を欠席したり、授業を聞いていなかった場合、定期試験前に、一夜漬けで一気に挽回するということは困難です。前期の成績が芳しくなかった学生は、後期からは、毎回の授業における理解を確実なものとし、努力を積み上げていくようにしてください。簿記入門Ⅱ［再履］は、出席し続けた学生は全員が単位を取得できました。この授業で簿記の楽しさに目覚めた学生がいれば、嬉しいです。
財務会計の授業は、出席率も概ね良好で、期末テストも予想以上に高得点が多い結果となり、履修者全員が単位を取得できたことは嬉しく思います。

4. 学生へのメッセージ

簿記は必修科目ですので、避けては通れない科目であると同時に、さらに深く経済・経営を学ぶ上で不可欠となる会計リテラシーを身につけることができる科目でもあります。それだけでなく、社会でも高く評価される簿記検定試験の合格にもつながり、実践的なビジネス・スキルの一つを修得することができます。
簿記をマスターし、簿記検定試験にも合格し、国際ビジネスにおいて活躍できるスキルを獲得しましょう。
また、2年次以降は、各人の興味・関心に応じた専門科目の学修にも励み、基礎ゼミナールや専門ゼミナールも活用して、より積極的・主体的に取り組むことを期待しております。

# 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

国際経済経営　学科　　教員氏名　末原　聡

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1（注意） | | 項目2（関連） | | 項目3（自信） | | 項目4（満足） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 簿記入門Ⅰ［②］ | 90 | 72 | 85.7 | 4.42 | 0.44 | 4.31 | 0.52 | 4.19 | 0.74 | 4.28 | 0.70 |
| 簿記入門Ⅰ［再履］ | 28 | 18 | 85.7 | 4.56 | 0.36 | 4.78 | 0.17 | 4.56 | 0.25 | 4.72 | 0.20 |
| 原価計算 | 56 | 42 | 93.3 | 4.81 | 0.15 | 4.81 | 0.25 | 4.76 | 0.32 | 4.93 | 0.07 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 授業では、簿記や原価計算が実務でどのように使われるかも説明している。特に企業での実務を意識して、取引の入力や証憑の確認、残高の確認など、実際の仕事で必要になることを取り入れている。<br><br>また、説明を聞いて分かったと思っても、自分で問題を解くとできないことがある。そのため、授業では問題を解く練習を重視している。繰り返し練習して身に付けたことを、全経簿記の資格試験にもつなげてほしいと考えている。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| 【簿記入門Ⅰ】<br>説明の分かりやすさや具体例、演習について評価を得た。一方、専門用語の難しさや説明の速さについて意見があった。今後は用語の説明や短い復習を取り入れ、学生の理解状況を確認しながら授業を進めたい。また、説明の聞き取りやすさや、落ち着いて学べる環境にも気を配る。<br><br>【簿記入門Ⅰ〈再履〉】<br>説明の分かりやすさや、繰り返し問題を解くことで理解できた点が評価されていた。学んだ内容を自分で使えるようになるためには、反復練習が大切だと考えている。基本問題を解く時間を十分に取り、演習中の様子を確認しながら、必要な説明を加えていきたい。<br><br>【原価計算】<br>説明や演習について高い評価を得た。今後も具体的な問題を通じて、計算や処理の流れを説明していきたい。内容が難しいという声も踏まえ、教材の構成や演習の順序を見直し、基本事項を確認しながら段階的に理解を深められる授業にしていく。 |

| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| --- |
| 原価計算では、実際の資格試験の合格水準に達している学生が相当数いた。簿記入門についても同様で、授業で勉強したことが身に付いている学生も多いと感じた。この力を生かして、全経簿記の資格試験にも取り組んでほしい。<br><br>また、基本的な仕訳や計算を定着させるためには、繰り返し練習することが必要である。試験で間違えたところを確認し、何を復習すればよいかが分かるようにして、その後の練習につなげていきたい。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| アンケートへのご協力ありがとうございました。説明が分かりやすかった、問題を解くことで理解できたという声があり、うれしく思っています。用語の難しさや説明の速さなど、指摘のあった点も授業を見直す参考にします。<br><br>簿記や原価計算は、説明を聞いているときには分かったと思っても、自分で解こうとすると迷うことがあります。まずは基本的な問題を、答えを見ずに解く練習を繰り返してください。分からないところは、遠慮なく質問してほしいと思います。<br><br>試験の結果から、資格試験に挑戦できる力が付いている学生も相当数いると感じました。ここまで勉強したことを生かして、ぜひ全経簿記の資格試験にも取り組んでみてください。 |

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

国際経済経営 学科　　教員氏名 鈴木 達郎

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| ビジネス特別講義Ⅰ | 47 | 36 | 90.0 | 4.58 | 0.30 | 4.56 | 0.30 | 4.50 | 0.31 | 4.58 | 0.30 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

好きこそ物の上手なれ
とにかく授業に興味を持ってもらい、面白さを感じてもらうことが一番大切だと考えています
特にAIが発達して知識はAIから簡単に習得できる時代に、人間らしく好きなことに夢中になることで、
これからの時代を生き抜く力を培ってもらいたいです
授業のコンセプト：「答え」を求めるのではなく、「問い」を鍛える授業

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

特別講義のタイトル：～ビジネスを変えた素敵な技術の物語～
基本的な技術トピックを出発点に、生成AIを使いながら、自分が興味を持ったことを次々に展開させ、何かテーマを見つけて深堀りすることで、技術がビジネスに及ぼす影響の面白さ、奥深さを体験することを目標として進めました
従来の講義とは全く異なり、生成AIを中心において、私とAIとのやり取りを学生に見せることで、内容とともにAIの使い方を示し、その後に課題として学生にAIを使わせ、個々の興味に応じた「プロンプト」すなわち「問い」の時系列を提出させる、という方法は、学生にとっても新鮮で、また面白さを感じることができたと思います

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

学生の提出した「プロンプト」すなわち「問い」の時系列を鍛える
AIの最初の回答を読んで理解しているか、そこから疑問を広げられているか、歴史・技術・ビジネス・社会への影響など、多面的に質問できているか、
単発の質問ではなく、学びを深める「次の問い」になっているかなどについて、問いの質・広がり・深まりについて個別に評価して成績評定の柱としました
この評価（点数）を毎週、学生に返却することで、自然により良い「問」とは何かを考えるようになり、後半は「問い」の評価が高く、すなわち、「良い問い」をできるようになったことを実感できたことが、学生の満足度にも反映されていると思います
事前課題、事後課題、発表、にそれぞれポイントを与え、合計点で成績決めました

4. 学生へのメッセージ

これからの時代は いやでも AIと一緒に生きていくことになります
AIの言うがままに 生きるのではなく、AIを使いこなせるような人生を、送ってもらいたいと思います
そのためには 自らがしっかりと意志を持って、好きなことに夢中になれるように、さまざまな課題に 取り組んで もらいたいです

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

国際経済経営 学科　　教員氏名 國井 裕

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 韓国語Ⅰ | 47 | 43 | 93.5 | 4.81 | 0.20 | 4.72 | 0.34 | 4.67 | 0.41 | 4.81 | 0.15 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 私が大切にしているのは、学生全員が学びに参加できる授業です。教員の説明を聞いて理解したと思っていても、自分の言葉で説明したり、学んだことを使ったりしようとすると、難しさに気づくことがあります。その気づきも、学びを深める大切な一歩だと考えています。<br>そのため、授業では知識を伝えるだけで終わらせず、考え、話し、試し、互いの意見を聞く機会を設けています。教員と学生のやり取りに加え、学生同士の対話も重視しています。語学であれば、学んだ表現を実際に使うことが欠かせません。他の科目でも、得た知識を自分の言葉で表現することで、理解がより確かなものになります。<br>同じ教室で学ぶ良さは、その場で反応や助言を受け、自分とは異なる考えに出会えることです。席を替えてさまざまな人と話す機会をつくるのも、そのための工夫の一つです。安心して発言でき、参加することが楽しいと思える雰囲気をつくりながら、一人ひとりが主体的に学べる授業を目指しています。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| 授業評価からは、多くの学生が授業に関心を持って取り組んでいることがうかがえました。一方で、「受講を通じて自信が高まりつつあるか」という項目は、他の項目と比べてやや低い結果でした。この点を、今後の授業改善につなげたいと考えています。<br>語学の授業では、すでに学習経験のある学生もいれば、文字や言葉を覚えることに難しさを感じる学生もいます。約50人が学ぶ授業の中で、一人ひとりの理解度に応じた学びをどう支えるかは、私自身の課題です。授業についていけないと感じる学生が自信を失わず、既習者も新たな学びを得られるよう、活動の進め方を工夫していきます。特に大切にしたいのは、学生が周囲との比較だけでなく、自分自身の変化にも目を向けられることです。以前は読めなかった文字が読める、言えなかったことが言える。そうした小さな進歩を授業の中で確かめられれば、学ぶ面白さや次への意欲につながります。一人ひとりが自分の成長を実感できる授業を目指します。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| 成績評価では、期末試験によって到達目標に対する習熟度を確認するとともに、複数回の小テストや課題への取り組みも評価しました。その結果、習熟度の高い学生と、学習内容の定着に時間を要する学生との間に差が見られました。この結果を、今後の授業の進め方を見直す手がかりにしたいと考えています。<br>また、語学の力をより適切に評価するためには、筆記試験に加えて、学んだ表現を実際に使う力も確認する必要があります。今後は評価の基準を明確にしたうえで、話す活動や課題の成果を取り入れ、到達目標に対する習熟度と、一人ひとりの学習の積み重ねを捉えられる評価方法を検討します。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| 授業では、私から皆さんに知識を伝えるだけでなく、皆さんと一緒に考えたり、話したりしながら学びを深めていきたいと思っています。誰かの発言を聞いて新しい考えに出会ったり、自分の思いを言葉にして理解が深まったり。そんな時間を、皆さんと一緒につくっていけたらうれしいです。<br>「間違えたらどうしよう」と思うこともあるかもしれません。でも、最初からうまくできる必要はありません。言ってみて、うまく伝わらなければ考え直す。その経験も大切な学びです。周りの人と比べるより、以前の自分にはできなかったことが一つできるようになった、という変化を大切にしてほしいと思います。<br>私も、皆さんが安心して参加でき、学ぶことを面白いと感じられる授業を準備していきます。教室で過ごす時間を、お互いにとって楽しく、実りあるものにしていきましょう。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

教育 学科　教員氏名 濱嶋 幸司

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 社会調査法［オンデマンド］ | 78 | 55 | 91.7 | 4.41 | 0.56 | 4.41 | 0.49 | 4.32 | 0.61 | 4.50 | 0.43 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

・科目の目的、到達目標（→各回でおこなうこと）を常に意識します。
・履修者に教えるのではなく、履修者がわかる／身につくを念頭に置いた授業を用意します。
・一方的に情報を伝えるのではなく、思考・作業の時間を多くとります。
・評価は公正に、事前に伝え、根拠（事実）を踏まえておこないます。やる気があり、受業に対し誠実に向き合っている学生を高く認めていきます。
・授業時間でわからなかったことがあれば、直後、オフィスアワー、クラスルーム等でも質問してもらい、確認後に早めに応答していきます。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

「社会調査法」はオンデマンドで実施としました。岡山キャンパスの学生と同時にクラスルームに入ってもらいました。留学生も多くおられましたが、科目に関心を持ってもらい中間報告・確認試験もしっかりできていました。アンケート回答率も岡山よりも高く、評価結果もありがたいことに高くなっており、履修者の取組姿勢と自信がうかがえます。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

「社会調査法」は出席状況・課題提出・最終試験を加味してS評価からC評価まで適切な分布になったかと思います。授業内容をどこまで理解しているのか、到達状況を確認しながら評価しました。最終試験の前に中間レポート（30点分）を用意し、できるだけ授業期間中に成果を確認し、評価に含めることにしました。最終試験を30点にしたので、S評価になる学生は出席・課題提出・最終試験をしっかり受けていないと取れないようにしてみました。生成AIを学習として使うのは認めつつも、解答代行にならないように注意を払いました。地道に学習している学生の評価を高くできたと思っています。途中で履修を諦めてしまった学生、最初から履修せずにクラスルームに入って課題提出をしてくださった学生もおられ、私が東京キャンパスに居れば対面個別指導もできたのですが、オンデマンド（クラスルーム上）の関わりとなってしまい、細かい指導ができなかったのは残念ではあります。

4. 学生へのメッセージ

・シラバスは必ず読んでください。履修登録時、第1回目だけではなく、中盤（6-8回）や後半（12-14回）にも読み返し、科目の進捗と各回の目的を押さえておいてください。
・授業に集中しましょう。メモ・ノートをつける習慣をつけ、復習してください。とくに復習に時間を費やしてください。
・課題提出は早めにお願いします。期限を過ぎると不受理もしくは大幅な減点をおこないます。
・わからないことは授業終了直後、オフィスアワー、クラスルームでの限定コメント（メール）をして、解決のためのアクションを起こしてください。聞かないでやり過ごすより、聞いて対応することが皆さんのプラスになります。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

国際経済経営 学科　　教員氏名 藪内 正樹

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 地域企業経営論 | 23 | 21 | 100.0 | 4.00 | 0.57 | 4.10 | 0.66 | 3.86 | 0.69 | 4.10 | 0.66 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 日本経済の歴史、経済全体と地域経済、経営者の思想、実行、結果に焦点を当てて解説した。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| ネガティブが1～2人、どちらとも言えないが各3人いることは、敬愛大学での10年間も同様で、やむを得ないと考えているが、敬愛大学時代よりポジティブが増えたことは、自分の話術の進歩より、学生の質にもよるのではないかと思う。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| 高得点が多いのは、採点が甘いと言うより、自分で観点を選んで論じるレポートを3つ提出してもらったので、自主性を刺激する課題の出し方ができたのではないかと思う。居眠りする学生は1～2人居たが、課題提出を放棄しており、Dは1名だけ。良く学んでもらったと思う。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| 大半の皆さんが興味を感じて聞いてくれたと感じることが出来ました。感謝します。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

## 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

国際経済経営　学科　　教員氏名　Everett Ofori

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1（注意） | | 項目2（関連） | | 項目3（自信） | | 項目4（満足） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 英語Ⅰ［②］ | 39 | 32 | 86.5 | 4.73 | 0.56 | 4.61 | 0.48 | 4.45 | 0.55 | 4.48 | 0.55 |
| 英語Ⅰ［④］ | 33 | 30 | 90.9 | 4.61 | 0.69 | 4.52 | 0.89 | 4.45 | 0.70 | 4.65 | 0.55 |
| 英語Ⅲ［②］ | 40 | 35 | 87.5 | 4.66 | 0.45 | 4.57 | 0.47 | 4.49 | 0.54 | 4.63 | 0.29 |
| 英語Ⅰ［⑤］ | 49 | 43 | 89.6 | 4.37 | 0.47 | 4.16 | 0.51 | 3.95 | 0.97 | 4.23 | 0.46 |
| 英語Ⅰ［⑥］ | 26 | 19 | 90.5 | 4.42 | 0.45 | 4.32 | 0.95 | 4.21 | 1.01 | 4.11 | 1.46 |
| 英語Ⅲ［①］ | 30 | 24 | 85.7 | 4.83 | 0.14 | 4.75 | 0.27 | 4.71 | 0.29 | 4.75 | 0.27 |
| TOEICⅠ［②］ | 33 | 28 | 93.3 | 4.75 | 0.19 | 4.68 | 0.29 | 4.64 | 0.30 | 4.71 | 0.20 |
| 資格検定対策Ⅰ（語学系） | 28 | 22 | 88.0 | 4.86 | 0.12 | 4.86 | 0.12 | 4.77 | 0.27 | 4.82 | 0.24 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| My teaching approach centers on making students comfortable and inspiring them to go beyond mediocrity. This requires modeling for them modes of communication that they can apply immediately to their personal and professional needs. In this regard, I provide students with a plethora of practical frameworks that they can adapt and apply to real life communication situations. I also let students know that the power of improvement is largely in their own hands, and that the effort that they put into their education will have a bearing on the success of our collective teaching and learning endeavors. I make sure that students get a lot of practice in using the English language and also acquire skills that they can use to educate themselves outside of class. |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| In the Qualifications class, the emphasis was on oral communication. So, students had the opportunity to speak on a wide variety of topics. They also learned the importance of preparation and practice and they had numerous opportunities to communicate in front of their peers either as individuals or as a pair. Over the course of the program, some students gained in confidence and were progressively better at expressing their thoughts and ideas. |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| In the TOEIC program, students had an opportunity to review various aspects of grammar, and to participate in simulated TOEIC examinations. The weekly listening sessions were also quite useful, particularly for students who are not able to make the time to practice listening on their own. The course also allowed the students to expand their vocabulary through a focus on synonyms, antonyms, prefixes, suffixes, and word form variations: noun, verb, adjective, adverb. In addition, students were reminded of the importance of spelling as well as the need to pay attention to detail as a communicator. |
| 4. 学生へのメッセージ |
| Many of our classes run twice a week. In my classes, I will make an effort to share as much as possible and also give you the opportunity to express yourself. That is particularly important when it comes to a language or communication class. Please take advantage of those opportunities. Furthermore, what you do in your own free time outside of class has a bearing on your ultimate success as a communicator. So, please take advantage of the large number of resources at your disposal, including podcasts, radio shows, television shows, movies, and most of all, newspaper articles and books. When you read extensively, your mind becomes more flexible as a ,communicator. Try it, and see. |

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

国際経済経営 学科　　教員氏名 安井 良彰

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1（注意） | | 項目2（関連） | | 項目3（自信） | | 項目4（満足） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| コンピュータリテラシーⅠ［①］ | 44 | 36 | 87.8 | 4.64 | 0.34 | 4.64 | 0.34 | 4.61 | 0.35 | 4.67 | 0.44 |
| コンピュータリテラシーⅠ［③］ | 46 | 30 | 83.3 | 4.33 | 0.62 | 4.37 | 0.57 | 4.27 | 0.60 | 4.40 | 0.51 |
| 数学基礎Ⅰ | 23 | 21 | 100.0 | 4.62 | 0.43 | 4.62 | 0.43 | 4.29 | 0.78 | 4.52 | 0.54 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 単なる使い方や計算方法の解説で終始するのではなく、以下の点を意識した授業内容を心がけている。<br>1. 背後にある原理や概念を出来るだけ丁寧に解説して、単なる丸暗記ではない確実な知識習得を意識させる。<br>2. 現実社会での応用例や社会情勢からくる必要性を出来るだけ紹介して授業の目的を明確にする。<br>3. 毎授業開始時に、その日の授業の目的を宣言し、またその日の授業で最も重要なテーマや身に付けるべきスキルや知識を明確に示す。<br>4. 少し難易度の高い話や専門性の高い話を意図的に加えて、高校までとは違う大学での学びを意識させる。<br>5. 上記1～4を通して「授業内容が分った、理解が深まった」という気持ちにさせることにより授業への参加意欲を高める。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| コンピュータリテラシI[①][③]：クラス①③ともに授業内容は同じで、授業出席者は概ね真剣に授業に取り組んでいた様子から、評価結果は学生さんの取り組み姿勢が反映していると思われる。クラス①に比べてクラス③は平均点および回答率が若干低く、また標準偏差が大きくなる傾向が見られる。この差異については「成績評価に対して」の項目で考察する。<br>数学基礎I：想定以上に評価が高いことに驚いている。内容的にはかなり難易度の高い授業だったと思われる。初めての概念も多数出てきた授業に、最後まで脱落することなく参加していた学生さん達は本当に頑張ったと思う。必死に授業内容を理解しようと頑張っている学生さんが多数参加していたことが、この評価につながっていると考える。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| コンピュータリテラシI[①][③]：今年度より導入されたクォーター制により、クラス①は第1クォーター、クラス③は第2クォーターの開講となったが、この影響がマイナスに働いた可能性は否めない。特に両者の出席率に大きな差異がみられ、いわゆる放棄対象者がクラス③には複数見られた。クラス③の評価や回答率が下がったのは、その影響も大きいと考える。成績評価にも若干の差異が見られる。他の授業はあったといえどもクラス③の学生から見れば、後回しにされた感は否めないので、学生に一方的に責任を負わせることはできない。クォーター制にマッチしているかも含めて再考が必要だと思われる。<br>数学基礎I：理数系の学部ではないことを考えると、少し試験内容の難易度が高すぎた感がある。授業中の小テストなども合わせて総合的に評価したが、もう少し、達成感を感じられる試験内容にすべきだったことは反省点である。今後、改善していきたい。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| インスタントに成功する方法も、努力せずに成功する方法もありません。どんな分野の人でも成功している人は、常に人並み以上の努力を時間をかけて行なっています。「AIを使えば簡単にできる」と考える人もいるかもしれませんが、裏を返せば「AIでもできる事しかできない人間は必要とされなくなる」ということです。世の中で必要とされる人間になるには何をすれば良いか、IPUでしっかり考え行動してください。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

国際経済経営 学科　　教員氏名 伊藤 敦司

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 会社法Ⅰ | 61 | 46 | 88.5 | 4.52 | 0.47 | 4.54 | 0.55 | 4.37 | 0.62 | 4.57 | 0.46 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

現代社会において、企業とりわけ株式会社と無縁な生活は考えられない。企業社会の一員として、（株式）会社の基本的な仕組みやルール等の常識を身につけることは必要不可欠である。そのため、実務界の事例にも論及しながら、身近なわかりやすい講義としたい

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

まだまだ改善し、評価を高めることができたように思われるが、一定の評価を得ることができたのではないかと考える。実務界の事例による学習は学生にも評判がよいので、さらにその方向性を追求していきたい。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

一部出席不良により合格させることができなかったものがいるが、出席できていた学生はおおむね高い評価で合格できていた。これは、毎回授業終了時に小レポートで、その内容を確認するとともに、レポート等の課題提出を求めた成果によるものと思われる。

4. 学生へのメッセージ

将来いかなる方面に進もうとも、企業の仕組みや基本的ルールの理解は不可欠です。学生時代にその基本を押さえておくことは極めて重要です。ゼミ等で指導した学生たちから、卒業後に「学生時代に会社法の授業をもっと一生懸命勉強しておけばよかった。」との声を聴きます。企業取引法も含め勉強しましょう。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

国際経済経営 学科　　教員氏名 古賀 敢人

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 英語Ⅰ［①］ | 16 | 10 | 76.9 | 4.60 | 0.44 | 4.70 | 0.41 | 4.70 | 0.41 | 4.80 | 0.36 |
| 英語Ⅰ［③］ | 14 | 12 | 85.7 | 4.58 | 0.41 | 4.67 | 0.39 | 4.33 | 0.56 | 4.67 | 0.39 |
| 英語Ⅰ［再履］ | 12 | 3 | 42.9 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 |
| 英語Ⅲ［②］ | 40 | 35 | 87.5 | 4.66 | 0.45 | 4.57 | 0.47 | 4.49 | 0.54 | 4.63 | 0.29 |
| 英語Ⅲ［①］ | 30 | 24 | 85.7 | 4.83 | 0.14 | 4.75 | 0.27 | 4.71 | 0.29 | 4.75 | 0.27 |
| TOEICⅠ［①］ | 49 | 35 | 83.3 | 4.54 | 0.36 | 4.60 | 0.30 | 4.20 | 0.90 | 4.51 | 0.36 |
| TOEICⅢ | 20 | 14 | 73.7 | 4.79 | 0.17 | 4.79 | 0.17 | 4.79 | 0.17 | 4.79 | 0.17 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 学生の学習スタイルおよび動機にもとづいた指導 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| 指導した英語科目は高い評価をいただいた。授業外での学生とのコミュニケーションの実施による関係構築のほか、学生の学習意欲に合わせた指導法が功を奏したと思われる。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| 学生の英語レベルを把握するのに、IPテストの全員への実施のほか、均等な評価法を提示したため、学生間での不平が出なかった。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| 皆さんが学びたいものがあれば、それに向けて全力で指導させていただきます。そのために、何をやりたいのか私に教えてください。皆さんの学習スタイルを最大限尊重します。授業外でもコミュニケーションをとりながら、皆さんの求める学校づくりにまい進したいと思います。今後ともよろしくお願いします。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

国際経済経営 学科　　教員氏名 佐々木 庸子

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| プレゼンテーション技法 | 38 | 32 | 91.4 | 4.42 | 0.79 | 4.48 | 0.67 | 4.33 | 0.65 | 4.24 | 1.03 |
| ビジネスマナー | 47 | 43 | 97.7 | 4.48 | 0.61 | 4.39 | 0.74 | 4.30 | 0.75 | 4.34 | 0.86 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

「未知」から「既知」へと至る過程を丁寧かつ分かりやすく説明し、反復・継続的な学習を通して、知識の習得のみならず、自信を持って物事に取り組む姿勢を育むことを目指している。
また、学びを通して新たな興味・関心が芽生え、学生が主体的に学習に取り組める環境づくりに努めている。
知識を一方的に伝えるのではなく、学生一人ひとりの潜在的な能力や個性を見極め、それぞれに適した指導方法を工夫することで、学生の可能性を最大限に引き出すことを大切にしている。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

「プレゼンテーション技法」のリフレクション
プレゼンテーションに必要な発表技術や資料作成能力の習得を目指し、課題を多く設定するとともに、演習を繰り返し実施した。
学生に確かな技術を身につけてほしいという指導側の思いと、学生の学習意欲との間に差が生じていないか懸念していたが、実際には、学生たちは課題を前向きに捉え、意欲的に取り組んでいた。
授業評価においても、資料作成等に自信が持てるようになったとのコメントが寄せられ、反復的な演習が学生の能力向上と自信の獲得につながったことを実感した。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

「ビジネスマナー」のリフレクション
授業評価において、「発表に対する教員からのフィードバックをもっと受けたかった」という意見が見受けられた。
本授業では、教員による一方的な指導に偏ることなく、学生同士が互いの発表を評価し、意見を交換することで、多角的な視点や主体的に考える力を養うことを重視していた。
一方で、学生が教員からの具体的な助言や評価を求めていることも認識できた。
今後は、学生同士の相互評価と教員によるフィードバックのバランスを工夫し、学生が自身の課題や成長をより明確に実感できる授業づくりに努めたい。

4. 学生へのメッセージ

学生へのメッセージ
奥ゆかしく、謙虚であることは美徳ですが、学びの場においては、遠慮することで十分な学びの機会を得られないこともあります。
「しつこい」と思われることを恐れず、分からないことは何度でも質問し、自分の考えや思いを積極的に表現してください。
また、指摘や助言を受けることを恐れず、自らの成長につなげてほしいと思います。
学ぶことに貪欲であってください。その積極的な姿勢が、皆さんの可能性をさらに広げていくと信じています。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

国際経済経営 学科　教員氏名 小川 千尋

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 体育実技Ⅰ［a］ | 34 | 28 | 90.3 | 4.68 | 0.22 | 4.46 | 0.39 | 4.43 | 0.60 | 4.50 | 0.82 |
| 体育実技Ⅰ［b］ | 29 | 26 | 92.9 | 4.81 | 0.23 | 4.81 | 0.23 | 4.50 | 0.40 | 4.77 | 0.25 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 体育実技Ⅰの授業は、学生自身にとって今後の人生における健康を育む「生涯スポーツ」として捉えさせることを目的として進めていった。単に技術の習得や体力の向上を目指すだけでなく、身体を動かし汗をかく中で得られる爽快感、人とのつながりを活かしながら仲間とスポーツに取り組む中で生まれる喜び、そして共同活動を通して育まれる社会性の形成といった、実技ならではの学びを重視した。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| 本授業は1年生を対象としており、大学生活をスタートしたこの時期は、学生が生活リズムを確立していく重要な時期であると考え、今年度は、1Q（4月～6月）における1・2限の授業時間を活用し、週2回の授業として実施した。また、本授業では、多様なスポーツに触れる機会を設け、身体を動かしながら様々なことに挑戦する経験を通して、「身体づくり」と「仲間づくり」に繋げることを目指した。今回の学生評価から、こうした授業のねらいが一定程度学生の学びに繋がったことを確認できた点は、大きな成果であったと捉えている。一方で、全14回という限られた授業時間の中で1種目あたりに確保できる時間には限りがあった。その結果、学生が十分に挑戦し、技能や経験を深める前に次の種目へ移行せざるを得ない場面も生じたことが、項目1・2と比較して項目3・4の評価が低くなった一因であると考えられる。この点については、後期の「体育実技Ⅱ」において、1種目に充てる時間を増やし、継続的に取り組む機会を確保することで補完していき、授業外においても、サークル活動等で継続的に運動できる環境を整えることが重要であると考えている。授業内外の活動を通して、学生が身体を動かす楽しさや仲間と活動する喜びを継続的に経験できるよう、今後の授業改善につなげていきたい。 |

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

体育実技Ⅰの授業においては、「運動能力の高さ＝高成績」とする評価は行っていない。重視しているのは、運動に対して積極的に取り組もうとする姿勢であり、授業への参加状況や活動への取り組みを多角的に評価している。その前提として特に重視しているのが、授業への出席・参加態度である。毎回の授業に出席しているかに加え、運動に適した服装で参加しているか、意欲的に運動へ取り組んでいるか、友人との積極的なコミュニケーションを通して協働的に活動できているか、さらに、自身の課題を主体的に捉え、その解決に向けて取り組もうとしているかといった点を評価している。これらの評価は、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の3観点を踏まえて総合的に行っている。したがって、単に運動技能の優劣や運動能力の高さのみを評価するのではなく、一人ひとりが自身の課題や他者との関わりの中で、主体的かつ協働的に学びに取り組む姿勢を評価することを重視している。

4. 学生へのメッセージ

大学生活を送る中で、早起きをして運動に取り組むことは、時には大変だと感じることもあったと思います。しかし、仲間と一緒に身体を動かす時間は、振り返ってみると、心身ともにリフレッシュできる清々しい時間になったのではないでしょうか。今年度の体育実技Ⅰでは、2クラスに分かれて実施し、多くの学生の皆さんに履修してもらえたことを大変嬉しく思っています。そして何より、授業を重ねるごとに、学生同士が自然と協力し合い、より良い授業を一緒につくり上げていく姿を見ることができたことを嬉しく思います。それは、一人ひとりが授業に向き合い、互いに声を掛け合いながら活動したことで、クラス全体に良い雰囲気が生まれていったからこそだと実感しています。この授業を通して出会った仲間との繋がりが、これからの大学生活における仲間づくりへと広がり、さらには互いに刺激し合いながら学びを深めていくことに繋がっていれば幸いです。皆さんのこれからの大学生活が、さらに充実したものになることを願っています。

# 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

国際経済経営　学科　　教員氏名　上田　隆穂

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1（注意） | | 項目2（関連） | | 項目3（自信） | | 項目4（満足） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 消費者行動論 | 57 | 49 | 90.7 | 4.76 | 0.23 | 4.69 | 0.29 | 4.69 | 0.25 | 4.76 | 0.23 |
| マーケティング総論 | 207 | 152 | 87.4 | 4.26 | 0.73 | 4.22 | 0.62 | 4.10 | 0.80 | 4.24 | 0.65 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 消費者行動論では消費者に関する領域を学ぶことになる。具体的には「人はなぜ・どのように商品やサービスを選び、購入し、使用し、評価し、再購入するのか」について学習するもので、経営学・マーケティング論・心理学・社会学・行動経済学などを横断する学際領域となる。この授業では、消費者行動の基本とその事例を学ぶことを目的としている。理解を深めるために、理論面だけでなく、できるだけで事例を用いて、わかりやすい内容を目指している。この授業では、受講者が、マーケティング総論やマーケティング戦略で対象となる消費者に関する知識を習得し、消費者がどういう状況でどういう判断をするかの意思決定枠組みを理解できるようにしている。　　マーケティング総論では、マーケティングの基本と、事例に基づいた実践について学ぶことを目的としている。理解を深めるために、理論面だけでなく、できるだけで事例を用いて、わかりやすい内容を目指している。マーケティングの内容は、変化のスピードがはやいため、旧来の理論からできるだけ新しい理論や、そして新しい領域を含めて解説する。特に地域活性化等はまだ理論面も十分に確立しているわけではないので、多くの事例を示しながら解説を行い、理解を含めていく。この授業では、学生が、消費者あるいは市場の問題に接したとき、いかなる考え・理論に基づいて対応を考えるかがわかるようにし、 他のマーケティング事例に接したときに、その成功要因が何であるか理解できるようにしていく。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| 消費者行動論においては、マーケティング総論を終えた学年であり、よりマーケティングに関心の高い学生が集まり、理解を深めていけたが、はじめてマーケティングを学ぶマーケティング総論においては、必修ということもあり、マーケティングに関心を持てない学生も含まれていた。それでもなおかみ砕いた、わかりやすいマーケティングの説明を心がけたが、理解を深めることができた学生と関心を持てないままの学生に分かれてしまったかも知れない。万人が関心を持つ授業を心がけているが、なかなか難しいと感じている。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| 消費者行動論においてもマーケティング総論においても、成績は二極化していた。出席、感想文提出、レポート提出を真面目にきちんきちんとこなしていけた学生は、成績においても高評価を受けているが、出席しない学生は出席不足で、感想文・レポートをきちんと出した学生は、少なくとも単位が取れており、しかも評価が高かった。やはり、きちんと出席し、感想文やレポートもまめに提出してほしい。とくにマーケティング総論においては、出席不足が30名以上に上り、感想文・レポートの未提出者が十数名おり、合計で50名以上の学生が単位を落としている。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| 受講する以上、欠席は避け、感想文・レポートは期限までにきちんと出すようにされたい。また質問があれば、ためらわず質問をおこなって欲しい。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

## 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

国際経済経営　学科　　教員氏名　糟谷　崇

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数<br>履修放棄者除く | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 経営学概論 | 206 | 151 | 83.4 | 4.40 | 0.43 | 4.34 | 0.42 | 4.21 | 0.62 | 4.37 | 0.55 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 私の授業では、知識を一方的に伝えることではなく、学生が「なぜそうなるのか」「自分ならどう考えるか」を問い続けることを重視しています。<br><br>特に経営学は、企業や組織についての理論を学ぶだけではなく、社会で実際に起きている出来事と結びつけて考えることで初めて生きた知識になります。そのため、身近な企業や商品・サービス、実際の経営事例、社会の変化などを積極的に取り上げ、理論と現実を往復しながら理解できる授業を心がけています。<br><br>また、生成AIの普及によって、知識そのものを得ることは以前より容易になりました。だからこそ大学では、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、自ら問いを立て、情報を吟味し、異なる考え方を比較しながら、自分なりの結論を導き出す力を身につけることが重要だと考えています。<br><br>経営学概論を、単に経営学の用語を覚える科目ではなく、これから大学で専門的に学んでいくための「考え方の基礎」を身につける科目として位置づけています。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| 授業評価では、「注意」4.40、「関連」4.34、「満足」4.37と比較的高い評価を得ることができました。特に、経営学の理論を身近な企業や商品・サービス、実際の社会現象と関連づけながら説明してきたことが、学生の理解や関心につながったものと考えています。<br><br>一方、「自信」は4.21であり、他の項目と比較するとやや低い結果となりました。授業を理解し、興味を持つことに加えて、学生自身が「経営学の考え方を使って説明できる」「自分の考えを示すことができる」という段階まで到達させることが今後の課題だと捉えています。<br><br>次年度は、一方向的な説明だけでなく、短時間のケース分析や問いかけ、学生同士の意見交換などをさらに取り入れ、「理解する授業」から「自分で考え、説明できる授業」への展開を図ります。また、生成AIについても、単に回答を得るための道具ではなく、自分の考えを深めたり、異なる視点を検討したりするための学習ツールとして活用する方法を授業の中で扱っていきたいと考えています。 |

| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| --- |
| 成績評価については、単なる知識の暗記ではなく、授業で扱った経営学の基本的な概念や理論を理解し、それを具体的な企業や社会の事例に適用して考えることができるかを重視しました。<br><br>学生の答案や課題を見ると、基本的な用語や理論については一定の理解が得られている一方、学んだ知識を使って自分なりに分析し、根拠を示しながら説明する力については学生間の差が見られました。<br><br>今後は、最終的な成績評価だけではなく、授業途中で自分の理解度を確認できる機会を増やすとともに、「何を理解すればよいのか」「どの程度説明できればよいのか」という到達基準をより明確に示したいと考えています。知識の習得、理解、応用、そして自分自身の言葉による説明という段階を意識した授業・評価設計へ改善していきます。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| 経営学概論で学んだ内容は、これから皆さんが大学で学んでいく経営、マーケティング、組織、会計、経済、データサイエンスなど、さまざまな専門分野につながっています。<br><br>授業で覚えた言葉を、試験が終わったら忘れてしまうのではなく、ニュースを見たとき、企業の商品やサービスを利用したとき、アルバイト先で何か疑問を感じたときに、「これは授業で学んだことと関係しているのではないか」と考えてみてください。<br><br>大学での学びで大切なのは、正解を覚えることだけではありません。「なぜだろう」と疑問を持ち、自分で調べ、考え、他者の意見にも耳を傾けながら、自分なりの答えをつくっていくことです。<br><br>生成AIをはじめ、社会やビジネスを取り巻く環境はこれから大きく変化していきます。そのような時代だからこそ、大学4年間を通じて「自分で問い、自分で考え、自分の言葉で説明できる力」を身につけてほしいと思います。経営学概論が、その最初の一歩になっていれば嬉しく思います。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

国際経済経営 学科　　教員氏名 池島 政広

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 経営戦略論 | 130 | 99 | 91.7 | 4.19 | 0.91 | 4.14 | 0.90 | 3.99 | 0.97 | 4.08 | 0.97 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 企業の盛衰を左右する経営戦略について、実際の企業の事例を数多く取上げながら講義していく。海外のグローバルな企業の視察内容を含めて、経営者とのやりとりを紹介する。このような事例を踏まえて、企業の戦略行動を体系的に整理して分かりやすく解説していく。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| シラバスで前もって予習として、授業で討議するテーマを与え、それについて学生と論議する時間を設けている。そして、授業の最後の10分程度を使い、課題を与え、出席表の裏に書いてもらう（小テスト）。その授業の理解度の把握と自らの考えを簡潔に書いてもらうためである。次の授業で、学生の意見に対してフィードバックを行っている。このような進め方で理解度を高め、独自な考えをもつ大切さを知ってもらう。なお、今年から1週間に2回の授業になったので、学生の理解度を把握しながら、後半から次回の授業の簡潔な内容を学生に送っている。いずれにしても、基本的な知識を身につけ、自ら考える力を養っていくことを心がけている。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| 成績評価については、出席状況と共に、前述した毎回の小テストを見る。そして中間レポートについては、論理的な展開や独自な見解を重視している（参考文献がきちんと記載されているかも見る）。期末テストについては、持ち込み不可で記述式を中心に、基本的知識、論理展開の一貫性や独自な見解を見て評価している。成績がSについては、体系的に整理されて、独自な見解を分かりやすく提示、Aについては、理解度が高く、分かりやすく提示、Bについては、ある程度理解されて記載、Cについては、最低限の理解度、Dについては、白紙に近い回答や意味不明な内容であった。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| 世界や日本の動きを大局的に捉え、その中で企業が魅力的な事業開発など新たな価値を創造していく行動について大いに関心を持ってもらいたい。学生自ら主体的に考える癖をつけていただきたい。授業においては、次回の内容を配布しているので必ず見て、前もって予習しておいて欲しい。論議の時間を設けているので積極的に発言をされ、楽しく有意義な授業にしたいものである。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

国際経済経営 学科　　教員氏名 田原 俊司

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 心理学 | 115 | 96 | 99.0 | 4.54 | 0.39 | 4.39 | 0.55 | 4.13 | 0.69 | 4.45 | 0.50 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

私が授業で最も意識していることは、「自ら考える力を養う」「理論と実践の往還を常に行う」「大学を卒業後、自らの心身の管理において、本講義の知見が生かされる」ということです。また、IPUの基本的な考え方でもある「非認知能力の育成・促進」にも心がけました。学生が自ら考える力を養うにあたって、基礎的知識を教授した上で、その基礎的知識に基づき、学生と教員の外言による思考の深化、学生内の内言による思考の深化がはかられる「最近接発達領域」の達成を目指して講義を構成しました。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

注意、関連、自信、満足の各項目において、一定の評価になっていると考えています。学生の中には睡眠障害、鬱、適応障害、双極性障害、社会不安障害、発達障害など多様な精神疾患を発症し、講義内容が非常に疾患に関連するものであるため「辛い」と自己申告する学生や、基礎的内容だけではなくさらに発展的学習を希望する学生がいます。項目1～4の中で、項目3が最も低かったのは、この自らの精神疾患に対する向き合い方を考えようとした反映であると考えています。今後、個別指導を含めて検討していく中で、全体と個人の指導のバランスの取り方をさらに考慮していく予定です。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

成績評価の基準については、90点以上＝S、80～89点＝A、70～79点＝B、60～69点＝B、～59点＝D、1／3以上の欠席＝Fとしました。適切な成績評価を実施できたと考えています。講義に熱心に取り組む学生と熱心ではない学生の二極化が進んだこと、また、講義を受ける当初から精神疾患を自己申告する学生が多数おり、SとFの評価が多くなりました。今後、個別対応により、ストレス関連障害を発症している学生にも、受講しやすい授業を心がけたいと考えています。

4. 学生へのメッセージ

社会人になったとき、社会では言語等による基礎知識を含めた認知能力だけでなく、むしろ対人関係や共感力などの非認知能力を強く求められます。今後とも学びに注力するとともに、本講義の講義内容を実践で生かしてください。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

現代経営 学科　教員氏名 田口 雅弘

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 経済学概論［週2オンデマンド］ | 191 | 139 | 86.3 | 4.19 | 0.69 | 4.15 | 0.69 | 3.97 | 0.82 | 4.13 | 0.82 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 何よりもまず、経済学を身近に感じ関心を持ってもらえるように、わかりやすい説明を工夫すること。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| オンデマンドの授業であり、学生の理解度を探るのが難しく、資料作成、課題設定も試行錯誤であった。学生の授業評価を参考にして、今後も改良していきたい。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| 履修生は入学直後の1年生で、オンデマンド講義に慣れていない学生が多く、特に受講方法に戸惑った留学生が多かったと思う。今後は、受講の仕方や課題の提出方法をもっとわかりやすく句数したいと思う。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| 経済学を学ぶと、モノやカネの流れから社会が見えてくる。経済学概論はさまざまな発展科目の基礎となるので、ここで躓かないようにしっかり学んでほしい。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

国際経済経営　学科　教員氏名　渡辺　亮

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| コンピュータリテラシーⅠ［②］ | 46 | 32 | 84.2 | 4.22 | 0.80 | 4.31 | 0.46 | 4.13 | 0.92 | 4.13 | 0.86 |
| メディア・リテラシー［週2オンデマンド］ | 98 | 62 | 91.2 | 4.11 | 0.99 | 4.11 | 1.05 | 4.02 | 1.19 | 3.95 | 1.19 |
| VR・AR入門概論 | 43 | 30 | 83.3 | 4.35 | 0.87 | 4.16 | 1.17 | 4.06 | 0.83 | 4.16 | 0.97 |
| コンピュータリテラシーⅠ［④］ | 43 | 37 | 90.2 | 4.27 | 0.68 | 4.24 | 0.62 | 4.08 | 0.94 | 4.24 | 0.67 |
| コンピュータリテラシーⅠ［再履］[オンデマンド] | 54 | 28 | 96.6 | 4.36 | 0.87 | 4.32 | 0.86 | 4.32 | 0.93 | 4.36 | 0.94 |
| ドローンの社会応用と演習 | 36 | 28 | 90.3 | 4.34 | 0.78 | 4.14 | 0.81 | 4.21 | 0.92 | 4.24 | 0.80 |
| プログラミング入門(Python) | 66 | 53 | 86.9 | 4.30 | 1.07 | 4.32 | 1.08 | 4.13 | 1.25 | 4.11 | 1.35 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

初学者にとって理解しやすい授業となるよう、専門用語や抽象的な概念については、できるだけ具体例や身近な事例を用いながら説明することを心掛けている。特に、初めて学ぶ内容については、前提となる知識を確認しながら段階的に説明し、学生がどの部分で理解につまずいているのかを意識しながら授業を進めたいと考えている。一方、説明を分かりやすくすることと、授業の達成目標そのものを引き下げることは別である。初学者の理解のための補助的な説明を増やす等は積極的に行うが、学生が習得すべき知識や技能については可能な限り妥協せず、授業科目として設定した到達水準を維持したい。
また、講義を教員から学生への一方向的な知識伝達だけで終わらせず、実際に学生自身が手を動かす機会を積極的に設けることも重視している。特に情報系・実習系の授業では説明を聞いただけでは理解したつもりになってしまう場合も多いため、授業中に演習や操作実習を取り入れ、学んだ内容をその場で確認できるようにしたい。実際に操作し、試行錯誤し、必要に応じて修正する過程を通して、知識を実践的な技能へと結びつけることを目指している。実習の際には、単に提示された手順をそのまま再現するだけではなく、なぜその操作を行うのか、他の方法ではどのような結果になるのかといった点についても考えさせたい。授業内での実習を、操作方法の習得だけでなく、学生自身が課題を整理し、適切な方法を選択するための思考力を養う機会として位置づけている。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

コンピュータリテラシーⅠ：昨年度に比して明らかに学生の学習意欲が高く喜ばしい限りである。単位を落とさない程度に出席している（欠席が4回以下）学生については、概ね好成績を修めている感触がある。一方、講義にPCを持参しない学生が毎回みられることは残念である。ただし、これは学生の怠慢ばかりではなく、充電のためのアウトレット数が極端に少ない教室設備の問題でもある。改善を願いたい。
コンピュータリテラシーⅠ［再履修］・メディアリテラシー：他学科のオンデマンド教材を利用しての講義であった。教材の公開についていくつかの不備があったことは反省し、今後に活かしたい。
VR・AR入門概論：学問的な範囲の広さから、かなり駆け足の講義になったが、紹介した内容については興味をもってもらえたと思う。講義の後半では初歩的な電子工作も行ったが、概ね好評であった。
ドローンの社会応用と演習：あくまで補助要員としての参加であったが、学生は概ね真剣に取り組んでいたと思う。
プログラミング入門：基礎から教える教材のおかげもあり、学生を取りこぼさない講義ができたと思う。一方で、優秀な学生にとってはやや簡単すぎる内容であった。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

コンピューターリテラシーⅠ：毎週の提出課題および期末試験によって評価した。
コンピュータリテラシーⅠ［再履修］・メディアリテラシー：提出課題によって評価した。
VR・AR入門概論：毎週の提出課題および、期末の最終課題によって評価した。
ドローンの社会応用と演習：成績評価者ではないため割愛。
プログラミング入門：教材内の課題提出によって評価した。

4. 学生へのメッセージ

わかりやすい説明を心掛けていますが、最終的には皆さん自身が考え、実践できるようになることが目標です。主体的に取り組んでください。質問が苦手な学生も多いかと思いますが、わからないことはすぐに聞いて解決する習慣をつけましょう。

担当：教務課／大学評価・IR室

## 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

国際経済経営　学科　　教員氏名　都築 智津子

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1（注意） | | 項目2（関連） | | 項目3（自信） | | 項目4（満足） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| ホスピタリティ論 | 76 | 58 | 85.3 | 4.47 | 0.59 | 4.41 | 0.62 | 4.48 | 0.39 | 4.40 | 0.76 |
| キャリアディベロップメントⅠ | 134 | 108 | 91.5 | 4.26 | 0.89 | 4.29 | 0.97 | 4.16 | 0.96 | 4.20 | 1.09 |
| ホテル経営Ⅰ | 46 | 32 | 80.0 | 4.72 | 0.26 | 4.66 | 0.41 | 4.69 | 0.34 | 4.75 | 0.25 |
| サービスビジネス実務論Ⅰ | 20 | 17 | 94.4 | 4.35 | 0.70 | 4.53 | 0.37 | 4.35 | 0.58 | 4.59 | 0.48 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 知識の習得に加えて、学生が社会との接点を意識しながら主体的に学ぶことを重視しています。<br>観光・ホスピタリティ関連科目においては、顧客視点やサービスマインドの理解と実践力の養成を目指し、また、キャリア関連科目においては、自己理解を深めながら将来のキャリア形成について考える機会を提供するように進めました。<br>授業では、講義だけでなく対話や演習を積極的に取り入れ、学生自らが考え、気づき、行動につなげる学習環境づくりを大切にしています。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| 担当した各科目の授業評価は総じて良好であったことが確認でき、関心度・関連性・自信形成・満足度の各項目において概ね4.2～4.8の評価を得ることができました。<br>「ホスピタリティ論」、「ホテル経営Ⅰ」、「サービスビジネス実務論Ⅰ」では、現場事例や実践的な内容が学生の学習意欲の向上につながり、特に「ホテル経営Ⅰ」では全項目で4.6以上の評価を得ることができ、学生が業界への理解を深める機会を提供できたものと考えています。<br>また、「キャリアディベロップメントⅠ」においても、自己理解や将来設計について考える機会として一定の評価を得ることができましたが、キャリア形成は学生ごとの状況や関心に差が大きい領域でもあるため、今後の「キャリアディベロップメントⅡ」や、3年次以降のキャリア系科目については個々の学生にとってより身近で実践的な内容となるよう事例やワークの工夫を継続したいと考えています。<br>今後も学生からの意見を参考にしながら、理解促進と主体的な学びを支援する授業改善に取り組んでいきたいと考えています。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| 「ホスピタリティ論」「サービスビジネス実務論Ⅰ」「ホテル経営Ⅰ」「キャリアディベロップメントⅠ」では、シラバスに示した到達目標に基づき、中間試験・最終試験・課題・授業への参加状況等を総合的に評価したものを、教務ガイド等で規定されている基準に則って、成績評価を実施しました。<br>成績評価の結果から、多くの学生が各科目で求められる基礎知識や考え方を身につけ、概ね到達目標を達成していることが確認できました。また、授業内でのグループワークやディスカッション、振り返り活動を通じて、知識の習得だけでなく、自ら考え、表現する力の育成にもつながったものと考えています。<br>授業評価アンケートにおいても各科目で概ね良好な評価が得られており、授業内容、到達目標および成績評価方法の整合性は概ね確保できていたものと考えています。今後も評価基準の透明性を維持するとともに、学生の学修成果をさらに高められるよう、授業内容やフィードバック方法の改善に継続して取り組んでまいります。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| 授業への積極的な参加と、授業評価アンケートへのご協力に感謝します。皆さんからいただいた意見や感想は、今後の授業改善に活用します。<br>ホスピタリティ、サービスビジネス、ホテル経営、キャリア形成と、それぞれ扱うテーマは異なりますが、授業を通して「相手を理解すること」や「自ら考え行動すること」の大切さを学んでいただけたのであれば幸いです。<br>授業で学んだ知識や考え方を、大学での学びや日常生活、アルバイト、将来の進路選択などさまざまな場面で役立ててください。また、これからもさまざまな学びや経験に積極的に取り組み、自身の可能性を広げていくことを期待しています。 |

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

国際経済経営 学科　　教員氏名 董航

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| T220024 比較文化論 | 8 | 5 | 62.5 | 4.60 | 0.49 | 4.20 | 1.17 | 4.20 | 0.98 | 4.60 | 0.80 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

本授業は「文化とは何か」という根源的問いを出発点とし、自文化を相対化する複眼的視点の養成を目指す。講義による知識伝達に留まらず、比較分析ワークやグループディスカッション、プレゼンテーションといった能動的学習を積極的に導入し、学生の主体的参加を促す。また、LMSやCANVA等のICTツールを活用し、協働的な学びと創造的表現を促進する。多様な文化を尊重する態度を醸成し、地球市民として国際社会に貢献できる人材の育成を授業の柱とする。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

対象者8名中5名（回答率62.5%）から回答を得た。問1「興味・関心」と問4「満足度」はいずれも平均4.60と高く、多くの学生が本授業に肯定的な評価を示した。問2「受講ニーズとの適合」と問3「自信の高まり」は平均4.20と概ね良好だが、問2では「あまり思わない」が1名、問3では「どちらとも言えない」が1名存在し、標準偏差も問2が1.17、問3が0.98と比較的大きい。これは、アクティブ・ラーニングを重視する授業設計と、講義形式での知識習得を期待する学生との間にギャップがあることを示唆している。今後は、初回オリエンテーションで授業の進め方や評価方法をより丁寧に説明し、グループワークの目的と意義を明確に伝えることで、全員が納得して参加できる授業改善に努めたい。自由記述および学習成果の記述はいずれも「なし」であったため、今後は振り返りを促す問いかけや、LMSを活用した小規模なリアクション収集など、学生が意見を表明しやすい仕組みを検討する必要がある。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

本授業の成績評価は、学習意欲20%、クラス共創度20%、中間プレゼン録画30%、最終プレゼン録画30%で構成されている。アンケート結果では、問1「興味・関心」と問4「満足度」が平均4.60と高く、学習意欲や授業への満足感は概ね良好である。一方、問2「受講ニーズとの適合」と問3「自信の高まり」は平均4.20で、標準偏差も1.17、0.98と比較的大きい。これは、プレゼンテーションやグループワークを中心とした評価方法が、一部の学生にとって負担や不安につながっている可能性を示唆する。また、学習成果および自由記述の回答が全て「なし」であったことは、学生が自身の学びを振り返り言語化する機会が十分でなかったことを反映している。今後は、プレゼン動画への個別コメント返却やグループワーク後のフィードバックをより充実させ、評価基準を初回オリエンテーションで明確に示すとともに、ラーニング・ジャーナル等を活用して学生が自己の成長を実感できる仕組みを強化したい。

4. 学生へのメッセージ

「比較文化論」を履修してくださり、ありがとうございました。アンケートでは、多くの皆さんが授業内容に興味・関心を持ち、満足してくれたことを嬉しく思います。異なる意見に触れ、協働して一つの成果を作り上げる経験は、きっと皆さんの将来に活きると信じています。この授業の目的は、答えを暗記することではなく、自文化を相対化し、多様な価値観を尊重する「複眼的な視点」を身につけることです。今後も身近な文化現象に疑問を持ち、比較する習慣を大切にしてください。皆さんの学びが、地球市民として国際社会に貢献する第一歩となることを願っています。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

国際経済経営 学科　　教員氏名 馬場 哲也

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| エアライン・サービス論 | 23 | 20 | 90.9 | 4.10 | 0.99 | 4.05 | 0.65 | 4.10 | 0.69 | 3.95 | 0.95 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 1. パワーポイントにより説明を行い、適宜ストップして詳細説明または質疑応答を行う。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| 1. エアラインサービスの理解の基礎となる、世界地理について主要国については地理的位置、首都名、地点などは必須知識である。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| 1.授業への参加度、中間のまとめ、期末のまとめ、の3項目を指数化して総合評価を行ったが、適正であった。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| 1. 世界地理、日本地理などは観光ホスピタリティ、ホテル業、エアライン業に限らず基本的な一般常識であるので、授業の前提条件としてしっかりと理解・暗記をしておくことが必須である。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

スポーツ科学研究科　　教員氏名 佐野 淳

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| スポーツ科学特論 | 10 | 10 | 100.0 | 4.80 | 0.16 | 4.80 | 0.16 | 4.80 | 0.16 | 4.80 | 0.16 |
| スポーツ運動学特論 | 7 | 7 | 100.0 | 4.71 | 0.20 | 4.71 | 0.20 | 4.86 | 0.12 | 4.86 | 0.12 |
| スポーツ科学研究演習Ⅲ | 9 | 8 | 88.9 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

授業に出席するということは、自分を成長させようとする態度が不可欠です。大学生、大学院生となれば、そのもつ意味はさらに大きなものになります。そういった考えから、私は、授業では、その授業時間内、学生が授業内容に集中してもらいたいと思っています。そうしたことから、授業については、講義、演習等の性格を考えて、それぞれの授業で学生が興味をもてるような内容、展開ができるように努力しなければ、と思っています。ちなみに、私は、「講義」は教員が自分の研究を発表するといった教員主導の授業、「演習」は教員と学生がともに準備してともに授業を作っていく授業、「実験および実技」は、学生がすべきことを理解して、学生主導で行う授業というように考えています。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

授業内容の展開については、可能な限り、分かりやすく、興味をもてるように工夫いたしましたが、さらなる、工夫が必要だと思っています。基本的に、今年は、講義（「スポーツ運動学特論」＆「コーチング学特論Ⅰ（個人種目）」）は、学問的水準を保ちつつ学生が興味をもてるような内容を準備し話をしました。演習では、参加者全員での文献読み（基本的に輪読）を通して、問題点について議論をするなど、学生とのコミュニケーションを深めるような授業はできたと思います。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

授業で身につけてもらいたいと思った「核」となる要素、考え方等については、講義および演習の授業とも、概ね理解されたと思えるような感じではありました。毎時の授業において最後に感想を述べてもらったり、試験としてレポートを書いてもらうなどして、学習内容の到達度を把握するようにし、それに基づいて成績評価を行った。概ね良好な回答および成績ではあったが、しかし、より質の高い学習の場と機会を提供して、学習成果の把握の仕方も工夫したいと思っています。

4. 学生へのメッセージ

自分を成長させようとする前向きな姿勢と、積極的な授業参加の態度を期待します。また、授業中は、常に、授業内容に集中する態度をつくる努力をしてもらいたいと思います。また、毎時の真剣な授業出席の積み重ねは、必ず学生諸君を人間的にも能力的にも成長させ、個人にあった社会貢献の「力」になると思います。そのことを忘れないで、今後の授業参加（出席）をしていただきたいと思います。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

スポーツ科学研究科　　教員氏名 吉岡 利貢

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 運動生理学特論 | 8 | 8 | 100.0 | 4.88 | 0.11 | 4.88 | 0.11 | 4.88 | 0.11 | 4.88 | 0.11 |
| スポーツ科学特論 | 10 | 10 | 100.0 | 4.80 | 0.16 | 4.80 | 0.16 | 4.80 | 0.16 | 4.80 | 0.16 |
| スポーツ科学研究演習Ⅰ | 7 | 7 | 100.0 | 4.86 | 0.12 | 5.00 | 0.00 | 4.57 | 0.53 | 4.71 | 0.49 |
| スポーツ科学研究演習Ⅲ | 9 | 8 | 88.9 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 自身の競技・スポーツ経験と講義内容をリンクさせて学ぶこと、また、それを科学的根拠を踏まえた正しい表現でレポートにすることを求めている。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| 運動生理学特論：独自の教材を使用して学習してもらいながら、修士論文の作成に繋がるよう、自身の競技・スポーツ経験を題材に、適宜、研究論文を引用品がら、各テーマのレポートを作成してもらった。それぞれ主体的に取り組んでくれていたため、その印象を反映した評価であった。 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| 運動生理学特論：それぞれが主体的に取り組んだ結果、非常に高いレベルのレポートに仕上がっていた。したがって、評価も高いものとなった。 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| 大学院では、学んだことをいかにアウトプットするか、そしてアウトプットに対する他者からの批判・評価が、自身の成長につながります。引き続き、主体的な学びとアウトプットを続けていってください。 |

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

スポーツ科学研究科　　教員氏名 上野 耕平

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| スポーツ心理学特論 | 9 | 9 | 100.0 | 4.89 | 0.10 | 4.67 | 0.22 | 4.67 | 0.22 | 4.89 | 0.10 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

本授業ではスポーツ心理学で扱われている様々な研究テーマに関して，1)近年注目されている研究テーマ，2)古くから継続して扱われてきた研究テーマ，3)学生が興味を寄せる研究テーマの3つの軸をもとに授業を展開している。近年注目されている，イップスや体罰・スポーツハラスメントなどのテーマについて理解することも大事であるが，古くから多くの研究者が興味を示すスポーツ選手のパーソナリティ発達やバーンアウト，競技引退などの問題と合わせて理解することで，問題の背景にあるスポーツを取り巻く状況にも目を向けることができると考えられる。さらにメンタルトレーニングやシェアードリーダーシップなど，大学でのスポーツ活動場面におけるチームや個人の実力発揮に関わるテーマに対してはより関心があると予想される。それぞれの研究テーマについて学ぶなかで，受講者の研究及びスポーツ実践の双方に役立てて貰いたいと考えている。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

授業評価の結果から，授業への関心は4.89という値となっており，スポーツ心理学に対する関心の高さが窺えた。それに対して授業への満足度も4.89となっており，関心の高さに見合った分だけの満足感は得られたのではないかと予想される。一方で，授業の受講ニーズとの合致度及び，授業後の自信の高まりは4.67と高い値ではあるものの，先の質問への回答よりも若干低い値になっている。受講学生の受講ニーズに合わせたテーマを取り入れること，さらに彼らの自信を高められるよう授業内容を調整することにより，これらの値についても今後さらに改善できるのではないかと考えられる。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

4. 学生へのメッセージ

今年からオンライン，オンデマンド併用という授業形態となったこともあり，受講学生間のコミュニケーションに少し戸惑った部分もありますが，受講してくれた学生は総じて熱心に取り組んでくれていたと思います。大学院の授業では，一つのテーマに対して他の受講者がどのような意見を持っているのかについて知ることが大きな学びに繋がります。来年以降も受講者間のコミュニケーションを重視した内容にしたいと考えていますので，是非受講して欲しいと思います。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

スポーツ科学研究科　　教員氏名 真田 久

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| スポーツ科学特論 | 10 | 10 | 100.0 | 4.80 | 0.16 | 4.80 | 0.16 | 4.80 | 0.16 | 4.80 | 0.16 |
| スポーツ文化特論 | 4 | 4 | 100.0 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 |
| スポーツ科学研究演習Ⅰ | 7 | 7 | 100.0 | 4.86 | 0.12 | 5.00 | 0.00 | 4.57 | 0.53 | 4.71 | 0.49 |
| スポーツ科学研究演習Ⅲ | 9 | 8 | 88.9 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

受講生が複眼的な視点から物事を分析できるようにすることと社会へ貢献できるよう社会との接点を模索できるようになるよう心がけている。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

スポーツ科学特論（オムニバス 4.80）、スポーツ文化特論（5.0）、スポーツ科学研究演習Ⅲ（5.0）は非常に高い評価で、良い授業内容であったと思う。スポーツ科学研究演習Ⅰについて、項目3が4.57と他に比べて低かったので、担当教員に周知して、より丁寧で自信を持たせるように配慮する必要があれば、そのようにしたい。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

全ての受講生はほとんど出席していたこと、授業中のディスカッションも活発であり、試験やレポートも良かったことから、成績はSおよびAがほとんどであった。受講生数は「スポーツ科学特論」が一番多く10人であった。

4. 学生へのメッセージ

大学院の授業は学部と違い、ディスカッション形式で進むので、論理的に自分の意見をまとめられるようにトレーニングすることと、関心のあることを常に意識しながら授業に臨むようにすると、ディスカッションが深まっていくので、これらのことを心がけていただきたい。

担当：教務課／大学評価・IR室

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

スポーツ科学研究科　　教員氏名 西嶋 尚彦

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| 身体活動情報分析学特論 | 11 | 11 | 100.0 | 4.82 | 0.15 | 4.82 | 0.15 | 4.55 | 0.43 | 4.73 | 0.38 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学(または授業方針) |
| --- |
| 身体活動から測定される情報を分析する実践力, 自分の専門スポーツに関わる身体活動情報に関する観察力, 関連分野を含めた最先端の情報分析手法と研究動向の調査力, および研究技術に対する学習意欲を引き出す. 特に, 2026年度は生成AIの発展が著しく, 研究実践の新しいテクニカルスキルを獲得するために, 生成AI活用を実践する. |
| 2. 科目別の振り返り ※授業評価に対して |
| 大学院の授業に対して高いモチベーションを持っていたことが良かった. 主として, 最先端の研究情報と基礎となる知識とロジックについて教授したことの教育効果であることが推察される. |
| 3. 科目別の振り返り ※成績評価に対して |
| 成績評価方法は達成度評価であり, 研究実践の初学者であるすべての受講院生が教育目標に到達するように, 授業内容を構成し, 逐次的に展開し, 累積的な教育成果の達成度(到達度)が高いことが推察される. |
| 4. 学生へのメッセージ |
| 大学院で受講した授業を契機に, 研究室でのオンザジョブトレーニングをキックオフし, 研究の実践力を習得して頂きたい. 同様に, トップランナーの心構えから, 自分が専門とするスポーツの競技力向上過程にサイエンスを組み入れ, 自分を対象者とする実験, 変化の観察, データの蓄積, 統計学的データ分析, 変化・成長の因果関係の発見などの局面から構成される取組みを実践し, サイエンスベースのトレーニング生活を確立して頂きたい. |

担当:教務課／大学評価・IR室

## 2026年度前期授業　リフレクション・ペーパー

スポーツ科学研究科　　教員氏名　浅井　武

1. 担当科目と授業評価　※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1（注意） | | 項目2（関連） | | 項目3（自信） | | 項目4（満足） | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| スポーツ科学特論 | 10 | 10 | 100.0 | 4.80 | 0.16 | 4.80 | 0.16 | 4.80 | 0.16 | 4.80 | 0.16 |
| スポーツバイオメカニクス特論 | 8 | 8 | 100.0 | 4.75 | 0.19 | 4.75 | 0.19 | 4.63 | 0.23 | 4.88 | 0.11 |
| スポーツ科学研究演習Ⅰ | 7 | 7 | 100.0 | 4.86 | 0.12 | 5.00 | 0.00 | 4.57 | 0.53 | 4.71 | 0.49 |
| スポーツ科学研究演習Ⅲ | 9 | 8 | 88.9 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

| 1. 私の授業哲学（または授業方針） |
| --- |
| 単なる数値や数式の理解にとどまらず、そのバイオメカニクス的データが『実際の指導現場（コーチング）でどのようにパフォーマンス向上や傷害予防に還元できるか』を常にリンクさせて考える。ハイスピードカメラによる動作解析や流体解析（風洞実験・CFDなど）を用い、感覚のなかに埋もれている『見えない力学的現象』を視覚的・科学的に捉え直し、運動の本質的なメカニズムを追求する。既存のスポーツ常識や定説を鵜呑みにせず、『なぜそのエラーが起きるのか』『この弾道の背景にある流体力学的な要因は何か』という独自の問いを立て、科学的エビデンスを構築するプロセスを重視する。 |
| 2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して |
| スポーツ科学特論「全項目（項目1～4）において、平均値が4.80、標準偏差が0.16と完全に一致する極めて高い評価を得た。受講生全員が、授業への動機付け（注意・関連・自信・満足）を同等に高く維持できたことを示していると推測される。特論としての専門性と、院生の興味・関心のベクトルが合致した結果と思える。次年度もこの講義水準を維持しつつ、最新のスポーツ科学の動向を適宜アップデートして提供する。」<br>スポーツバイオメカニクス特論「「項目4（満足）が4.88（標準偏差0.11）と最高評価である一方、項目3（自信）は4.63（標準偏差0.23）と他項目に比べ僅かに低く、ばらつきが見られた。バイオメカニクス特有の流体力学や数理的アプローチに対し、一部の院生が『内容を完全に習得できたか』という自己効力感（自信）において、わずかな不安や難しさを感じた可能性が示唆される。次年度は、数式や理論の解説時に、より丁寧なフォローアップや視覚的な可視化（CFDやハイスピードカメラ映像の活用）を強化し、理解への『自信』を底上げするアプローチを試みる。」 |
| 3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して |
| スポーツ科学特論「項目3（自信）および項目4（満足）が共に4.80、標準偏差0.16と非常に高い水準で安定している。本講義ではシラバスで示した成績評価基準（課題レポートおよび講義内での議論への貢献度）を厳格に適用したが、受講生全員が評価方法に高い納得感（満足）を持ち、自らの到達度を正確に自覚（自信）できたと評価できる。評価基準の客観性と透明性が担保されていた証左であり、次年度もこの評価体制を維持する。」<br>スポーツバイオメカニクス特論「項目4（満足）が4.88と最高水準である一方、項目3（自信）は4.63（標準偏差0.23）と僅かに低く、ばらつきが見られた。バイオメカニクス特有の流体力学や数理モデルを用いた課題・成績評価において、計算や理論の習得度により、学生間で『自らの成果に対する確信（自信）』にわずかな差が生じたと分析できる。ただし、最終的な評価への納得感（項目4）は極めて高いため、評価基準自体への不満ではなく、課題の難易度に対する心理的障壁が要因と考えられる。次年度は、成績評価に直結する中間課題でのフィードバックをより丁寧に行い、最終評価に向けた学生の手応え（自信）を補完したい。」 |
| 4. 学生へのメッセージ |
| 全員が『自身の研究との強い関連性』を模索しながら受講してくれたことを嬉しく思います。研究のスタート期であるため、計画の構築や手法の習得において個々に手応え（自信）のばらつきや不安が生じるのは健全なプロセスです。焦る必要はありません。提示したマイルストーンに沿って、一つひとつ科学的エビデンスを積み上げていきましょう。 |

# 2026年度前期授業 リフレクション・ペーパー

スポーツ科学研究科　　教員氏名 友添 秀則

1. 担当科目と授業評価 ※オムニバス科目は主担当のみ表示

| 担当科目名 | 履修者数（履修放棄者除く） | 回答数 | 回答率 | 項目1(注意) | | 項目2(関連) | | 項目3(自信) | | 項目4(満足) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 | 平均値 | 標準偏差 |
| スポーツ科学特論 | 10 | 10 | 100.0 | 4.80 | 0.16 | 4.80 | 0.16 | 4.80 | 0.16 | 4.80 | 0.16 |
| スポーツ倫理学特論 | 6 | 6 | 100.0 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 |
| スポーツ科学研究演習Ⅰ | 7 | 7 | 100.0 | 4.86 | 0.12 | 5.00 | 0.00 | 4.57 | 0.53 | 4.71 | 0.49 |
| スポーツ科学研究演習Ⅲ | 9 | 8 | 88.9 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 | 5.00 | 0.00 |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

2. 授業のリフレクション

1. 私の授業哲学（または授業方針）

私の授業哲学の根底には、スポーツを単なる技術習得ではなく、文化・社会・人間形成の観点から捉え直す姿勢がある。その本質は「当たり前」を疑う批判的思考にあり、勝利至上主義やハラスメントなどの構造的問題や歴史的・倫理的背景に光を当てることで、スポーツの表裏を客観的に可視化する眼を養いたい。また、ルールに守られた限定的な世界だからこそ経験できる他者との連帯や成長を通じ、フェアネスやリスペクトといった倫理観が現代社会の多様性とどう接続するかを深く考察させることも目指している。単なる知識の暗記にとどめず、講義で得た人文・社会科学的知を「これからのスポーツ環境や社会をどう変革すべきか」という自らの言葉と理論へ昇華させ、現場の課題解決へと結び付ける「実践知」を養うことこそが授業の核と考えている。

2. 科目別の振り返り　※授業評価に対して

スポーツ科学特論の私の担当分では「体育学」と「スポーツ科学」の歴史的背景や概念的相違を体系的に考察した。特に、これまで混同されがちだった「体育」と「スポーツ」の本質的な違い や、スポーツインテグリティを脅かす現代の倫理的諸課題について客観的に捉え直す視点を提供した。単なる実践や技術論にとどまらず、倫理学や教育学などの人文・社会科学的知を用いてスポーツ現象を批判的に考察することの重要性を受講生は身に付け、高い評価を得たと考える。また、スポーツ科学研究演習Ⅰ、スポーツ科学研究演習Ⅲでは、受講生はそれぞれの修士論文を書くための知識・技能やそれらをもとにしたディスカッションで思考・判断・執筆技法を学ぶことができたことで、こちらも高い評価を得たと考えられる。

3. 科目別の振り返り　※成績評価に対して

現代スポーツにとってスポーツ倫理学的考察は必須であるが、『スポーツ倫理学特論』は高度なスポーツ倫理の難問を基礎的な倫理学的方法論を身に付けながら、深い考察を深められるように授業を構造化し理解できるようにしたことで、深い学びが得られたと思う。授業評価も極めて高い配点を得た。

4. 学生へのメッセージ

スポーツを歴史・倫理・社会の視点から多角的に解き明かす学びは、勝利至上主義などの「当たり前」を疑う批判的思考を養い、解き明かした知をこれからのスポーツや社会の課題解決へと活かす確かな実践知を育みます。

担当：教務課／大学評価・IR室